

ベルニナユーザーの皆様へ



この度はベルニナマシンをお買い上げ戴き誠に有難うございます。ベルニナマシンは、これから長年に渡ってあなたの信頼にお応えして行くことでしょう。100年以上にわたって、私の家族はユーザーにご満足頂ける製品を作り続けてまいりました。私は、精密な、完成度の高い、将来を見据えたソーイングテクノロジーに培われて作り出されたスイスのマシンを、行き届いたカスタマーサービスと共に、あなたにお届け出来ることを誇りに思っております。

ベルニナ7シリーズは3機種からなる超現代的なマシン製品です。最高の品質を作り出すのに必要とされる最高級のテクノロジーの要求に応えることは勿論、私たちはデザインにも最高のものを追求し、クリエイティブで使い易い高性能を実現しました。芸術性のあるデザインを敏感に感じ取られる皆様にご満足いただける製品と自信を持ってお届けいたします。

あなたのBERNINA780で、また www.bernina.comを訪問して新しいアクセサリーやいろんな情報も入手して、. クリエイティブなソーイング、刺しゅう、キルティングをお楽しみください。当社のホームページでは、ダウンロードして楽しんでいただけるいろんな新しい情報や作品の作り方などを無料でご用意して皆様のご訪問をお待ちしております。

経験豊富なベルニナ正規販売代理店が皆様のアフターサービスをご担当いたしますので、ご安心してお使いください。

皆様がこの新しいベルニナマシンで無限のクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう、心から願っております。

H.P. Ueltschi
オーナー
ベルニナ・インターナショナル株式会社
CH-8266 Steckborn, Switzerland
www.bernina.com

安全にご使用いただくために

重要事項

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

ご使用になる前に必ずミシンと刺しゅう機に関する全ての説明をご一読ください。

ミシンを使わないときは、プラグをコンセントから抜いておいて下さい。

⚠ 危険!

電氣的な危害を防ぐために:

1. プラグをコンセントにつないだままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。
3. LEDライト放射光:光学機器などを使って、ライトを直接見ないようにして下さい。こちらはクラス1MのLED製品です。

⚠ 警告!


火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。ベルニナ社がお薦めする付属品やアクセサリ以外のご使用にならないで下さい。
2. お子様の玩具としてご使用にならないように。小さなお子様や病弱な方の近くでご使用になる時は、特別の注意を払って下さい。当製品は、身体的または精神的障害のある方、経験および知識に欠ける方達(子供を含む)が単独でお使いいただける製品ではありません。必ず保護者あるいは責任のある監督及び指導に従ってご使用下さい。
3. 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい。
 - ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
 - ミシンが正常に作動しないとき。
 - 落としたり、損傷したとき。
 - 水の中に落としたりしたとき。このような場合には、お買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。

4. ミシンの通気孔をふさいだ状態で使わないで下さい。また常に、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まっていないことをお確かめください。
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の周りでは、細心の注意を払って下さい。
6. 製品の隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
7. 戸外では使用しないで下さい。
8. 酸素ガス等や引火性のあるスプレーを使用している場所では使わないで下さい。また酸素ガスを扱う場所でのご使用は避けて下さい。
9. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりしないように。そのような行為は針をいため、針折れの原因となります。
10. 曲がった針は使用しないで下さい。
11. 常にベルニナ純正品の正しい針板をご使用ください。間違った針板をお使いになると針折れを発生させます。
12. ミシンを電源から切り離すときは、まず電源スイッチをオフ「0」にしてから電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードを引っ張らないで、プラグを掴んで引き抜いてください。
13. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切ってください。
14. 注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
15. ミシンは二重に絶縁されています。ミシンの修理には、必ず専用の部品を使って下さい。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

二重絶縁構造- 製品のサービスに関して

二重絶縁構造の製品には、アースを取る方法の変わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品には、アースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品の修理・サービスには極度の注意と知識を要します。資格を有するサービス担当者によるサービスのみお受けください。二重絶縁構造の製品の交換部品は製品に使われているオリジナルの純正部品と同一のものでなければなりません。二重絶縁構造の製品には「DOUBLE INSULATION」または「DOUBLE INSULATED」と表記されています。

製品には、二重絶縁構造のシンボルマーク  もまた表示されています。

ご注意!

当製品の誤った使用によって生じた損害については、当社は責任を負いません。
当製品は、家庭用ミシンです。
当製品の電磁気許容量に関しては the European Standard 2004/108/EC に準じるものです。

使用説明書は大切に保管しておいてください!



最新の説明書は www.bernina.com で入手できます。

環境保護について



環境保護について ベルニナ社は環境保護に準じることを宣言しています。私達は製品の製造に当たっては製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。

当製品がご不要になった場合には、お住まいの国の環境基準法に準じた方法で処分していただけますようお願い申し上げます。家庭用ごみとして廃棄しないようご注意ください。ご不明な点があれば、お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談ください。



ミシンを長期間に渡り厳寒の部屋の中に放置していた場合は、お使いになる1時間くらい前に暖かいお部屋に移してから使い始めてください。

ソーイング目次

安全にご使用いただくために	2	セキュリティプログラム	27
環境保護について	3	● 画面	27
記号の説明	8	● 針を選ぶ	27
用語解説	8	● 針板を選ぶ	27
ブレットクラム ナビゲーション	8	● 保存	27
アクセサリ	9	針一覧表	27
標準アクセサリ	9	● 針を選ぶ	27
押え金	10	押え金を選ぶ	28
スタンド式アクセサリボックス	11	● 画面	28
ミシンの各部名称	12	● オプションの押え金	28
前面	12	● 保存	28
細部拡大	12	● 標準の設定に戻すには	28
ソーイングに関する重要事項	14	押え圧の調節	29
糸	14	● 厚地、例えばキルティングするとき	29
針と糸と布の関係	14	● 押え圧を記憶させる	29
針、糸	15	● 標準の設定に戻すには	29
● 正しい針と糸の組み合わせ	15	送り歯と布送りの関係	30
● 細い糸に太すぎる針の組み合わせ	15	押え金を下げる/縫い始めます	30
● 太い糸、または細すぎる針	15	機能	32
針の一覧表	16	«機能»ボタンの一覧	32
ソーイングの準備	17	● «スタート/ストップ»ボタン	32
電源スイッチおよび電源コード	17	● «押え金上下»ボタン	32
マグネット式タッチペンホルダー	17	● «自動糸切り»ボタン	32
フットコントローラー	17	● «返し縫い»ボタン	32
ソーイングテーブル	18	● «模様頭出し»ボタン	32
● 布ガイド	18	● «針上下»ボタン	32
押え上げレバー	18	● プログラム式«模様縫い/留め縫い»ボタン	32
垂直糸立て棒(折りたたみ式)	19	● スライド式スピードコントロール	32
下糸を巻く	20	● «自動留め縫い»ボタン	33
● ソーイング中の下糸巻き	20	● 振り幅、送り長さ調節つまみ(多機能つまみ)	33
ボビンをセットする/下糸を掛ける	21	● «針基線»ボタン	33
● ボビンをボビンケースから取り出す	21	● 針上停止と«返し縫い»ボタン	33
ボビンケースの脱着	21	● 針下停止と«返し縫い»ボタン	33
上糸を掛けます	22	画面	34
針の交換	22	主画面の説明	34
二本針の糸通し	23	● システムの設定	34
三本針に糸を掛ける	23	● 外部機能/一覧	34
針に糸を通す	24	● メニュー選択画面	34
押え金の交換方法	24	● 選択	35
針板	25	● ステッチパターン選択ボタン	35
● 針板上のマーキング	25	● ステッチの表示	35
● 針板を取り外す	25	機能 - 画面	36
● 針板を取り付ける	25	ミシン機能一覧	36
糸調子	26	機能の説明	36
● 上糸テンションを調節する	26	機能ボタンに関して	38
● 上糸テンションを記憶させる	26	文字機能に関して	39
● 標準設定に戻す	26	コンビモード機能に関して	40
		セットアッププログラム	44
		«セットアップ»画面一覧	44
		ソーイング機能の設定	45
		● 上糸テンションの設定	45
		● スピードコントロール	45
		● 留め縫い機能のオン/オフ	45
		● «機能»ボタン/«機能»アイコンの設定	46

● 押え金のホバーリング位置	46	エコモードに関する説明	62
● 自動留め縫いプログラム	46	● エコモードを起動する	62
● 自動糸切り	46	● エコモードを解除するには	62
● 押え金を上げる	46	各種実用縫いステッチ	64
● 自動糸切りと留め縫い	46	実用縫いステッチの一覧	64
● 針下停止機能と押え金の位置	47	ステッチパターンを選ぶ	66
● <<返し縫い>>ボタンの設定	47	● 直接選択-方法1	66
● <<留め縫い>>ボタンの設定	47	● 直接選択-方法2	66
刺しゅう機能の設定	48	● ステッチ番号で選択	66
● 刺しゅう枠の位置ズレを調整する	48	● キャンセル	66
● 布地の厚さ	49	各ステッチのカスタマイズ	67
● 留め縫いのオン/オフ	49	ステッチメモリー	67
● 自動糸切り	49	恒久パーソナルメモリー	68
パーソナル画面の設定	50	ステッチの幅と送りを変更する	69
● ウェルカムメッセージ	50	実用縫いの適用例	70
● ウェルカムメッセージの削除	50	直線縫い	70
● ウェルカムメッセージを訂正するには	50	トリプル直線縫い	70
センサー機能	50	トリプルジグザグ縫い	71
● 上糸/下糸センサー	50	ファスナー付け	72
シグナル/操作音の設定	51	マニュアル式の繕い縫い	73
● ステッチパターン、機能、BSRを選択する	51	自動繕い縫い	74
ミシンの設定	51	補強つくり縫い(自動)	75
● 言語の選択	51	補強繕い縫い	75
● 画面表示の設定	52	縁かがり縫い	76
● 画面のズレの調整	52	ダブルオーバーロック	76
● 工場標準設定	53	布縁をトップステッチ	77
クリーニングとアップデート	54	まつり縫い	78
● ボタンホール押えNo.3Aの感度を調整します	54	フラットヘム	78
● アップデート	54	留め縫いプログラム	79
● 糸切り装置の周りをクリーニングします	55	しつけ縫い	79
● ミシンと刺しゅう機の注油	55	フラット縫い	80
● 刺しゅう機のアームを待機/収納位置にセットします	55	高さ調節板の使い方	81
インフォメーション	56	コーナーの縫い方	81
● バージョン情報	56	ボタンホールに関して	82
● 代理店情報	56	ボタンホールの一覧	82
● サービスデータ	56	ボタンホールで重要な事	83
チュートリアル	57	● マニュアルボタンホールの印のつけ方	83
チュートリアルに関して	57	● 自動ボタンホールの印のつけ方	83
クリエイティブコンサルタント	58	● はと目ボタンホールの印のつけ方	83
クリエイティブコンサルタントの一覧	58	● 試し縫い	83
ソーイング手法とお勧めの一覧	58	● 穴かがり幅を調節するには	83
クリエイティブコンサルタントを閉じるには	58	● 送り長さを変えてみる	83
ヘルププログラムに関して	59	ボタンホール用芯地	84
● ステッチパターン	59	ボタンホール芯紐の効果	85
● 機能	59	● 理想的な芯紐のタイプ	85
● ヘルププログラムを閉じるには	59	● 自動ボタンホール押えNo.3Aで芯入りボタンホールを縫う	85
バランス機能について	60	● ボタンホール押えNo.3C (オプション)で芯入りボタンホールを縫う	85
実用縫いと飾り縫いステッチ	60		
● 調節方法	60		
● 横送りパターンのバランス調節	60		
● 縦方向の調節	61		
● 横方向の調節	61		
● 標準設定に戻すには	61		

● 芯紐の始末方法	85	● 二種類のBSRモード	106
● シームリッパーを使ってボタンホールを開ける	85	● 準備	107
● ボタンホールカッター(オプション)を使ってボタンホールを切り開く	85	● 押え底を取り外すには	107
● 押え底を取り付ける	107	● BSRモードでの各種機能	108
送りバランス	86	● 針下位置停止(標準設定)	108
● 調節ダイヤルを使ってバランスを調整する	86	● 針上位置停止	108
● 直接入力ダイヤルではと目とラウンドボタンホールのバランスを調節します	86	● 針を上げる、または下げる	108
● はと目ボタンホールとラウンドボタンホールのバランス	86	● «スタート/ストップ»ボタンで留め縫い(モード1のみ)	108
● マニュアル(手動)の標準ボタンホールのバランス	86	● 留め縫い機能(モード2のみ)	108
● ステッチカウント方式ボタンホールのバランス	86	● フリーモーションキルティング(モード2のみ)	108
● バランスをクリアーする	86	● BSRをオンにしないでフリーモーションキルティング	108
ボタンホールをプログラムする	87	● 警告音をオン/オフにするには	109
自動の標準、伸縮地用ボタンホール	87	● セットアッププログラムのBSR警告音アイコンを選ぶ	109
サイズ直接入力の自動ボタンホール	88	● «BSR»画面でBSR警告音を選ぶ	109
ボタンサイズの測定と自動ボタンホール	88	● BSR機能をオンにする	110
自動ラウンド、はと目ボタンホール	89	● BSR機能を«スタート/ストップ»ボタンでオフにする	110
三角バータックボタンホールと飾り三角バータックボタンホール	90	● BSR機能を停止させる	110
ヘアローム(伝統的)ボタンホール	91	ベルニナデュアルフィード(上送り機能)	111
ステッチカウント式ボタンホール	91	● お薦めの押え金	111
ボタンホールを記憶する	92	● ベルニナデュアルフィードに切り替えるには	111
7または5ステップ手動ボタンホール	94	● ベルニナデュアルフィードを格納するには	111
ボタン付けプログラム	95	各種布地	112
アイレットを縫うには:	96	文字	113
飾り縫い	97	文字に関して	113
飾り縫いの一覧	97	● 文字列	113
適用	97	● 完璧なステッチを縫うには	113
テーバーステッチ	98	文字列を作る	114
● 角度を変えるには	98	● 次の文字を選ぶ	114
● セクション2の長さをプログラムする	99	● 画面の拡大表示	114
● セクション2の寸法をmmで直接入力する	99	● 訂正するには	114
● セクション2の長さをマニュアルで設定	99	組合わせたステッチ/文字を訂正するには	115
● 戻る	99	● 文字の挿入	115
飾り縫いの使い方例:	100	● 文字を削除するには	115
クロスステッチ	100	文字と機能の組み合わせ	115
ピンタック	101	● 小文字を選ぶには	115
ボビンマジック	102	● フォントサイズを変える	115
キルトステッチ	103	モノグラム	116
キルトステッチの一覧	103	● モノグラムのサイズ	117
キルトステッチの適用例	104	● バランス機能	117
手縫い風キルトステッチ	104	パーソナルプログラムについて	118
フリーモーションキルティング	105	パーソナル画面を作るには	118
BSR (ベルニナステッチレギュレーター)	106	ステッチパターンを準備する	118
BSRでキルティング	106	● 最初のステッチをプログラムして保存する	118
● BSRの機能	106	● 二番目のステッチをプログラムし保存する	119
● BSR機能を直線縫いNo.1で使う	106	● パーソナルプログラムからステッチを選ぶ	119
● BSR機能をジグザグ縫いNo.2で使う	106	● パーソナル画面	119
		ステッチパターンの変更と上書き	120
		ステッチパターンを削除する	121
		コンビモードに関して	122
		ステッチパターンのコンビネーションを作る	122
		● プログラムと保存	122
		ステッチパターンを削除するには	123
		● ステッチの削除	123
		● コンビネーションを削除する	123

コンビネーションの一覧	123
保存されたステッチコンビネーションを開く	124
ステッチコンビネーションを修正する	125
● ステッチを挿入する	125
● ステッチを加工する	125
● コンビネーション中で送り長さを変える	125
● コンビネーション中で振り幅を調節する	126
● コンビネーション全体を反転させる	126
● コンビネーションの分割 1	126
● コンビネーションの分割2	126
● コンビネーション中の各ステッチパターンを移動する	127
● コンビネーション中の複数のパターンを移動する	127
● コンビネーション中の各ステッチを多方向に縫う	127
● コンビネーション全体を多方向に縫う	127
ステッチコンビネーション	128
● 上書き	128
● 削除	128
ステッチの履歴	128
刺しゅうの部一目次	129-130
クリーニング	181-182
トラブルシューティング	183-187
ステッチパターン	188-198
刺しゅうモチーフ	199-209
文字	210
索引	211

記号の説明



危険!

最重要事項!
怪我の危険性あり!

ご注意!

最重要事項!
損傷の危険性あり!

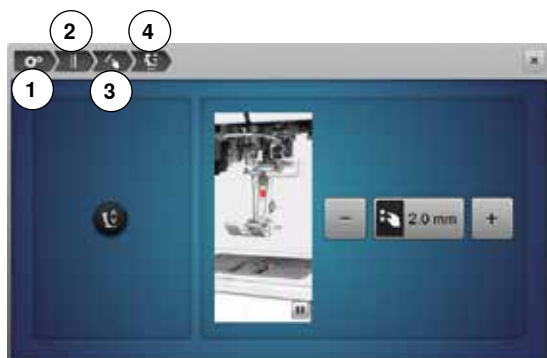


ヒント!

用語解説

バランス	布地により発生する不規則なステッチパターンの形状
ベルニナUSBメモリー	持ち運び可能な記憶装置
折り目	布地を折り返した折り山
BSR	ベルニナステッチレギュレーター。特定のスピードで、自動で安定した縫い目のキルティングステッチを生み出します。
clr	クリア:設定を解除、またデータを取り消します。
釜の剣先	上糸の輪を«すくい», 下糸と絡ませて一つのステッチを生み出す重要な部品
LMS	ボタンホールの長さ自動測定機能
メモリー	恒久メモリー
サテンステッチ	送り長さの小さなジグザグ縫い
バータック	ボタンホールの環留め

ブレットクラム ナビゲーション



- 1 セットアッププログラムが選択されています。
 - 2 縫いの設定が選択されています。
 - 3 ファンクションボタン/ファンクションアイコン設定が選択されています。
 - 4 押えのホバーリング位置設定が選択されています。
- 1-3のそれぞれのアイコンを選択すると、選択した項目の画面が表示されます。

無断転載禁ず

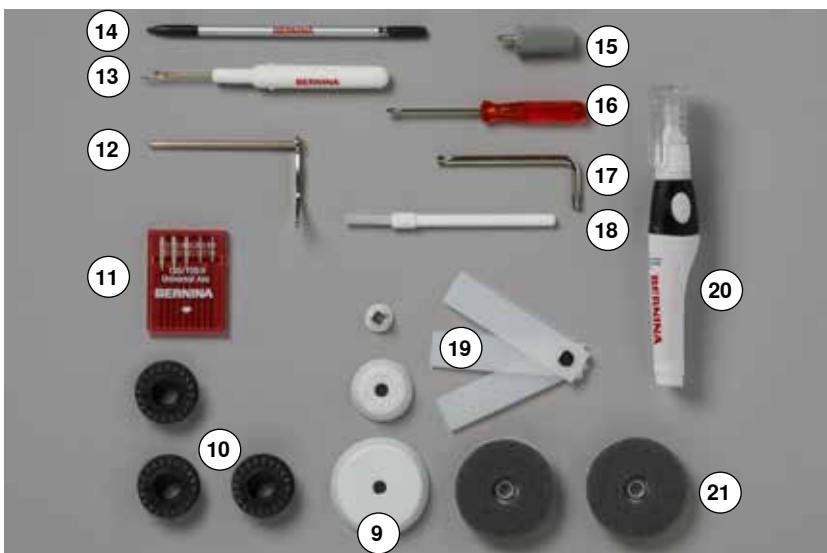
技術的な理由により、また製品の改良の為に、ミシンの機能、部品、アクセサリ等が予告なく変更、改良されることがあります。付属品の仕様は国により異なります。

アクセサリ

標準アクセサリ



- 1 押え上げレバー
- 2 フットコントローラー
- 3 ポケット付ソフトカバー
- 4 アクセサリーボックス
- 5 電源コード
- 6 ソーイングテーブル用布ガイド
- 7 直線縫い/カットワーク用針板
- 8 ソーイングテーブル



- 9 糸こまカバー3種類
- 10 ボビン4個(一個はミシンに装着)
- 11 標準針セット
- 12 キルティングガイド
- 13 シームリッパー
- 14 タッチペン
- 15 灰色の特殊ドライバー
- 16 赤色の小型ドライバー
- 17 特殊L型レンチ
- 18 ブラシ
- 19 高さ調節板
- 20 オイル
- 21 糸こまクッション2個

押え金



- 1 No.1C 標準押え
- 2 No.1D デュアルフィード(上送り)押え
- 3 No.2A オーバーロック押え
- 4 No.3A 布ガイド付自動ボタンホール押え
- 5 No.4D ファスナー押え
- 6 No.5 まつり縫い押え
- 7 No.8D ジーンズ押え
- 8 No.20C オープン刺しゅう押え
- 9 No.40C 横送り押え
- 10 No.42 BSR押え

 www.bernina.com を訪問して
更に豊富なアクセサリを見つけ
て下さい。

スタンド式アクセサリボックス



- ボックスの後ろ側にある脚部分を、かちっという音がして固定するまで引き出して下さい。



収納例

レイアウト

標準アクセサリボックスは大きな引出し1と小さな引出し2があり、ボビンを収納する部分5と押え金を収納する部分7に分かれています。

- ボビンを取り出すには、ボビン収納部の6の手前を軽く押し下げます。
- 布ガイド付ボタンホール押えNo.3Aは左側の収納部4に収めます。
- 付属のアソートメント針セットは収納部3に収めます。

ボビン



ご注意!

ボビンの表面のセンサー部分を傷つけたり、汚したりしないよう注意してお取り扱いください。

ご注意!

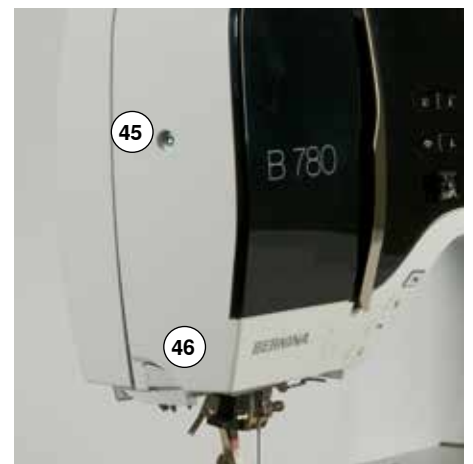
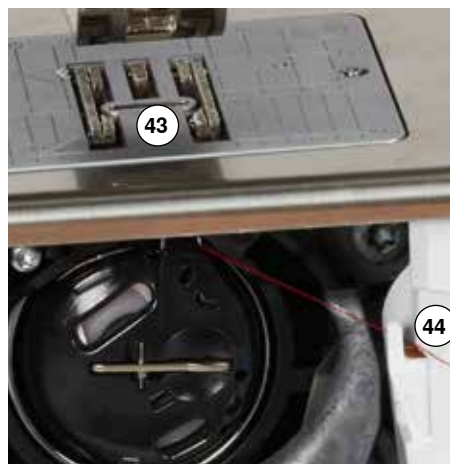
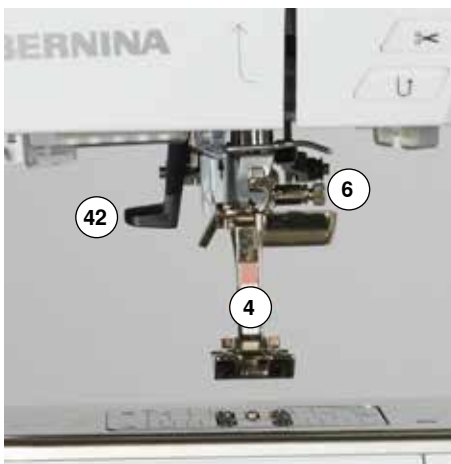
ボビンはセンサー側を表に向けてアクセサリボックスの適切なケースに収納してください。ボビンの両面の直径が異なりますので、裏表を間違っ
て収納するとボビンがケースの中で詰まってしまう恐れがあります。

ミシンの各部名称

前面



細部拡大





- 1 釜カバー
- 2 針板
- 3 特殊アクセサリ取り付け穴
- 4 押え金
- 5 LEDソーイングライト
- 6 針止めネジ
- 7 «返し縫い»ボタン
- 8 «自動糸切り»ボタン
- 9 «押え金上下»ボタン
- 10 «スタート/ストップ»ボタン
- 11 糸ガイド
- 12 スライド式スピードコントロール
- 13 «自動留め縫い»ボタン
- 14 プログラム式«一模様縫い-/留め縫い»ボタン
- 15 «模様頭出し»ボタン
- 16 «針上下»ボタン
- 17 天秤安全カバー
- 18 天秤
- 19 下糸巻用テンション付糸案内
- 20 キャリングハンドル
- 21 下糸巻取装置
- 22 下糸巻き糸切り
- 23 画面
- 24 振り幅調節つまみ
- 25 «ソーイングサポート»ボタン
 - «ホーム»ボタン
 - «セットアップ»ボタン
 - «チュートリアル»ボタン
 - «ソーイングコンサルタント»ボタン
 - «ヘルプ»ボタン
 - «eco»エコボタン
 - «clr»クリアボタン
- 26 送り長さ調節つまみ
- 27 «針基線»ボタン
- 28 押え上げレバー接続穴
- 29 後方糸案内
- 30 水平糸立て棒
- 31 垂直糸立て棒(折りたたみ式)
- 32 アイレット糸案内
- 33 はずみ車
- 34 電源スイッチ・オン «I»/オフ «0»
- 35 電源コード用ソケット
- 36 換気口
- 37 マグネット式タッチペンホルダー
- 38 USBソケット
- 39 パソコン接続用コネクタ(ソフトのアップデート・パソコンソフト用)
- 40 フットコントローラー用ソケット
- 41 送り歯ドロップボタン
- 42 針糸通し機
- 43 送り歯
- 44 下糸切り
- 45 面板固定ネジ
- 46 マニュアル式糸切り(ミシン左側面)
- 47 ソーイングテーブル固定用突起
- 48 縫い縫いアタッチメント取り付け穴
- 49 特殊アクセサリポート
- 50 BSR接続ソケット
- 51 ベルニナデュアルフィード(上送り)押え



ソーイングに関する重要事項 糸

糸は布に合ったタイプ、太さを選びます。満足な仕上がりを得る為には、品質の良い布にあった糸が大変重要な役割を果たします。高品質なブランド品の糸を使うことをお勧めします。

コットン糸

- コットン糸は天然の繊維を使った糸で、コットン地を縫うには最適な糸です。
- シルケット加工されているコットン糸は、光沢があり、洗濯しても変わりません。

ポリエステル糸

- ポリエステル糸は耐伸張性に優れ、色褪せしない性質を持っています。
- しなやかで用途が広く特に強度や伸縮を要求されるようなソーイングに最適です。

レーヨン糸

- レーヨン糸は天然繊維を使って作られた大変光沢の良い糸です。
- レーヨン糸は飾り縫いに適し、美しい仕上がりが得られます。

針と糸と布の関係

ご注意!

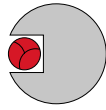
針の状態を常にチェックしましょう!

新しいソーイングプロジェクトを始めるときはできるだけ、新しい針に交換するようにしましょう。傷んだ針を使うと、作品を台無しにするだけでなく、ミシンを壊す結果にもつながります。

針と糸の選択には特に注意が必要です。

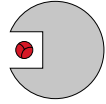
正しい針のサイズは、糸と布地に合わせて選びます。布地の厚さやタイプにより、糸を選び、その糸に合った針のサイズとタイプを選びます。

針、糸



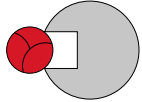
正しい針と糸の組み合わせ

最適なソーイング条件は、糸が針の前面の溝の中を滑らかに流れるように糸に合った針を選びことです。



細い糸に太すぎる針の組み合わせ

糸が針の溝の中で不安定な動きをしてステッチを乱す原因になります。目飛びや糸切れ等の原因になります。



太い糸、または細すぎる針

糸が針の溝からはみだして、針の側面とすれて糸絡みを発生させることになります。糸切れの原因にもなります。



ガイドライン

布地と糸と針のサイズの相関関係

針サイズ

薄地:

細手の糸 (しつけ糸、刺しゅう糸)

70-75

中厚地:

ミシン糸

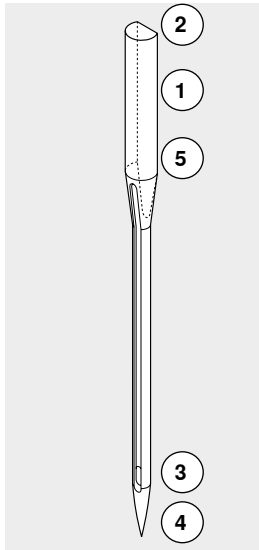
80-90

厚地:

ソーイング糸 (キルティング用糸、トップステッチ用糸)

100, 110, 120

130/705 H-S/70



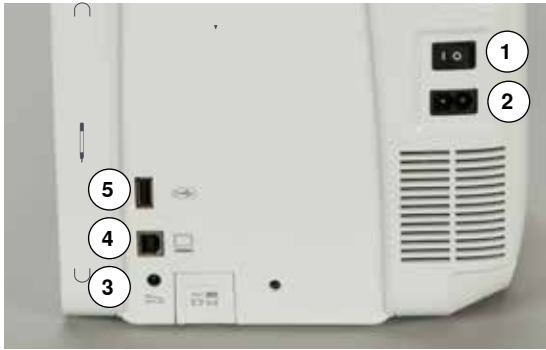
- 1 130 針シャンクの長さ
- 2 705 針シャンクがフラット(家庭用)になっている
- 3 H 針スカーフ(くびれ部分)
- 4 S 針先の形状(この例では、ミディアムボールポイント)
- 5 70 針のサイズ(欧州標準表示の針シャンクの直径)

針の一覧表

<p>標準針 130/705 H/60-100</p>  <p>標準の針先形状で、少し丸みを帯びている。 殆どの天然及び合成繊維（織地およびニット地）に。</p>	<p>メタフィル針 130/705 H-MET/75-80 または H-SUK/90-100</p>  <p>大きな針穴 メタリック糸に。</p>
<p>ジャージーおよびストレッチ針 130/705 H-S, H-SES, H-SUK/70-90</p>  <p>ボールポイント ジャージー、ニット、伸縮地に。</p>	<p>コルドネット（トップステッチに） 130/705 H-N/80-100</p>  <p>小さなボールポイント、長めの針穴 太い糸を使ってトップステッチに。</p>
<p>レザー針 130/705 H-LL, H-LR/90-100</p>  <p>カッティングポイント すべてのレザー、合成皮革、ビニールシート等に。</p>	<p>ウイング針（ヘムステッチ針） 130/705 HO/100-120</p>  <p>幅の広い（羽根のついた）針 ヘムステッチに。</p>
<p>ジーンズ針 130/705 H-J/80-110</p>  <p>非常に細く鋭い針先 ジーンズ地、キャンバス地やオーバーオールのような厚手の布地に。</p>	<p>ダブルウイング針 130/705 H-ZWI-HO/100</p>  <p>ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果に。</p>
<p>マイクロテックス針 130/705 H-M/60-90</p>  <p>特に細く鋭い針先。 マイクロファイバー地、シルク地に。</p>	<p>二本針 130/705 H-ZWI/70-100</p>  <p>二本の針の間隔：1.0/1.6/2.0/2.5/3.0/4.0/6.0/8.0mm 伸縮地で縁飾り、ピントック、飾り縫いに。</p>
<p>キルティング針 130/705 H-Q/75-90</p>  <p>細く鋭い針先 直線縫いやトップステッチに。</p>	<p>三本針 130/705 H-DRI/80</p>  <p>針の全幅：3.0mm 伸縮地で縁飾り、ピントック、飾り縫いに。</p>
<p>刺しゅう針 130/705 H-SUK/70-90</p>  <p>大きな針穴、小さなボールポイント あらゆる天然繊維や合成繊維での刺しゅうに。</p>	

ソーイングの準備

電源スイッチおよび電源コード



1 電源スイッチ
ミシンは、《I》でスイッチオン、《0》でオフとなります。

I 電源がオンになった状態
0 電源がオフになった状態

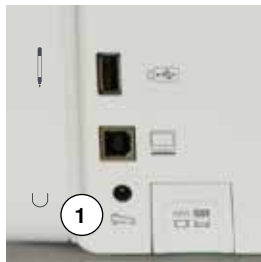
2 電源コード用ソケット
3 フットコントローラー用ソケット
4 パソコン接続用コネクター
5 USBソケット

マグネット式タッチペンホルダー



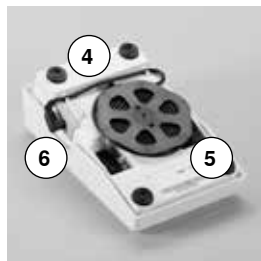
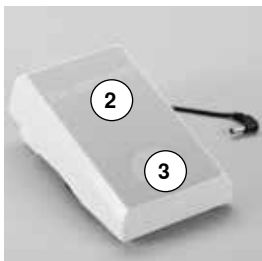
画面操作用のタッチペンは二つのマグネットホルダー1で楽に確実に格納できます。

フットコントローラー



フットコントローラーの接続

- コードを取り出します。
- プラグをミシンのソケット1に差し込みます。
- コードを必要な長さだけ取り出し、4、または5に固定します。



スピードコントロール

フットコントローラーのペダル2を踏み込む加減でスピードをコントロールします。

針を上下する

- フットコントローラーのかかと部分3を踏み込みます。
- ▶ 一回踏み込む度に針を上げたり、下げたり出来ます。

フットコントローラーを取り外す

- コードを底にあるリールに巻き付けます。
- プラグを6の収納穴に差し込みます。

ソーイングテーブル

ソーイングテーブルはソーイングスペースを広げます。

ソーイングテーブルを取り付ける

- はずみ車を回すか、「針上下停止」ボタン(13ページ参照)を押します。
 - ▶ 針が上がります。
- 「押え金上下」ボタンを押します。
 - ▶ 押え金が上がります。
- フリーアーム部に沿ってソーイングテーブルをカチッと接続するまで右にスライドします。



ソーイングテーブルを取り外す

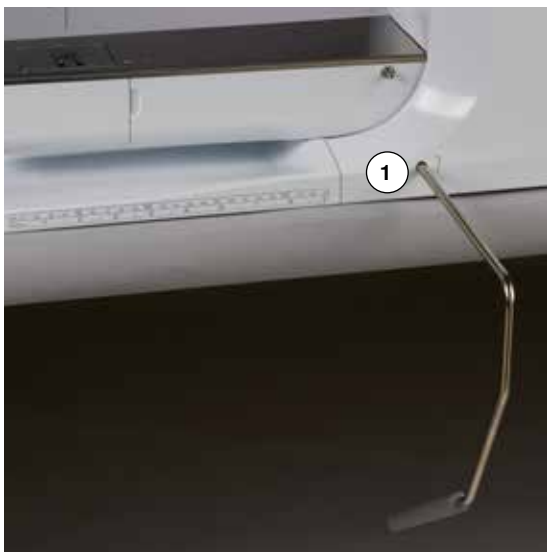
- 針と押え金を上げます。
- ボタン1を押し下げます。
- ソーイングテーブルを左方向へスライドして取り外します。



布ガイド

- 布ガイド上の解放ボタンを指で押しながら、テーブルの(手前裏側の)溝に合わせて、左側、または右側からスライドさせて取り付けます。テーブルの左右一杯に動かして使えます。

押え上げレバー



フリーハンドシステムを使うと押え金を膝で上げ下げ出来、同時に送り歯も下げます。

膝押え上げレバーの取り付け方

- 取り付け用穴1に差し込みます。

押え金を膝の操作で上げたり、下げたりする

- レバーを膝で右方向に押しやります。
- 座った状態で自然な形でフリーハンドシステムレバーを膝で操作出来るように座りましょう。
 - ▶ 押え金が持ち上がり、送り歯が同時に下がります。ダイヤルテンションも同時に開放されます。
 - ▶ 送り歯は、縫い始めると瞬時に上がってきます。



レバーの角度は代理店に依頼すればご自分に合った角度に調節できます。

垂直糸立て棒(折りたたみ式)



折りたたみ式の垂直糸立て棒がはずみ車の後方に装置されています。二本針ソーイングをする時などには必須の装置です。また縫いながら下糸巻きをするのにも便利です。

- 垂直糸立て棒1を後ろへ跳ね上げて引き起こします。

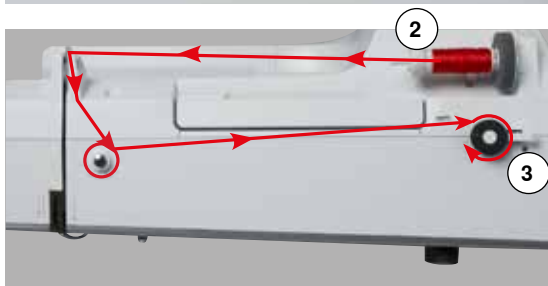


- 糸こまクッション2を使うとサイズに関係なく糸こまが安定します。

下糸を巻く



- 電源スイッチをオン«I»にします。
- 空のボビンを糸巻き軸1に装着します。

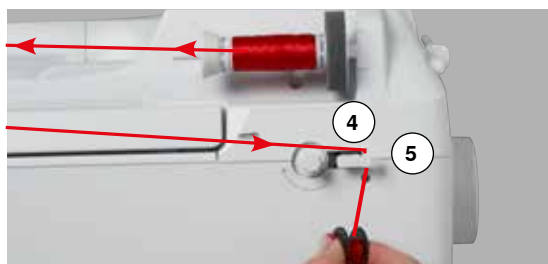


- 糸こまクッションを取り付けます。
- 糸こまを装着します。
- 適切なサイズの糸こまカバー2を糸こまを軽く押し付けるように取り付けます。
- 次に、ミシンの上の矢印案内に従って、上糸を後方糸案内に掛けた後、下糸巻きガイドに巻くようにして掛け、糸巻き装置の方向へ引きます。
- 空のボビンに糸を2~3回巻きつけます。
- 余分な糸は糸巻き用の糸切り3で切り取ります。

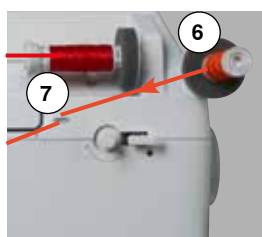


適切なサイズの糸こまカバー

糸こまカバーは糸こまの直径に合わせて選びます。糸こまと糸こまカバーの間に隙間のないようにカバーを軽く押し付けます。

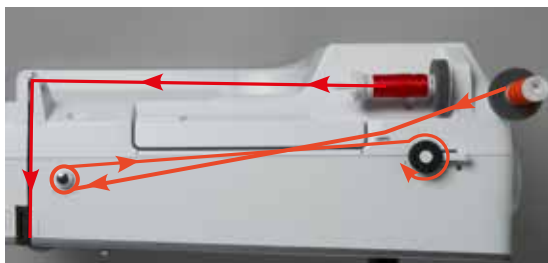


- 糸巻きスイッチ4をボビンに対して押し込みます。
- ▶ 糸巻きが始まります。
- ▶ 糸巻き操作画面が表示されます。
- 画面に表示された丸いつまみを指先かタッチペンで左右に動かします。または、送り長さ調節つまみ (13ページ参照)を回します。
- ▶ 糸巻きのスピードを調節できます。
- ▶ ボビンが一杯になると自動的に止まります。
- ▶ 画面が閉じます。
- ボビンを取り出して、糸を糸巻き用糸切り5でカットします。



ソーイング中の下糸巻き

- 垂直糸立て棒6に糸こまクッションをクッション側を上にして取り付けます。
- 垂直糸立て棒に糸こまを取り付けます。
- 矢印案内に従って、アilet糸案内7に糸を掛け、



- 糸巻き用糸案内に糸を掛けます。

先の説明と同じように進めます。



垂直糸立て棒を使って糸巻きする時は、糸こまが踊らない様に糸巻きの速度を遅めに調節しましょう。

ボビンをセットする／下糸を掛ける

ボビンをボビンケースから取り出す

- ボビンケースの取り出しレバーを押します。(当ページの"ボビンケースを取り出す"の写真を参照)。



- ボビンケースを取り出します。
- 次に、糸が反時計方向1に向くようにボビンをボビンケースにセットします。
- 糸をボビンケースの溝を通して左から右方向に引きます。



- テンションスプリング2の下に糸をもぐらせて引きます。
- テンションスプリングの端の糸ガイドに通しながら糸を引っ張ります。
- ▶ 糸がテンションスプリングにセットされました。
- 糸を引きます。
- ▶ ボビンが反時計方向に回るのを確かめます。

ボビンケースの脱着



ボビンケースを取り出す

- 針を上げます。
- 電源スイッチをオフ<<0>>にします。
- 釜カバー1を開けます。

- ボビンケース取り出しレバー2を押します。
- ボビンケースを取り出します。



ボビンケースを取り付ける

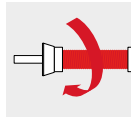
- 糸ガイド3が上に向くようにボビンケースを持ちます。
- 大釜カバーの切り込み部4に糸ガイドを合わせます。
- ボビンケースを挿入し、カチッとハマるまで中央部を押し込みます。

下糸切り

- 余分な糸を下糸切り5で切ります。
- 釜カバーを閉じます。

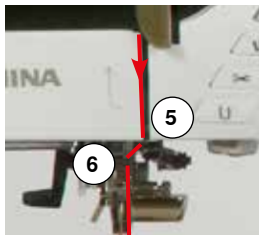


上糸を掛けます



- 針と押え金を上げます。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- まず、糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
- 糸が時計方向に出てくるように糸こまをセットします。
- 適切なサイズの糸こまカバーを取り付けます。

- 上糸を持って糸こまから矢印の方向に糸を引き出し、後方糸案内1に糸を掛けます。
- 次に、ダイヤルテンションのディスク2に糸を通します。



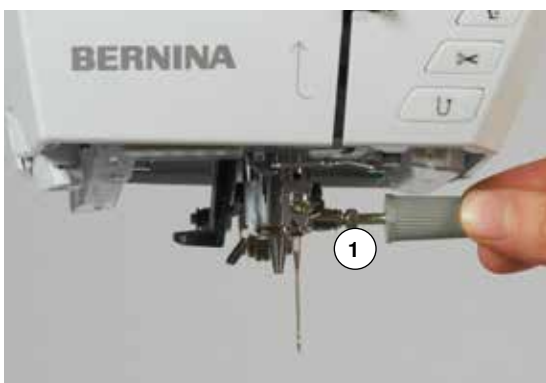
- 天秤カバーの右側に沿って3で左側へ振り、
- 天秤カバーの左側に沿って引き上げ、天秤4に糸を掛け、
- 次に糸を下へ引き糸案内5と6を通して、
- 針に糸を通します。(24ページ参照)



適切なサイズの糸こまカバー

糸こまカバーは糸こまの直径に合わせて選びます。糸こまと糸こまカバーの間に隙間がないようにカバーを軽く押し付けます。

針の交換



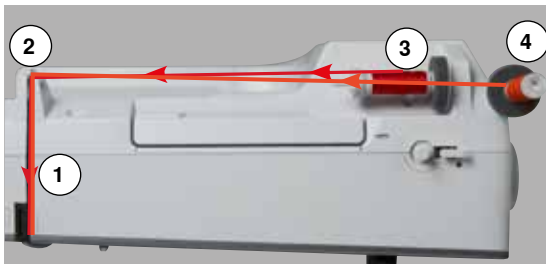
針を交換する

- 針を上げます。
- 押え金を下げるか取り外します。(24, 32ページ参照)
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- 針止めネジ1をグレーのドライバーを使って緩めます。
- 針を下に引いて抜き取ります。

新しい針を取り付ける

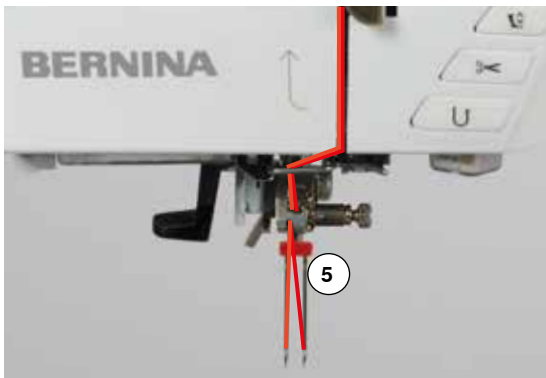
- 針の平らな面を後ろに向けます。
- 針が当たって止まるまで上に差し込みます。
- 針止めネジ1をグレーのドライバーで締め付けます。

二本針の糸通し



最初の糸掛け

- 針と押え金を上げます。必要ならば、押え金を取り外します。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- 二本針を取り付けます。
- 糸立て棒に糸こまクッションを取り付けます。
- 糸こま3を水平糸立て棒にセットします。
- 適当なサイズの糸こまカバーを取り付けます。
- 後方糸案内2を通して糸を引きます。
- 上糸をダイヤルテンション1の右側のディスクの間を通します。
- 一本針と同じ方法で糸を針元まで通し、
- まず右側の針に手で糸を通します。



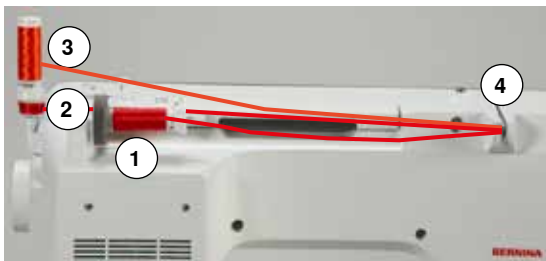
二本目の針に糸を通す

- 垂直糸立て棒に糸こまクッションを取り付けます。
 - 二つ目の糸こま4を垂直糸立て棒にセットします。
 - 後方糸案内2を通して糸を掛けます。
 - 糸を手前に引き、ダイヤルテンション1の左側のディスクの間を通します。
 - 一本針と同じ方法で糸を針元まで通し、
 - 左側の針に手で糸を通します。
- 二本の糸5が途中で絡まないように注意します。



垂直糸立て棒を使うときは必ず糸こまクッションを使います。糸こまから糸が滑り落ちて糸立て棒に絡みつくの防ぎます。

三本針に糸を掛ける



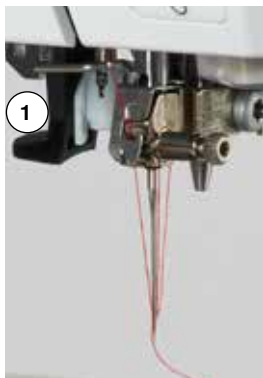
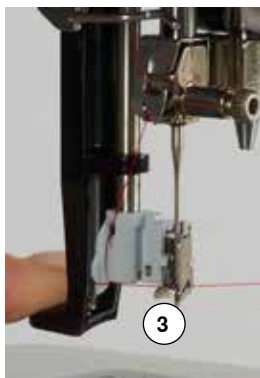
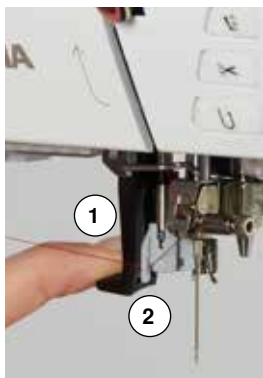
二つの糸こまと糸を巻いたボビンを準備します。

- 三本針を取り付けます。
- 糸こま1を水平糸立て棒にセットします。
- 垂直糸立て棒に、二番目の糸こま3とボビン2の間に糸こまディスクを挟むように、また同じ方向から糸が出るようにセットします。
- 糸掛けを通常通りにし、
- 二本の糸を左側のダイヤルテンションディスク4に、そして残りの一本を右側に通します。
- 針まで通常通りに糸を掛け、
- そして全ての針に手で糸を通します。



補助糸ガイド(オプション)を使えば、メタリック糸やシルク糸の流れがスムーズになります。

針に糸を通す



フットコントローを軽く一回踏み込んで針を上げます。(1 ステッチ)

- 針を上げます。
- 押え金を下げます。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- 糸を矢印のように左へ引き、そして後方へ。
- 左ひとさし指で糸通しレバー1を押し下げたままにして、
- 右手に持った糸をフック2に掛け、手前に引きながら針の前まで持ってきます。
- 糸を前方から糸通しガイド3に押し付けるようにすると糸がかぎ針に引っかかります。
- レバー1と糸を指から離します。
- ▶ 糸掛けが完了しました。
- 糸を後ろへ引き、
- 糸を押えの下側に回し、左横へ引き、ミシンの左側面4にある糸切りでカットします。糸切りに引っ掛けた糸は縫い始めると自動的に外れます。

押え金の交換方法



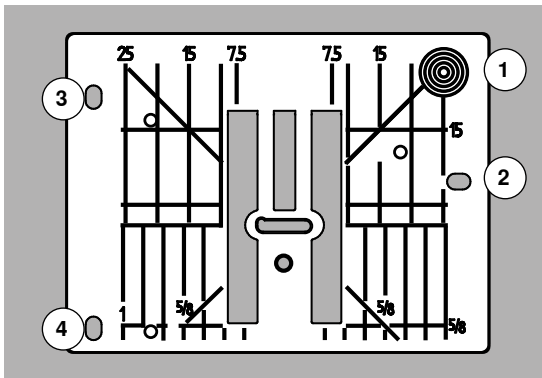
押え金を交換する

- 針と押え金を上げます。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- 押え止めレバー1を指ではね上げます。
- 押え金を取り外します。

押え金を取り付ける

- 押え金を押え棒の先端にかぶせるようにして、押し上げます。
- 押え止めレバー1を指でしっかりと押し下げます。

針板



針板上のマーキング

- 針板の表面にはミリ(mm)とインチで布ガイド用の線が水平、垂直、斜めに刻印されています。
- 刻印されたラインは布地のガイドとして、またトップステッチに便利です。
- 水平の目盛り線はコーナーの仕上げやボタンホールに便利です。
- 斜線はキルティングに便利です。
- 針が刺さる位置は「0」（針基線が中心のとき）
- 左右に刻まれた垂直の目盛り線は直線縫いで針基線がセンターにある場合の針からの距離です。
- 刻印された寸法は、中央の針基線から左右に向かう距離です。



針板を取り外す

- 「送り歯ドロップ」ボタンを押し込みます 5。
- ▶ 送り歯が下がります。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 押え金と針を取り外します。
- 針板の右側後方の角1を指で強く押し付け、針板を浮かび上がらせます。
- 針板を取り外します。

針板を取り付ける

- 針板上の穴2、3、4をそれぞれのピンに合う様に置きます。
- 針板がカチッとはまるまで押し下げます。
- 「送り歯ドロップ」ボタンを再度押し込むとボタンが元の位置に戻ります。
- ▶ 送り歯は、下に留まっていますが、縫い始めると瞬時に上がってきます。

糸調子



上糸テンションを強くする = 上糸調子が強くなって下糸を強く引き上げます。
 上糸テンションを弱くする = 上糸調子が弱くなって上糸が強く引き下げられます。

ステッチのパターン、またはプログラムを選択すると、基本の糸調子が自動的に設定されます。

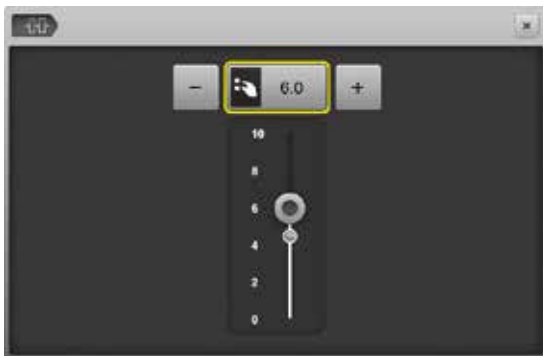
糸調子は、工場出荷時の初期設定で最適の状態に調節されています。上糸および下糸テンションの初期設定に使われた糸は、メトロシーン・セラロン100/2 (スイス、メトラー社) です。

他のミシン糸または刺しゅう糸を使う場合には、布地およびステッチに合わせて、糸調子を調整する必要が生じます。



上糸テンションを調節する

- «上糸テンション»アイコンをタッチします。
- ▶ 目盛り中の白い縦棒表示とアイコンに表示された数値は標準の糸調子です。
- アイコン«+»/«-»をタッチするか、または、
- 振り幅、または送り長さ調節つまみを左右いずれかの方向に回す、または、
- 画面に表示された丸いつまみを指先か、タッチペンで動かします。
- ▶ 上糸調子を強く、または弱く調節します。
- ▶ 変更した糸調子は黄色枠のアイコンと«上糸テンション»アイコンに表示されます。
- ▶ 標準の糸調子も(目盛り上に白い点で)表示されています。
- ▶ 変更した糸調子は選んだステッチのみに有効です。



上糸テンションを記憶させる

- «閉じる»または、«上糸テンション»アイコンをタッチします。
- ▶ 変更した糸調子が保存され画面が閉じます。

標準設定に戻す

- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ 標準の糸調子に戻りました。
- ミシンの電源を切ります。
- ▶ 全ての変更がクリアされます。

セキュリティプログラム



- «針»または«針板»アイコンをタッチします。
- ▶ «針/針板一覧»画面が表示されます。

画面

- ▶ 黄色い旗 = 推奨する最適な選択
- ▶ 緑色の旗 = 最適な要素が選択されました

もし、選んだステッチに対して針と針板の組み合わせが不適切な場合、警告のアニメーションが表示され、ミシンは動きません。

ミシンの電源を切っても、機能はオンの状態です。



針を選ぶ

- 使いたい«針»アイコンをタッチします。
- ▶ 振り幅が自動的に制限されます。
- ▶ この機能は選んだ針、(例えば二本針等)が押え金や針板に当たるのを防ぎます = 針折れ防止機能
- ▶ 針アイコンに表示される数字は針と針の間隔を示しています。
- «標準針»アイコンをタッチします。
- ▶ 標準針の設定に戻りました。
- ▶ 振り幅の制限が解除されました。

針板を選ぶ

- 使いたい«針板»アイコンをタッチします。
- ▶ 振り幅が自動的に制限されます。
- ▶ 針が押え金や針板に当たって折れたりするのを防ぎます。



保存

- «閉じる»アイコン、または«針»アイコン、または«針板»アイコンをタッチします。
- ▶ 選択内容が保存され、画面が閉じます。

針一覧表



- «針情報»アイコンをタッチします。
- ▶ «針一覧»が表示されます。



針を選ぶ

- ミシンに取り付けた針と針のサイズを選びます。

押え金を選ぶ

選んだステッチに最適な押え金が「押え金選択」アイコンに表示されます。

画面

- ▶ 黄色い旗 = 指定ステッチパターンで選択可能
- ▶ 緑色の旗 = 最適な押えが選ばれました



- 推奨される押え金を取り付けます。
- 「押え金選択」アイコンをタッチします。
- ▶ 「押え金選択」画面が表示されます。
- ミシンに取り付けた押え金、または一覧に表示された押え金、特に最適と表示された押え金をタッチし、「押え金選択」画面上のアイコンをタッチします。
- 押え金アイコンの下に表示されている矢印アイコンを使ってスクロールするか、「0-9」アイコンをタッチして押え金の番号を直接入力します。
- ▶ もし選んだ押え金に針が当たる恐れのある場合には、ミシンは動かさずに、エラーメッセージを画面に表示します。
- ▶ 「押え金選択」アイコンに選んだ押え金が表示されます。

オプションの押え金

- アイコンをタッチします。
- ▶ 選んだステッチに使えるオプションの押え金が表示されます。

保存

- 「押え金選択」アイコン、または「閉じる」アイコンをタッチします。
- ▶ 選択したものが設定され画面が閉じます。

標準の設定に戻すには

- 選んだ押え金のアイコンをタッチします。
- ▶ 押え金の選択が解除され、推奨の押え金が表示されます。

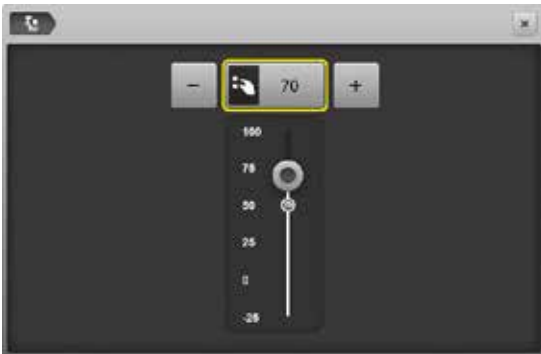
ご注意!

必ず選んだ押え金アイコンをタッチしてミシンに認識させ、安全プログラムをオンにすることが重要です。

押え圧の調節



- «押え圧»アイコンをタッチします。



- ▶ 押え圧調節画面が表示されます。
- 振り幅、または送り長さ調節つまみを左右いずれかの方向に回す、または、
- «->または«+»アイコンをタッチします。
- ▶ 押え圧を強く、または弱く調節できます。
- ▶ 変更された押え圧が目盛りの中と黄色枠アイコンに表示されます。
- ▶ 標準の押え圧は(小さな白い点で目盛りの上に)表示されています。



厚地、例えばキルティングするとき

- 振り幅、または送り長さ調節つまみを左に回すか、または
- «->アイコンをタッチします。
- ▶ 押え圧が弱くなります。
- ▶ 押えが僅かに持ち上げられ、布地を動かし易くなります。



押え圧を記憶させる

- «閉じる»アイコン、または«押え圧»アイコンをタッチします。
- ▶ 変更した押え圧が記憶され、画面が閉じます。

標準の設定に戻すには

- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ 標準設定に戻りました。

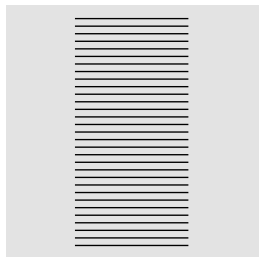


作業が終わったら必ず押え圧を標準の設定に戻しましょう。

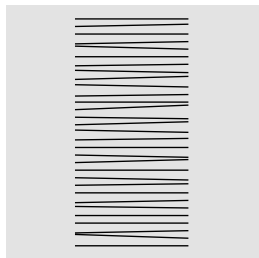
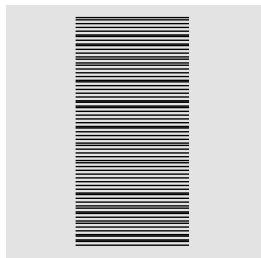
送り歯と布送りの関係

送り歯は、一針毎にワンステップ送ります。このワンステップの長さは、送り長さで指定した値です。

送り長さを非常に短く設定すると、送り歯の動きも大変小さくなります。そのため、ボタンホールステッチやサテンステッチ、また飾り縫い等の特に送りの小さなステッチでは、フルスピードで縫っても押え金の下で布地の動きは非常にゆっくりしたものになります。



布は均等に送るように心がけます。



ご注意!

布を押し込んだり、引っばったりすると、縫い目が乱れるだけでなく、針折れを発生させたり、針板に傷をつけたりします。

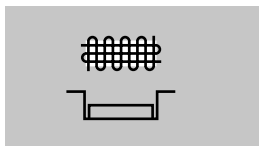
布を押ししたり引いたり、押さえたりすると、縫い目が乱れてしまいます。

押え金を下げる/縫い始めます



«送り歯ドロップ»ボタン1がミシンの側面カバーと同じ高さにある時

▶ 送り歯は普通に縫える状態です。



«送り歯ドロップ»ボタン1が押し込まれている状態

▶ 送り歯が下がっています。

フリーモーションソーイング(繕い縫い、刺しゅう、キルティング等)の状態です。

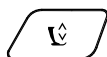
機能

《機能》ボタンの一覧



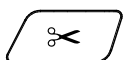
《スタート/ストップ》ボタン

- フットコントローラーを接続していてもまたはしてなくてもミシンをスタート、ストップさせることができます。
- BSR押えが接続されていて起動している時、BSR機能をスタート、ストップさせることができます。



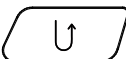
《押え金上下》ボタン

- ボタンを押します。
- ▶ 押え金が一旦下がり、ピボットソーイングに便利のように僅かに持ち上げられて止まります。
- ▶ ミシンをスタートさせると押え金は自動で下がり布地を押えます。
- ボタンを再度押します。
- ▶ 押えが上がります。



《自動糸切り》ボタン

- 上糸と下糸が自動でカットされます。
- 糸をカットする前に、2-6針の留め縫いを自動で縫うようにプログラムできます。



《返し縫い》ボタン

- 縫い始めと縫い終わりで返し縫いをします: ボタンを押している間返し縫いを続けます。
- ボタンホールの長さをプログラムするのに使います。
- ダーニングの長さをプログラムするのに使います。
- 直線留め縫いステッチNo.5でステッチを終わらせる時に使います。
- キルト用留め縫いステッチNo.1324で使います。



《模様頭出し》ボタン

- 模様縫いの最初の針目に戻ります。



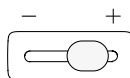
《針上下》ボタン

- ボタンを押します。
- ▶ フットコントローラーで針を上下させるのと同じように、針を上下させることができます。



プログラム式《一模様縫い/留め縫い》ボタン

- ステッチを縫い始める前に、または縫っている途中にボタンを押します。
- ▶ 指定した回数だけステッチを縫って、留め縫いをして自動的に停止します。
- コンビネーションを縫いはじめる前に、または縫っている途中でボタンを押します。
- ▶ 指定した回数を縫った後で、ミシンは留め縫いをして自動で止まります。
- 指定する留め縫いのタイプと留め縫いのステッチ数はセットアッププログラムで指定できます。
- ▶ ストップマークがソーイング中に画面に表示され、留め縫い機能がオンになっていることを教えてくれます。



スライド式スピードコントロール

- ソーイングと刺しゅうの速度をつまみをスライドさせて自在に調節できます。



◀自動留め縫い▶ボタン

- ▶ 縫い始める前にボタンを押す = 単一のパターン/コンビネーションパターンが指定した回数を縫います。
- ▶ ソーイング中にボタンを押したままにする = ミシンが直ちに停止し、指定した回数、留め縫いをします。
- ▶ 押え金が上がります。



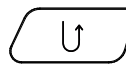
振り幅、送り長さ調節つまみ (多機能つまみ)

- 振り幅、または送り長さを調節します。
- 糸調子を変更します。
- ボタンホールのカット幅を調節し、またボタンのサイズを設定します。
- バランスを調節します。
- セットアッププログラムでいろいろな設定作業に使います。
- 刺しゅうでいろいろな操作に使います。



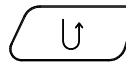
◀針基線▶ボタン

- 左側のボタンを押します。
- ▶ 針基線が左に移動します。
- 右側のボタンを押します。
- ▶ 針基線が右に移動します。
- ボタンを押したままにします。
- ▶ 素早く移動します。
- 全部で11の針基線があります (左右に5基線ずつ、中央=0に一つ)



針上停止と◀返し縫い▶ボタン

ソーイング中に、またはプログラム式の針上停止機能を使って (例えば、ジグザグ縫いが終わった後に、◀返し縫い▶ボタンが押されると、ミシンは返し縫いを始める前に前進で一針縫います。



針下停止と◀返し縫い▶ボタン

プログラム式の針下停止機能を使って (例えば、ジグザグ縫いが終わった後に、◀返し縫い▶ボタンが押されるとミシンは直ちに返し縫いを始めます。

画面

主画面の説明



システムの設定

- 1 ホーム
- 2 セットアッププログラム
- 3 チュートリアル
- 4 クリエイティブコンサルタント
- 5 ヘルプ
- 6 ECO(エコ)モード
- 7 設定をクリアする



外部機能/一覧

- 8 上糸テンション
- 9 セキュリティプログラム - 針
- 10 押え金表示/押え金の選択
- 11 押え圧調節機能
- 12 セキュリティプログラム - 針板
- 13 送り歯上下表示
- 14 糸巻き機能



メニュー選択画面

- 15 ステッチ番号で選ぶ
- 16 実用縫いステッチ
- 17 飾り縫いステッチ
- 18 文字
- 19 ボタンホール
- 20 キルトステッチ
- 21 パーソナルプログラム/メモリー
- 22 履歴



選択

- 23 ステッチパターンのサイズを画面にあわせる
- 24 シングルステッチモード、またはコンビモード
- 25 スクロール左/右



ステッチパターン選択ボタン

- 26 タッチしてステッチを選択する



ステッチの表示

- 27 選んだステッチの画面
- 28 インフォメーション

機能 - 画面

ミシン機能一覧



- <i>i</i>アイコンをタッチします。
- ▶ <i>i</i>「機能」画面が表示されます。

機能の説明

- 1 針上下停止機能
- 2 一模様縫い
- 3 ロングステッチ
- 4 模様左右反転
- 5 模様上下反転
- 6 ステッチパターンの長さ/ステッチの密度の変更
- 7 ステッチカウンター
- 8 バランス
- 9 多方向縫い
- 10 連続返し縫い
- 11 バックステップ縫い
- 12 恒久パーソナルメモリー
- 13 ステッチの標準設定

機能の説明



インフォメーション

- アイコンをタッチします。
- ▶ 操作画面が表示されます。



戻る

- アイコンをタッチします。
- ▶ 前の画面が表示されます。
- ▶ 編集内容が確定されました。



確認チェック

- アイコンをタッチします。
- ▶ 変更内容や選んだステッチがオンになる、または確定されました。



画面を閉じる

- アイコンをタッチします。
- ▶ 画面が閉じます。
- ▶ 前の画面が表示されます。



針上下停止機能 (常設)

- アイコンをタッチします。
- ▶ 針の表示が下を向きませ
- ▶ ミシンは常に針が下がった状態で止まります。
- アイコンをもう一度タッチします。
- ▶ 針の表示が上を向きませ
- ▶ ミシンは常に針が上がった状態で止まります。



一模様縫い

- アイコンを一回タッチします。
- ▶ 数字の1が表示される:ミシンはステッチ、またはコンビネーションを一回縫って自動で止まります。
- アイコンを2回から9回タッチします。
- ▶ 数字の2-9が表示される:ミシンは表示された回数だけステッチ、またはコンビネーションを縫って自動で止まります。



ロングステッチ

- ミシンは二回送る間に一回縫います。(最大ステッチ長さ12mm)
 - 実用縫いや飾り縫いに。
- 対象外:ボタンホール、文字



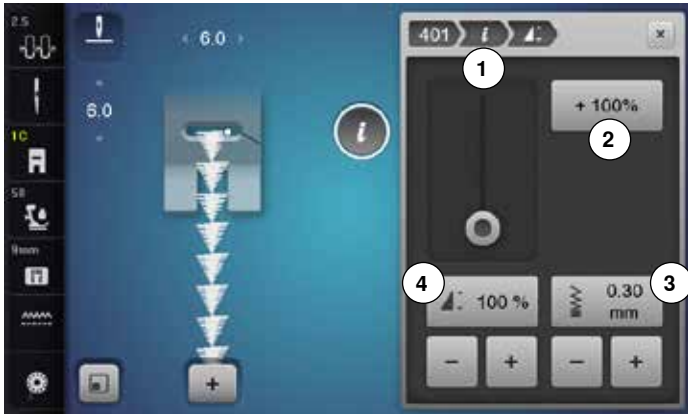
模様左右反転

ミシンは選んだ模様を縫う方向に向かって左右に反転させて縫います。



模様上下反転

ミシンは選んだ模様を縫う方向に向かって上下に反転させて縫います。



ステッチの密度を変える 3

No.401 のような特殊なステッチではステッチの密度を調節できます。ステッチ全体の長さは変わりません。

- «+»アイコンをタッチします。
- ▶ ステッチの密度が0.05 mm単位で縮小されます。
- ▶ ステッチ間の距離が広くなります。
- «-»アイコンをタッチします。
- ▶ ステッチの密度が0.05 mm単位で拡大されます。
- ▶ ステッチ間の距離が小さくなります。
- «戻る»アイコン1をタッチします。
- ▶ 機能の一覧が再度表示されます。

パターンの長さの調節4

- 画面上の丸いつまみを指先、またはタッチペンで動かします。
 - ▶ パターンの長さ(標準 = 100%)を自由に調節できます。
 - «+»/«-»アイコンを使って1%毎に長く、または短くすることができます。または、
 - «+100%»アイコン2をタッチします。
 - ▶ 100%単位でパターンを長くできます。
- 最大長さは1000%で、最小は10%です。ステッチによっては1000%まで大きくできないものもあります。

恒久パーソナルメモリー

- ステッチパターンを選びます。また、振り幅や送り長さを変えてもかまいません。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 選ばれているステッチが変更した状態で保存されました。

標準のステッチパターン

- アイコンをタッチします。
- ▶ ステッチが標準設定にリセットされました。

ステッチカウンター

- 縫いたい長さを縫ったら«返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ 画面に«auto»と表示されます。
- ▶ 縫ったステッチパターンの数が一時的に記憶されました。

バランス

ステッチバランス。

多方向ソーイング

- ▶ 振り幅調節つまみを回すとステッチパターン、またはコンビネーションパターンでは0.5°ずつ回転します。送り長さ調節つまみを回すと1°ずつ、またはダイレクト選択ボタンでは45°ずつ回転します。
- ▶ ソーイング方向は画面左側に表示されます。
- ▶ 始点は白い点で、終点は赤い十字で表示されます。
- ▶ この機能は多方向ソーイングできるステッチが選ばれたときだけ機能します。

連続返し縫い

選んでいるステッチを後進で縫い続けます。

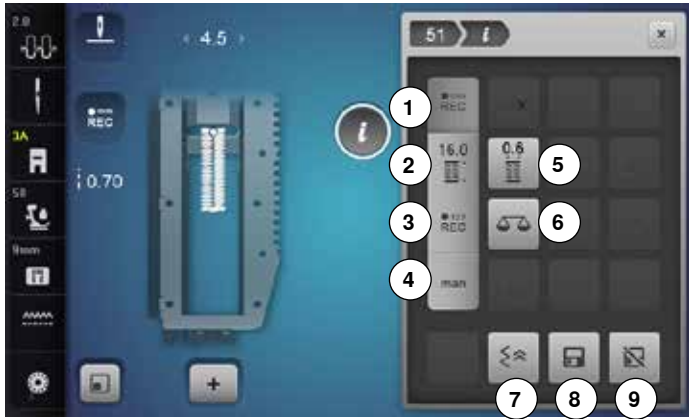
バックステップ縫い

- ▶ 200針までの針目を正確にトレース、つまり縫い目を辿りながら戻って縫います。

機能ボタンに関して



- «ボタンホール»ボタンを押します。
- ボタンホールを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。



ボタンホールを調節する

- 1 ボタンホールの長さを入力する
- 2 ボタンホールの長さの直接入力方式
- 3 ステッチカウント式ボタンホール
- 4 マニュアルボタンホール
- 5 ボタンホールの穴の幅
- 6 バランス
- 7 バックステップ縫い
- 8 恒久パーソナルメモリー
- 9 標準設定に戻す



ボタンホールの長さをプログラムする

- ▶ ボタンホールが選ばれるとアイコンが自動でオンになります。
- «返し縫い»ボタンを押してボタンホールの長さを決定します。または、
- 次に説明されているアイコンをタッチして、ボタンホールの長さを直接に入力します。
- ▶ 長さを決定し終わると機能はオフになります。
- 新しく長さを入力する場合には、再度アイコンをタッチして下さい。



ボタンホールの長さを直接入力方式

ボタンホールの長さを振り幅、または送り長さ調節つまみを回してmm表示で決めます。



ステッチカウント式ボタンホール

- 最初の穴かがりを縫い、適当な長さまで縫ったら、次に、
- «返し縫い»ボタンを押します。
 - 反対側の穴かがりを同じ長さまで縫い、
 - «返し縫い»ボタンを押します。
 - ▶ 画面に«auto»と表示されます。
 - ▶ ボタンホールの長さがプログラムされました。



マニュアルボタンホール

- (ボタンホールのタイプによりますが)5-7ステップのマニュアル操作のボタンホールを縫います。
- すべてのステップを矢印アイコン«上向き»/«下向き»で選びながら、または直接に選んで決めます。



ボタンホールの穴の幅

- 振り幅、または送り長さ調節つまみを使って、または矢印アイコンを使って、穴の幅を0.1 mmから2.0 mmの間で調節できます。



バランス

前進と後進のステッチのバランスを調節します。



バックステップ縫い

- ▶ 200針までの針目を正確にトレース、つまり縫い目を辿りながら戻って縫います。



恒久パーソナルメモリー

- ステッチを選んで、振り幅や送り長さを変えます。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 変更されたステッチパターンが保存されました。



標準設定に戻す

- アイコンをタッチします。
- ▶ すべての変更されたステッチが標準設定にリセットされました。

文字機能に関して



- «文字»ボタンをタッチします。
- 文字書体を選びます。
- «i»アイコンをタッチします。



文字を編集する

- 1 一模様縫い
- 2 文字のフォントサイズ
- 3 模様左右反転
- 4 模様上下反転
- 5 ステッチパターンの長さを調節する。
- 6 バランス
- 7 多方向縫い
- 8 連続返し縫い
- 9 バックステップ縫い
- 10 恒久パーソナルメモリー
- 11 標準設定に戻す



一模様縫い

- アイコンを一回タッチします。
- ▶ 数字の1が表示されます：ミシンはステッチ、またはコンビネーションを1回縫って自動で止まります。
- アイコンを2回から9回タッチします。
- ▶ 数字の2-9が表示されます：ミシンは指定された数だけステッチ、またはコンビネーションを縫って自動で止まります。



文字のサイズ

- 文字を選びます。
- ▶ 文字のサイズは9mmです。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 小文字の«A»が選ばれました。
- ▶ 文字サイズを小さくする。



模様左右反転

ミシンは縫う方向に向かってステッチパターンを左右に反転させて縫います。



模様上下反転

ミシンは縫う方向に向かってステッチパターンを上下に反転させて縫います。



ステッチパターンを調節する。

- 画面上の丸いつまみを指先かタッチペンで動かします。
- ▶ パターンの長さ(標準 = 100%)を無限に変えられます。
- 拡大、または縮小は、«+»/«-»アイコンを使って1%単位で変更、または
- «+100%»アイコンをタッチして、
- ▶ パターンの長さを100%毎に長くできます。最大は200%、最小は10%です。



バランス

前進と後進のステッチバランス。



多方向縫い

- ▶ 振り幅調節つまみを回すとステッチパターン、またはコンビネーションパターンでは0.5°単位で回転します。送り長さ調節つまみを回すと1°単位で、またはダイレクト選択ボタンでは45°単位で回転します。
- ▶ ソーイング方向は画面左側に表示されます。
- ▶ 始点は白い点で、終点は赤い十字で表示されます。
- ▶ この機能は多方向ソーイングできるステッチが選ばれたときだけ機能します。



連続返し縫い

選んでいるステッチを後進で縫い続けます。



バックステップ縫い

- ▶ 200針までの針目を正確にトレース、つまり縫い目を辿りながら戻って縫います。



恒久パーソナルメモリー

- ステッチパターンを選んで、送り長さや振り幅を変えます。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 変更したステッチが保存されました。



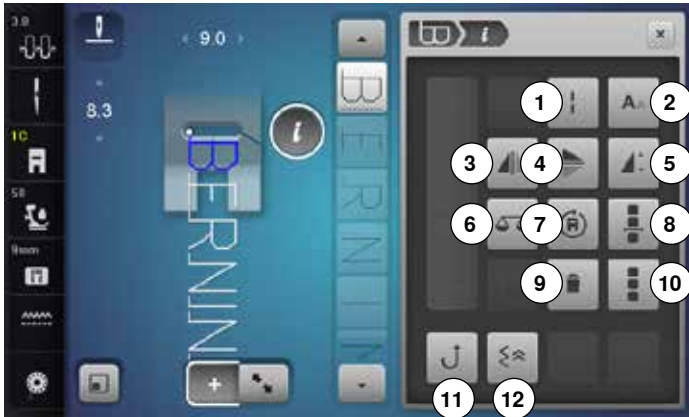
標準設定に戻す

- アイコンをタッチします。
- ▶ すべての変更されたステッチが標準設定にリセットされました。

コンビモード機能に関して



- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- ステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。



コンビネーションモード

- 1 ロングステッチ (文字は除く)
- 2 文字のサイズ
- 3 模様左右反転
- 4 模様上下反転
- 5 ステッチパターンの長さを調節する
- 6 バランス
- 7 多方向縫い
- 8 カーソルの位置でコンビネーションを編集する
- 9 削除
- 10 コンビネーション全体を編集する
- 11 連続返し縫い
- 12 バックステップ縫い



ロングステッチ (文字は除く)

- ミシンは、二回送って一回縫います。(最大ステッチ長さは12mm)
- 実用縫いや飾り縫いステッチに。

例外: 文字



文字のサイズ

- 文字書体を選びます。
- ▶ 文字のサイズは9mmです。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 小文字の«A»が選ばれました。
- ▶ 文字サイズを小さくする。



模様左右反転

ミシンは縫う方向に向かってステッチパターンを左右に反転させて縫います。



模様上下反転

ミシンは縫う方向に向かってステッチパターンを上下に反転させて縫います。



ステッチパターンを長さを調節する。

- 画面上の丸いつまみを指先かタッチペンで動かします。
 - ▶ パターンの長さ(標準 = 100%)を無限に変えられます。
 - 拡大、または縮小は、«+»/«-»アイコンを使って1%単位で変更、または
 - «+100%»アイコンをタッチして、
 - ▶ パターンの長さを100%毎に長くできます。
- 最大長さは1000%で、最小は10%です。ステッチパターンによっては1000%まで引き伸ばせないものもあります。



バランス

前進と後進のステッチバランス。



多方向縫い

- ▶ 振り幅調節つまみを回すとステッチパターン、またはコンビネーションパターンでは0.5°単位で回転します。送り長さ調節つまみを回すと1°単位で、またはダイレクト選択ボタンでは45°単位で回転します。
- ▶ ソーイング方向は画面左側に表示されます。
- ▶ 始点は白い点で、終点は赤い十字で表示されます。
- ▶ この機能は多方向ソーイングできるステッチが選ばれたときだけ機能します。



カーソルの位置でコンビネーションを編集する

- アイコンをタッチします。
- ▶ 画面が表示されます。



削除

各ステッチを削除する。



コンビネーション全体を編集する

- アイコンをタッチします。
- ▶ 機能がオンになりました。



連続返し縫い

選んでいるステッチを後進で縫い続けます。

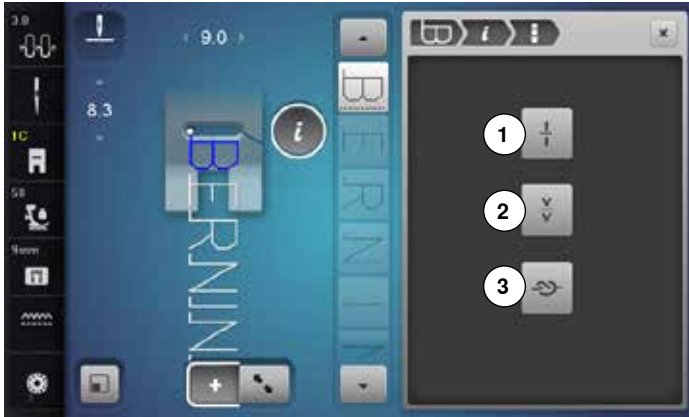


バックステップ縫い

- ▶ 200針までの針目を正確にトレース、つまり縫い目を辿りながら戻って縫います。



- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- ステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «カーソルポジション»アイコンをタッチします。



機能

- 1 コンビネーションの分割(1)
- 2 コンビネーションの分割(2)
- 3 留め縫い



コンビネーションの分割(1)

- どのようなコンビネーションでも幾つかのセクションに分割できます。
- カーソルが置かれているセクションのみを縫います。
- 別のセクションを縫うには、カーソルを縫いたいセクションに移動します。



コンビネーションの分割(2)

- 各コンビネーションは好きなように中断することができます。
- 中断すると、針は自動的に次に縫う場所に移動します。

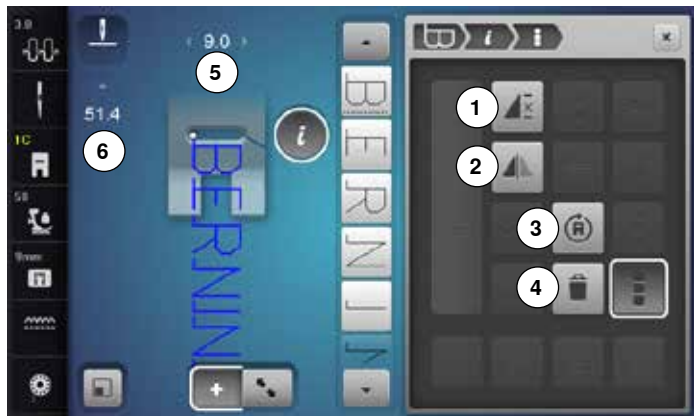


留め縫い

- 留め縫い機能をパターンのコンビネーションの中に設定します。
- コンビネーションの中の各パターンの縫い始め、または縫い終わりで留め縫いします。



- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- ステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーション全体を編集»アイコンをタッチします。



機能

- 1 コンビネーションの繰り返し
- 2 模様左右反転
- 3 多方向縫い
- 4 削除



コンビネーションの繰り返し縫い

- アイコンを一回タッチします。
- ▶ 数字の1が表示されます。ミシンはコンビネーション全体を一回縫って自動で止まります。
- アイコンを2回から9回タッチします。
- ▶ 数字の2-9が表示されます。ミシンは指定された回数コンビネーションを縫った後、自動で止まります。



コンビネーションの中のステッチの送り長さを調節する

- «送り長さ画面»アイコン6をタッチします。
- ▶ «送り長さ»画面が表示されます。
- «コンビネーションの送り長さを調節»アイコンをタッチします。
- ▶ コンビネーションの中のすべてのステッチパターンを送り長さが最大に調節されました。



模様左右反転

ミシンはコンビネーション全体を左右を反転させて縫います。



多方向縫い

- ▶ 振り幅調節つまみを回すとステッチパターン、またはコンビネーションパターンでは0.5°単位で回転します。送り長さ調節つまみを回すと1°単位で、またはダイレクト選択ボタンでは45°単位で回転します。
- ▶ ソーイング方向は画面左側に表示されます。
- ▶ 始点は白い点で、終点は赤い十字で表示されます。
- ▶ この機能は多方向ソーイングできるステッチが選ばれたときだけ機能します。



削除

コンビネーション全体を削除する。

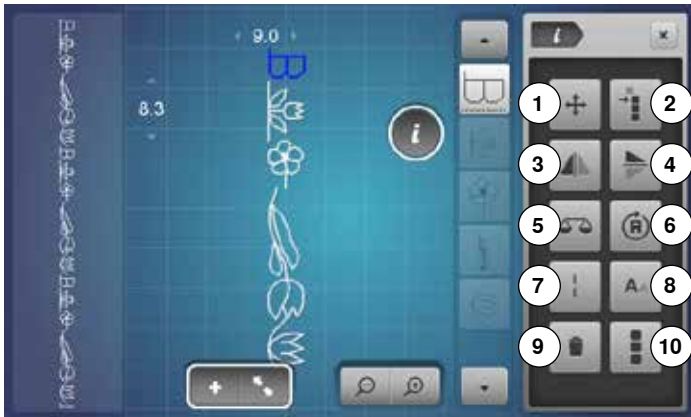


コンビネーションの中のステッチの振り幅を調節する

- «振り幅画面»アイコン5をタッチします。
- ▶ «振り幅»画面が表示されます。
- «コンビネーションの振り幅を調節»アイコンをタッチします。
- ▶ コンビネーションの中のすべてのステッチパターンの振り幅が最大幅に調節されました。



- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- コンビネーションを作ります。
- «編集モード»アイコンをタッチします。
- «i»アイコンをタッチします。



機能

- 1 つなぎステッチ
- 2 単一のステッチ、またはコンビネーションのステッチを移動させる
- 3 模様左右反転
- 4 模様上下反転
- 5 バランス機能
- 6 多方向縫い
- 7 ロングステッチ
- 8 文字のサイズ
- 9 削除
- 10 コンビネーション全体を編集



つなぎステッチ

つなぎステッチを追加するための画面を開く。



コンビネーションの中でステッチを移動させる

コンビネーションの中で各ステッチを水平、垂直、または斜めに移動させることができます。



コンビネーションの中で複数のステッチを移動させる

コンビネーションの中で複数のステッチを水平、垂直、または斜め方向に移動させることができます。



模様左右反転

ミシンは縫う方向に対して、ステッチパターンを左右に反転させて縫うことができます。



模様上下反転

ミシンは縫う方向に対して、ステッチパターンを上下に反転させて縫うことができます。



バランス機能

前進と後進のステッチバランス。



多方向縫い

- ▶ 振り幅調節つまみを回すとステッチパターン、またはコンビネーションパターンでは0.5°単位で回転します。送り長さ調節つまみを回すと1°単位で、またはダイレクト選択ボタンでは45°単位で回転します。
- ▶ ソーイング方向は画面左側に表示されます。
- ▶ この機能は多方向ソーイングできるステッチが選ばれたときだけ機能します。



ロングステッチ

- ミシンは二回送って一針縫います。(最大長さは12mm)
- 実用縫いや飾り縫いに。

例外: 文字



文字のサイズ

- 文字を選びます。
- ▶ 文字のサイズは9mm。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 小文字の«A»が選ばれました。
- ▶ 文字サイズを小さくする。



削除

各ステッチを削除する。



コンビネーション全体を編集する。

- アイコンをタッチします。
- ▶ 機能がオンになりました。

セットアッププログラム

«セットアップ»画面一覧

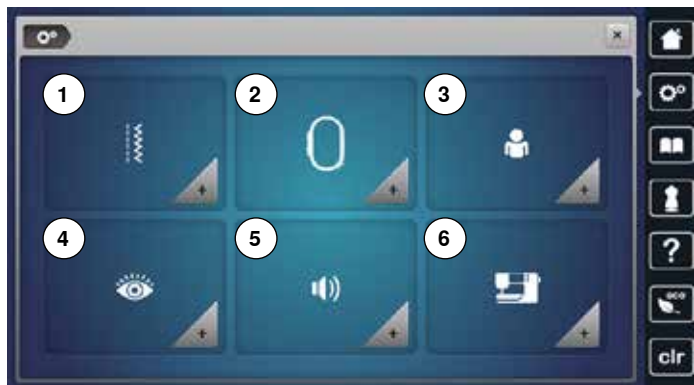
セットアッププログラムは画面表示や各種機能を必要に応じて設定を変更するための機能です。

セットアッププログラムで加えた変更は、そのままミシンの電源をオフにした後も保存されます。

例外がある場合は、それぞれの機能の項目で記述しています。



- «セットアップ»ボタンを押します。
- ▶ «セットアッププログラム»画面が開きます。



- 1 ソーイング機能の設定
- 2 刺しゅう機能の設定
- 3 パーソナル画面の設定
- 4 センサー機能の設定
- 5 シグナル／操作音の設定
- 6 ミシンの設定

ソーイング機能の設定



- «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



- 1 上糸テンションの設定
- 2 スピードコントロール
- 3 縫い始めの留め縫い設定
- 4 «機能»ボタン/«機能»アイコンの設定



上糸テンションの設定

- «糸テンション»アイコンをタッチします。



- 画面上の丸いつまみを指先か、またはタッチペンで左右に動かすか、または振り幅、または送り長さ調節つまみを回す、または
- «+»/«-»アイコンをタッチして、
- ▶ 上糸テンション1 をプラス、またはマイナスして上糸テンションを全体的に強く、または弱く調節できます。
- ▶ 0.0 = 標準設定



スピードコントロール

- «ソーイングスピード設定»アイコンをタッチします。



- 画面上の丸いつまみを指先か、またはタッチペンで左右に動かすか、または振り幅、または送り長さ調節つまみを回す、または
- «+»/«-»アイコンをタッチして、
- ▶ 最高速度2を設定します。
- ▶ 黄色枠のアイコンにスピード(針数/分)が表示されます。標準スピードは白いラインで表示されています。



縫い始めの留め縫い設定

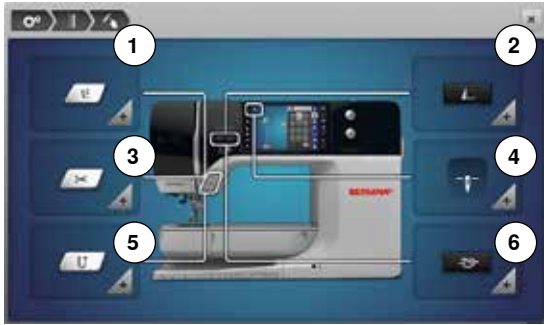
- ▶ 標準設定では、留め縫い機能はオンになっています。
- ▶ ステッチパターンを縫い始める前に4針の留め縫いがされます。
- グレーのアイコンをタッチします。
- ▶ 留め縫い機能がオフになり、留め縫いはされません。

セットアッププログラム



「機能」ボタン/「機能」アイコンの設定

- 「機能」アイコンをタッチします。

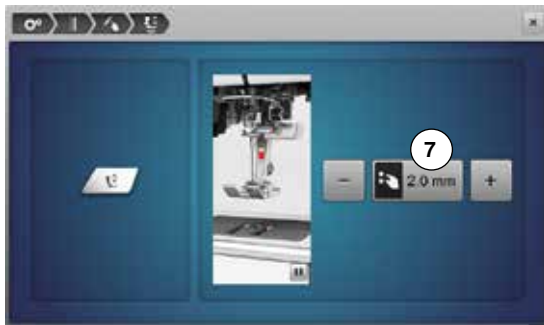


- 1 押え金のホバーリング位置
 - 2 自動留め縫いプログラム
 - 3 自動糸切りと留め縫い
 - 4 針下停止時の押え金の位置
 - 5 「返し縫い」ボタンの設定
 - 6 「留め縫い」ボタンの設定
- 必要なアイコンをタッチします。



押え金のホバーリング位置

- 「ホバーリング位置」アイコンをタッチします。



- 振り幅、または送り長さ調節つまみを回します。
- «+»/«-»アイコンをタッチします。
- 押え金のホバーリングの高さを0mmから7mmの間で調節できます。
- ▶ 標準 = 2mm
- ▶ 設定値 = 布地と押え金の距離はアイコン7に表示されます。

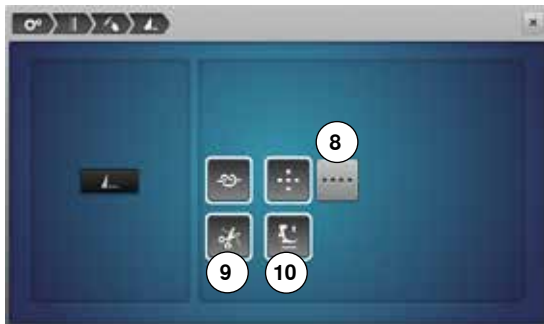
標準設定に戻す

- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ 標準設定にリセットされました。



自動留め縫いプログラム

- 「留め縫いプログラム」アイコンをタッチします。



- «一模様/留め縫い»外部操作ボタンを使った時の留め縫いの針数とタイプを選べます。
- ▶ 標準 = 4針を一点に縫います。
 - 機能8を選ぶと、小さな前進ステッチで留め縫いを実行します。
 - «+»/«-»アイコンを使って3針から6針まで指定できます。

自動糸切り

- ▶ 機能9がオンになっていると、上糸と下糸は留め縫いした後に自動でカットされます。

押え金を上げる

- ▶ アイコン10をオフに設定すると押え金は上がりません。
- ▶ このアイコンをオフに設定すると押え金は上がりません。



自動糸切りと留め縫い

- «糸切り»アイコンをタッチします。



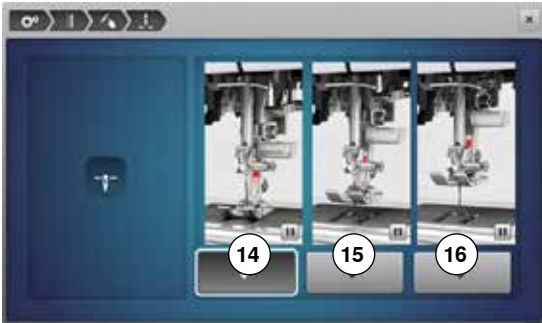
糸切り前にする留め縫いの針数とタイプをプログラムすることができます。

- ▶ 標準設定=留め縫いはプログラムされていません。
- アイコン11をタッチします。
- ▶ アイコン12がアクティブになります。
- ▶ 現在の位置で4針の留め縫いがされます。
- 前進で留め縫いをする場合にはアイコン13をタッチします。
- «+»/«-»アイコンを押して、2~6針まで留め縫いの数を選べます。



針下停止機能と押え金の位置

- «押え金の位置»アイコンをタッチします。



- ▶ アイコン14をオンにすると、押え金は布を押えたままでミシンが停止します。
- ▶ アイコン15をオンにすると、押え金はピボット縫いできる程度に持ち上げられた位置でミシンが停止します。(ホバーリング位置)
- ▶ アイコン16をオンにすると、押え金は一番高い位置に持ち上げられてミシンが停止します。



«返し縫い»ボタンの設定

- «返し縫い»ボタンを押します。

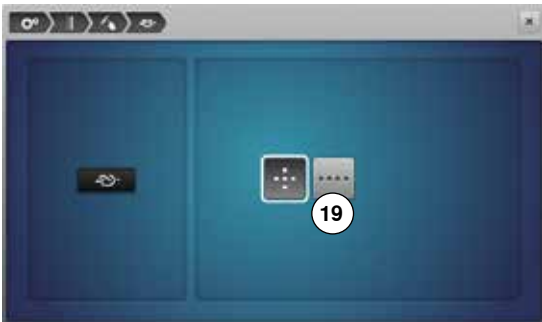


- ▶ アイコン17がオンの時、「返し縫い」ボタンを押すと、連続返し縫いをします。
- ▶ アイコン18がオンの時、「返し縫い」ボタンを押すと、一針ずつバックステップで縫います。



«留め縫い»ボタンの設定

- «留め縫いボタン»アイコンをタッチします。



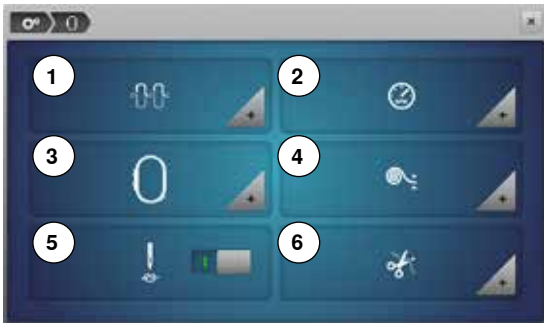
留め縫いの針数とタイプを«留め縫い»ボタンを使って設定できます。

- ▶ 標準設定では、一点で4針の留め縫いをします。
- 機能19を選ぶと小さなステッチで前進して留め縫いをします。
- «+»/«-»アイコンを使って留め縫いの針数を2針から6針まで選ぶことができます。

刺しゅう機能の設定



- «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



- 1 上糸テンションの設定
- 2 刺しゅうスピードの設定
- 3 刺しゅう枠の位置ズレの調整
- 4 布地の厚さ
- 5 留め縫い機能のオン/オフ
- 6 自動糸切り

上糸テンション1の設定と刺しゅうスピード2の設定はソーイングの項(45ページ参照)と同じ要領で行います。

- 希望するアイコンをタッチします。



刺しゅう枠の位置ズレを調整する

- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。



針が刺しゅう枠の中央に位置するように刺しゅう枠の位置を調節します。この調節をするには刺しゅう機がミシンに接続されていなければなりません。

- 画面上の説明に従って必要な刺しゅう枠を選びます。



- 刺しゅう枠に合ったテンプレートを取り付けます。
- ▶ 弾み車を回して針を下げて、針が刺しゅう用テンプレートの中心の穴に位置しているのを確認します。
- もし、針が刺しゅう用テンプレートの中心の穴からズレているようなら矢印アイコンを使って針が中心に来るように調節します。
- ✓アイコンをタッチします。
- ▶ 調整が完了しました。



布地の厚さ

- «布地の厚さ»アイコンをタッチします。
- 布地が4mmよりも分厚い時、例えばタオル地など、7.5 mmアイコン、または10 mmアイコンを選びます。
- ▶ こうすることで、刺しゅう時に針が完全に布地から抜け切ってから刺しゅう枠を動かすように設定できます。
- ▶ ミシンの電源を切ると、4 mmの設定に戻ります。



留め縫いのオン/オフ

標準 = オン。

- ▶ 刺しゅうモチーフ、または自動糸切りが選ばれると、3針の留め縫いが実行されます。
- グレーのアイコンをタッチします。
- ▶ 機能がオフ=縫い始めに留め縫いは実行されませんので、刺しゅうする時には、糸絡みを防ぐために、弾み車を回すか、フットコントローラー«かかと部を踏み込んで」、必ず下糸をすくい上げて下さい。



自動糸切り

- «糸切り»アイコンをタッチします。
- アイコン8をタッチします。
- ▶ 刺しゅう時に糸の色を交換するときに、糸を自動で切るか切らないかを設定できます。
- アイコン9をタッチして、
- ▶ 自動糸切り装置をオン、またはオフにします。



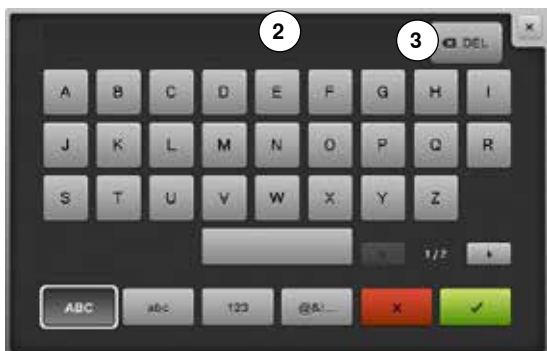
パーソナル画面の設定



- «パーソナル画面設定»アイコンをタッチします。
- 好みの画面デザインとカラーを選びます。



- «メッセージ»アイコン1をタッチします。



ウェルカムメッセージ

- ウェルカムメッセージ2は自由に変更できます。スペースキーはキーボードの下に表示されています。
- ▶ ウェルカムメッセージがメッセージ欄2に表示されます。
- ✓をタッチして確定します。

ウェルカムメッセージの削除

- «メッセージ»アイコン2をタッチします。
- ▶ 入力された全ての文字列が削除されます。

ウェルカムメッセージを訂正するには

- アイコン3をタッチします。
- ▶ 入力した文字列が右端から一文字ずつ削除されます。



- 4 «ABC»大文字 (標準)
- 5 «abc» 小文字 (標準)
- 6 «1,2,3» 数字、算術記号
- 7 «@&!...» 特殊文字、記号

センサー機能



- «センサー»アイコンをタッチします。



次のセンサー機能をオン、またはオフにすることが出来ます。

- 1 上糸センサー
- 2 下糸センサー

上糸/下糸センサー

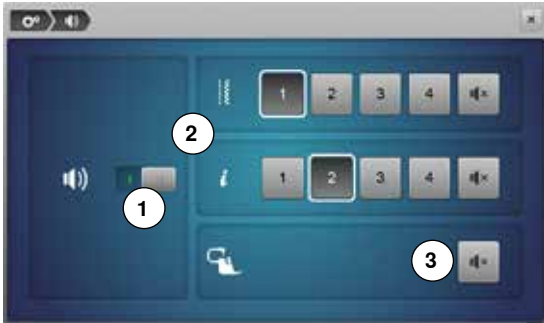
- ▶ 開いた目 = センサーがオン
 - グレーのアイコンをタッチします。
 - ▶ 閉じた目 = センサーがオフ
- 操作音の選択方法はシグナル／操作音の機能の項で説明されています。

シグナル／操作音の設定



ステッチパターン、機能、BSRを選択する

- «シグナル／操作音»アイコンをタッチします。



1をタッチするとシグナル／操作音をオンかオフにすることができます。

ステッチの選択と機能の選択2がシグナル／操作音で確認できます。

- サウンドアイコン1-4をタッチして、ステッチ選択音と機能選択音を選びます。
- BSR 3のキルティングスピードの警告音は«スピーカー»アイコンをタッチしてオン、またはオフにします。
- «スピーカー»アイコンをタッチします。
- ▶ シグナル／操作音はそれぞれのカテゴリーで別々にオフに設定できます。

ミシンの設定



- «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



- 1 言語の選択
- 2 画面表示の設定
- 3 画面の調整
- 4 標準設定に戻す
- 5 クリーニングとメンテナンス
- 6 インフォメーション



言語の選択

- «言語の選択»アイコンをタッチします。

- 言語を選びます。





画面表示の設定

- «画面表示の設定»アイコンをタッチします。



明るさ

- タッチペン、または指先で画面上部に表示された丸いつまみ1を左右に動かします。または、
- 振り幅調節つまみを回します。または、
- «+»/«-»アイコンをタッチします。
- ▶ 画面の明るさが調節できます。
- ▶ 標準設定は小さな円で表示されています。
- ▶ 変更した内容は黄色枠のアイコンに表示されます。

ソーイングライト

- ▶ 2のアイコンがオンになっているときは、ソーイングライトが点灯しています。
- グレーのアイコンをタッチします。
- ▶ ソーイングライトが消灯されました。

ソーイングライトの明るさ

- タッチペンか指先で画面上の丸いつまみ3を左右に動かします。または、
- 送り長さ調節つまみを回します。または、
- «+»/«-»アイコンをタッチします。
- ▶ ソーイングライトの明るさを調節できます。
- ▶ 標準設定は小さな円で表示されています。
- ▶ 変更した内容は黄色枠のアイコンに表示されます。



調整画面は次のようにして開きます:

- ミシンの電源を切ります。
- ミシンのフロントパネル上の2個の針基線選択ボタンを両方一緒に押したままで、
- ミシンの電源を入れ、画面が表示されたら両方のボタンから指を離します。



画面のズレの調整

- «画面のズレ調整アイコンをタッチします。
- タッチペンを使って十字の中心をタッチします。
- ▶ 十字マークが次のポイントに移動します。
- この作業を繰り返して、合計3ヶ所を測定します。
- ▶ 画面が閉じます。
- ▶ 調整が終わりました。





工場標準設定

- «標準の設定»アイコンをタッチします。



標準設定に戻す

次の選択肢から選びます：

- 1 ソーイング機能のリセット
- 2 刺しゅう機能のリセット
- 3 すべてリセット

- リセットするアイコンをタッチします。
- ✓をタッチして確定します。



ユーザーデータを削除する

次の選択肢から選びます：

- 4 ソーイング «パーソナルプログラム»
- 5 刺しゅう «マイデザイン»
- 6 刺しゅう«メモリースティック» (メモリースティックがマシンに接続されていること)

- 該当するアイコンをタッチするとデータの削除を実行します。
- ✓をタッチして確定します。
- ▶ データが削除されました。

例外:

糸テンションおよびコントラスト、明るさ、背景、回転数はそれぞれの機能ごとに基本設定する必要があります。

クリーニングとアップデート



- «クリーニング／アップデート»アイコンをタッチします。



- 1 ボタンホール押えNo.3Aの感度を調整します。
- 2 ミシンと刺しゅう機をアップデートします。
- 3 糸切り装置の周りをクリーニングします。
- 4 ミシンと刺しゅう機に注油します。
- 5 刺しゅう機のアームを待機／収納位置にセットします。



ボタンホール押えNo.3Aの感度を調整します。

- «感度調整»アイコンをタッチします。



- ボタンホール押え No.3A
 - «スタート/ストップ»ボタンを押すと、
 - ▶ ボタンホール押えNo.3Aが前後に動き始めます。
 - ▶ ボタンホール押えNo.3Aの感度が調整され、ミシンは調整作業が成功したか否かを画面に表示します。
- この操作によって、ボタンホール押えNo.3Aは、お使いのミシンのためだけに調整されました。他のミシンでは使用しないでください。

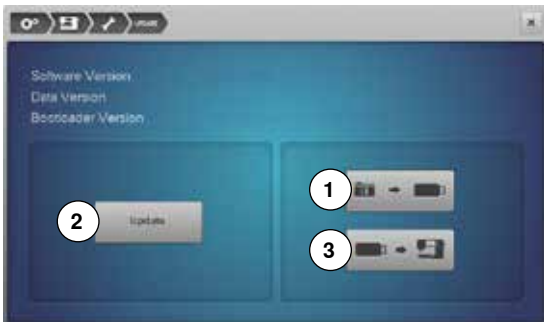
アップデート

ご注意!

「アップデート完了」のメッセージが表示されるまで、ベルニナUSBスティックは絶対に取り外さないで下さい。



- 新しいソフトウェアバージョンの入ったベルニナUSBスティックをセットします。
- «アップデート»アイコンをタッチします。



アップデートを実施する前にミシンのデータと設定を保存しておくことをお勧めします。

- アイコン1をタッチします。
- ▶ USBスティックにデータが保存されました。
- 再度«アップデート»アイコン2をタッチして実行します。

次の確認作業が実行されます：

- ▶ ベルニナUSBスティックがセットされているか。
- ▶ スティックに十分な空きスペースがあるかどうか。
- ▶ スティックに正しいソフトウェアバージョンが含まれているかどうか。
- ▶ データおよび設定が認証されます。

アップデートが正常に完了したら、完了のメッセージが表示され、ミシンを使い始めることができます。

- ▶ アップデートがスタートできない、または作業中に問題が生じた場合は、エラーメッセージが表示されます。



アップデートを実行した後、データや設定が失われた時:

- アイコン3をタッチします。
- ▶ USBスティックに保存したデータと設定が回復されました。



最新のバージョンのソフトウェアはwww.bernina.comでダウンロードできます。



糸切り装置の周りをクリーニングします。

- «クリーニング»アイコンをタッチします。



- 説明に従って糸くずなどを取り除きます。



ミシンと刺しゅう機の注油

- «注油»アイコンをタッチします。



- 画面上の説明とイラストに従って注油してください。

刺しゅう機のアームを待機/収納位置にセットします

刺しゅう機のアームを無理やり手で動かさないで下さい。画面上の説明に従ってアームを待機/収納位置に移動させてください。

- «待機/収納位置»アイコンをタッチします。



インフォメーション



- «インフォメーション»アイコンをタッチします。



- 1 バージョン情報
- 2 代理店情報
- 3 サービスデータ



バージョン情報

- «バージョン»アイコンをタッチします。



- ▶ ミシンと刺しゅう機のバージョンが表示されます。
- ▶ このミシンで縫われた総ステッチ数と前回サービスを受けて以来のステッチ数が表示されます。



代理店情報

- «代理店情報»アイコンをタッチします。



- 関係するアイコンをタッチします。
ベルニナ販売代理店の情報を登録できます。
- 店舗名
- 住所
- 電話番号
- ホームページもしくはeメールアドレス



サービスデータ

- «サービスデータ»アイコンをタッチします。



何かトラブルのあったときには、ミシンの現在の状態 (LOG:ログ)をメモリースティックにダウンロードしてベルニナ販売代理店でのサービスに提供できます。

- ミシンにメモリースティックを接続します。
- «LOG (ログ)»アイコンをタッチします。
- ▶ メモリースティックにミシンの現状データがダウンロードされます。
- メモリースティックを取り外します。

チュートリアル

チュートリアルに関して

チュートリアルにはソーイングと刺しゅうに関する操作方法や説明が準備されています。



- «チュートリアル»ボタンをタッチします。
- ▶ «チュートリアル»画面が表示されます。



- 1 糸掛けの方法
- 2 ソーイングテクニック
- 3 BSR
- 4 刺しゅう
- 5 押え金
- 6 ボタンホール
- 7 キルティング
- 8 トラブルシューティング
- 9 針に関して
- 10 その他
- 11 フリーハンドシステム (FHS)



- 知りたい項目を選びます。ここでは例として押え金を選択します。
- ▶ 押え金に関する項目の一覧表が表示されます。
- 必要な項目(例・押え金の交換等)を選択します。



- ▶ 情報が表示されます。
- 説明文は、振り幅、または送り長さ調節つまみを回すか、または指先で画面をタッチしてスクロールできます。



- «次へ»をタッチします。
- ▶ 次のページが表示されます。



- «戻る»をタッチします。
- ▶ 前のページが表示されます。



- «閉じる»アイコンをタッチします。
- ▶ «チュートリアル»画面が閉じます。
- ▶ 前の画面が表示されます。

クリエイティブコンサルタント

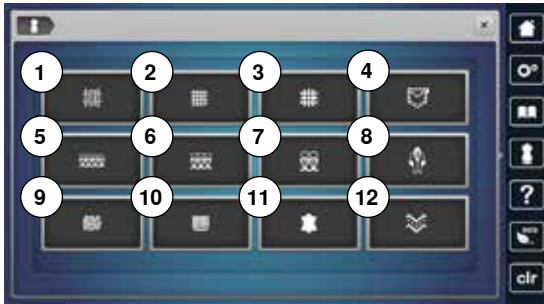
クリエイティブコンサルタントの一覧

クリエイティブコンサルタントは、ソーイングに必要な情報や手法などを提供するオンボードマニュアルです。布地を選ぶと、使いたいソーイング手法、針、押え金、などに関する情報を表示します。

▶ 押え圧と上糸テンションは自動的にセットされます。



- «クリエイティブコンサルタント»ボタンをタッチします。
- ▶ «クリエイティブコンサルタント»画面が表示されます。

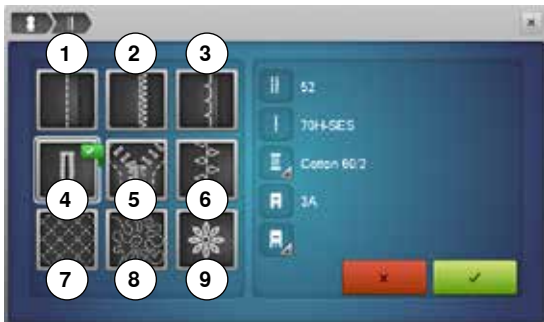


- 1 薄地の織地
- 2 中厚地の織地
- 3 厚地の織地
- 4 デニム地
- 5 薄手のニット地
- 6 中厚手のニット地
- 7 厚手のニット地
- 8 毛皮
- 9 タオル地
- 10 パイル地
- 11 皮やビニール
- 12 チュールとレース

ソーイング手法とお勧めの一覧



- アイコンをタッチして、縫いたい素材を選びます。例えば、薄地の織地。



- 1 縫い合わせ
- 2 オーバーキャストイング
- 3 まつり縫い
- 4 ボタンホール
- 5 ファスナー付け
- 6 飾り縫い
- 7 ミシンキルティング
- 8 フリーモーションステッチ
- 9 アップリケ

- 使いたい手法(例・ボタンホール等)を選択します。
もし知りたい手法がリストになければ、それに近い手法を選んでください。

- ▶ 選んだ布地と使いたいソーイング手法に関してお勧めの情報が表示されます。
- ✓をタッチして確定します。
- ▶ プログラムされたステッチパターンが表示されます。

クリエイティブコンサルタントを閉じるには

- ✕をタッチします。

ヘルププログラムに関して

ヘルププログラムは各ステッチや機能に関する情報を画面に表示します。



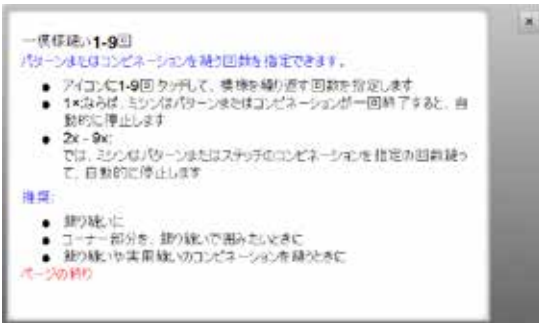
- «ヘルプ»ボタンをタッチします。
- 使いたいステッチまたは機能アイコンやボタンを選択します。



ステッチパターン

画面に次の情報が表示されます：

- ▶ ステッチ名
- ▶ 適した素材
- ▶ お勧めの情報



機能

画面に次の情報が表示されます：

- ▶ 機能の名称
- ▶ 機能に関する説明
- ▶ お勧めの情報

ヘルププログラムを閉じるには

- «閉じる»アイコンをタッチします。
- ▶ ヘルププログラムが閉じます。
- ▶ 前の画面が表示されます。

バランス機能について

実用縫いと飾り縫いステッチ

ミシンはベルニナ工場出荷前に試縫いされ最適な状態に調整されています。布地、糸、安定紙などのいろんな条件によっては、バランスの調節が必要な場合もあります。このような場合には、バランス機能によっていろんなソーイング状況に合わせて調節することができます。



- «i»アイコンをタッチします。
- «バランス»アイコンをタッチします。

実用縫いと飾り縫いステッチ

- ▶ 画面の左側には、基本的なステッチの形状が表示されています。
- ▶ 右側の画面では実際に縫った状態を再現して表示します。



調節方法

例えば、左の画面の右側ではネットステッチの形状が開いてしまってステッチの形が崩れています。

- 送り長さ調節つまみを回すか、「+」/「-」アイコンを使って、画面右側に表示されたステッチを実際に布地の上に現在縫われている状態に合わせてみます。
- ▶ 黄色枠のアイコンに調節した数値が表示されます。
- «閉じる»アイコン、または«i»アイコンをタッチします。
- ▶ 変更内容が保存されました。
- ▶ 前の画面が表示されます。



横送りパターンのバランス調節

- ▶ 画面左側に、正常なステッチの形が表示されています。
- ▶ 右側の画面で実際に縫った状態を前述の方法で再現して表示します。





布地に縫われたステッチ、例えば、ステッチパターンNo.212が縦方向も横方向もステッチの形状が崩れているとします。

縦方向の調節

- 右側に表示されているパターンを実際に縫われた状態になるまで、送り長さ調節つまみ、または«+»/«-»アイコンを使って、縦方向の形を崩します。

横方向の調節

- 右側に表示されているパターンを実際に縫われた状態になるまで、振り幅調節つまみ、または«+»/«-»アイコンを使って、横方向の形を崩します。

標準設定に戻すには

- «i»アイコンをタッチします。
- 黄色枠の«バランス»アイコンをタッチします。
- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ 標準設定にリセットされました。

エコモードに関する説明

ソーイング作業を中断したいとき、ミシンをスリープ状態にしておくことができます。



エコモードを起動する

- «eco»ボタンをタッチします。
- ▶ 画面が暗くなります。
- ▶ 電力消費量を抑えて、ソーイングライトも消灯されますが、ミシンは機能状態にあります。

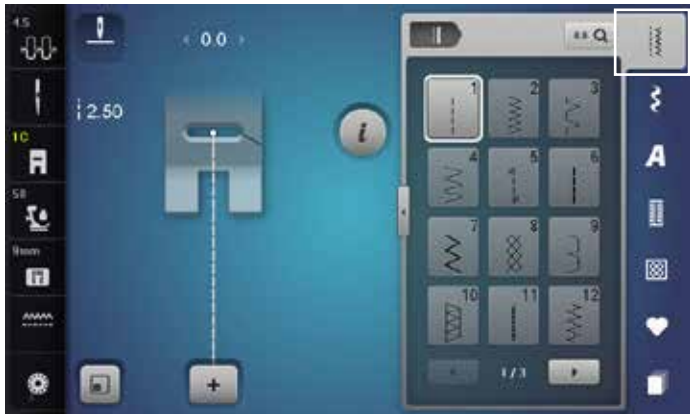
エコモードは小さなお子さんに対する安全モードとしてもご利用いただけます。画面は休止状態になり、ミシンも動きません。

エコモードを解除するには

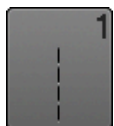
- «eco»ボタンをタッチします。
- ▶ エコモードが終了し、ミシンが使えます。

各種実用縫いステッチ

実用縫いステッチの一覧



- «実用縫いステッチ»ボタンをタッチします。
- ▶ 実用縫いが画面に表示されました。
- その他の実用縫いは、画面をスクロールしてご覧頂けます。



1 直線縫い

伸縮性のない布地、すべての直線縫いに、縫い合わせ、トップステッチ、ファスナーの縫い付けに。



2 ジグザグ縫い

オーバーロック縫いや、エラスティックの縫い付け、レースの縫い付けに。



3 バリオーバーロック

薄手のジャージー地に適しています。伸縮性のあるオーバーロック縫い、ヘム仕上げ、伸縮性のあるシームが可能です。



4 ランニングステッチ

いろんな布地に：つくろい縫い、継ぎはぎパッチ縫い、補強等に。



5 留め縫いプログラム

あらゆる素材に適応、直線縫いの縫い始めと終わりの留め縫いします。



6 伸縮直線縫い

厚地での補強縫いや、トップステッチに。



7 トリプルジグザグ縫い

硬い素材で耐久性のある縫い目に、ヘム縫いや縫い合わせに。



8 ネットステッチ

あらゆるジャージーや滑らかな布地に：ランジェリー、洋服、リネン、つくろい縫い等に。



9 まつり縫い

あらゆる素材に。まつり縫い、ジャージーや薄手の布地でのシェルステッチ効果等、飾り縫いに。



10 ダブルオーバーロック

あらゆるニット地に。縫うと同時に縁の始末ができます。



11 スーパーストレッチ

伸縮性の強い布地に：伸縮性の強いオープンシームに。



12 ギャザーステッチ

ほとんどのタイプの布地に：シャーリングゴムでギャザー縫いに。キルト芯の突合せ = キルト芯の縫い合わせや、飾り縫いに。



13 ストレッチオーバーロック

中厚地のニット地やタオル地、硬い布地に：オーバーロック縫いやフラットシームに。



14 トリコットステッチ

ジャージーに、目立つ縫い目や、目立つ縁かがりに。ランジェリー、セーター、ジャージーのつくろい縫いに。



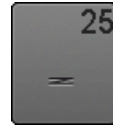
15 ユニバーサルステッチ
 フェルトやレザー等の硬めの布地に。キルト芯のフラットな接ぎ合わせ、目立つ縫い目、エラスティックの縫い付け、飾り縫い等に。



24 バータックプログラム
 ポケットの開口部の補強に、ベルトのループに。



16 二点ジグザグステッチ
 布端の仕上げ、補強縫い、エラスティックの縫い付け、飾り縫い等に。



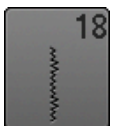
25 バータックプログラム
 ポケットの開口部、ベルトループ、ファスナー縫い付け、縫い終わり、などの補強に。



17 ライクラステッチ
 全方向性伸縮地に。フラット重ね縫い、縁縫い、下着などの補強に。



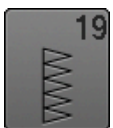
26 大型フライステッチ
 中～厚地に、ポケットの開口部、ファスナーやスリット部の補強に。



18 ストレッチステッチ
 あらゆる伸縮性の強いニット地に。スポーツウエアなどの縫い合わせに。



27 小型フライステッチ
 薄地、中厚地に：
 開口部やファスナーやスリット部の補強に。



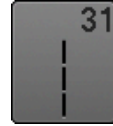
19 補強オーバーロック
 中厚地のニット地やタオル地に：オーバーロック、フラットな縫い合わせに。



29 幅の狭いまつり縫い
 極薄地でのまつり縫いに。



20 ニットオーバーロック
 手編み、または機械編みのニット地で、オーバーロックステッチ= 直線縫いと布端かがりを一度に。



31 ロングステッチ機能を使ったトリプル直線縫い
 硬い素材での耐久性のあるステッチ、ヘム縫いや縫い合わせ等に。



21 しつけ縫い
 しつけ縫いをすることができます。



32 一針直線縫い
 コンビネーションに含まれる二つの飾りステッチパターンのつなぎに使われます。



22 シンプルダーニングプログラム
 薄地や中厚手の布地で自動的に縫い縫い。



33 三針直線縫い
 コンビネーションに含まれる二つの飾りステッチパターンのつなぎに使われます。

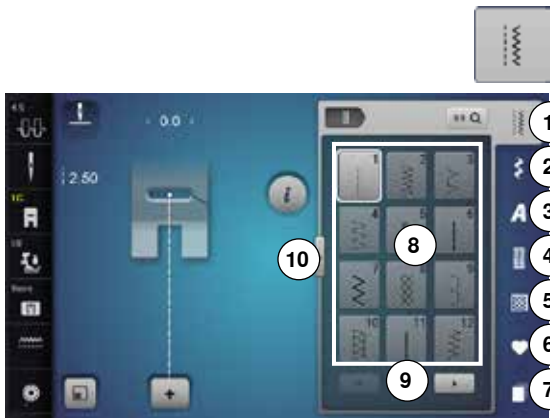


23 補強ダーニングプログラム
 硬い布地の自動つくり縫い。



34 つくり縫い
 ≪連続返し縫い≫機能を使ったつくり縫い。

ステッチパターンを選ぶ



直接選択-方法1

- 縫いたいカテゴリ1-5を選びます。

- 1 実用縫い
 - 2 飾り縫い
 - 3 文字
 - 4 ボタンホール
 - 5 キルトステッチ
 - 6 パーソナルプログラム/メモリー
 - 7 履歴
- ▶ ステッチパターンが画面8に表示されています。
 - 縫いたいステッチを選びます。
 - 更に選べるステッチがある場合は、スクロールボタン9で検索できます。



直接選択-方法2

- 縫いたいカテゴリ1-5を選びます。
- アイコン10をタッチします。
- ▶ ステッチメニューが拡大表示されます。
- ▶ 画面に多くのステッチが表示されます。
- ▶ 更にステッチがある場合は、スクロールアイコンをタッチして検索できます。
- ▶ カテゴリ、例えば、飾り縫いカテゴリが表示されます。
- アイコン10を再度タッチします。
- ▶ 標準画面に戻ります。



ステッチ番号で選択

- <<0-9>>アイコンをタッチします。
- ▶ テンキーボードが画面13に表示されます。
- 模様の番号をテンキーボタンで入力します。
- ▶ 入力した番号は窓11に表示されます。
- アイコン12にタッチします。
- ▶ 下の桁が取り消されます。
- アイコン11をタッチします。
- ▶ 入力した番号が全て消えます。
- アイコン14 をタッチして確認します。

キャンセル

- <<0-9>>アイコンをタッチします。または、
- アイコン15をタッチします。
- ▶ 前の画面が表示されます。



存在しない間違った番号を入力するとアイコン11に???が表示されます。

各ステッチのカスタマイズ

布地や目的に応じてステッチを好みの設定に変えられます。ここに説明する変更方法は全ての実用縫いや飾り縫いにも適用できます。



ステッチメモリーは無制限です。幾つでもステッチを変更して記憶させることが可能です。

- 送り長さ
- 振り幅
- 針基線
- 模様拡大
- 模様反転
- ロングステッチ機能
- 糸調子
- バランス機能
- 模様繰り返し1回から9回

ステッチメモリー

送り長さや振り幅の変更が自動的に記憶されます。

例)

- 例えば:ジグザグ縫いでステッチの振り幅を調節します。
- 別のステッチ(例えば直線縫い)を選びます。
- 先に振り幅を調節したジグザグステッチがそのまま記憶されています。

標準の設定に戻すには

マニュアルでそれぞれの設定を標準に戻すことができます。

- 振り幅／送り長さ表示のいずれか、または両方を選んで黄色枠アイコンをタッチします。または、
- <<->/<<+>>アイコンをタッチします。または、
- 画面の丸いつまみをタッチペンか指先で動かします。または、
- <<clr>>ボタンを押します。
- ▶ **選んだステッチの変更内容は全て標準に戻されます。**
- ミシンの電源をオフにします。
- ▶ ステッチに加えた変更はすべてクリアされます。

恒久パーソナルメモリー

ステッチの標準設定を変更してお好みのステッチに変えて保存でき、電源を切っても記憶しています。



標準設定を変える

- ステッチを選びます、ここではジグザグ縫いを選びます。
- 振り幅と送り長さをつまみを使って変更します。



変更を保存する

- «i»アイコンをタッチします。
- «保存»アイコンをタッチします。
- «閉じる»または«i»アイコンをタッチします。
- ▶ 変更内容が記憶されました。



標準の設定に戻すには

- «i»アイコンをタッチします。
- «標準設定»アイコンをタッチします。
- «閉じる»または«i»アイコンをタッチします。
- ▶ 標準設定にリセットされました。

ステッチの幅と送りを変更する



- ミシン上の調節つまみを動かします。
 - または、画面上の振り幅、または送り長さ調節をタッチします。
 - 画面上の«-»/«+»アイコンをタッチします。または、
 - 画面上の丸いつまみをタッチペンか指先で動かします。
- ソーイング中でも変更できます。



実用縫いやキルティングステッチを縫っている間、実際の送り長さは画面の1に表示されます。



文字を含む他の飾り縫いなどでは、ステッチパターン2の全体の長さが表示されます。実際のステッチの長さ3は、送り長さ表示が開かれたときに表示されます。

実用縫いの適用例

直線縫い



標準押え No.1C/1D

直線縫い No.1

ミシンをオンにすると直線縫いが表示されます。

▶ 針は上に停止します。

適用

すべての布地に適しています。



布に合わせて送り長さを調節する

例えば、デニム地には、大き目の送り長さ(約3-4mm)を使い、薄地には短い送り長さ(約2-2.5mm)を使います。

糸に合わせて送り長さを調節する

例えば、トップステッチにコルドネット糸を送りを長くして(約3-5mm)縫います。

針停止を下に設定する

ピボット縫いなどをするとき、針が布に刺さったまま止まるので、布ずれを起こしません。

トリプル直線縫い



標準押え No.1C/1D

トリプルステッチ No.6

縫い合わせ

耐久性のあるステッチ、硬い、目の詰まったデニム地やコール天の様な布地に。



硬い、目の詰まった織地に

ジーンズ針とジーンズ押えNo.8の組み合わせでデニム地やキャンバス地も針折れせずに縫いやすくします。

飾りトップステッチ

送りを長くして、トリプル直線縫いステッチを使って飾り縫いのトップステッチに。

トリプルジグザグ縫い



標準押え No.1C/1D

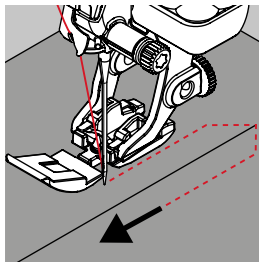
トリプルジグザグステッチ No.7

硬い素材や、特にデニムやデッキチェア用キャンバス地や天幕に。



よく洗う必要のあるものに。布端をまず仕上げます。非常に硬い素材にはジーンズ針を使います。

ファスナー付け



ファスナー押え No.4D

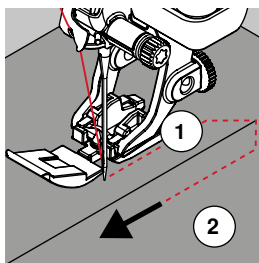
直線縫い No.1

準備

- しつけ縫いで布地を縫い合わせます。
- 留め縫いをします。
- しつけを綺麗にかけます。
- 縫い代を仕上げます。
- アイロンをかけます。
- ファスナーを開きます。
- ファスナーをしつけ縫いします。しつけ、またはまち針でファスナーの位置を決め、布地がファスナーの中心で合うようにしつけ、またはまち針を打ちます。

ファスナー付け

- ファスナーを少しだけ開きます。
- 針基線を右に移動します。
- 左側の上から縫い始めます。
- ファスナーのコイル部分に沿って縫える位置に押え金を置くようにして下さい。
- むしの手前でミシンを止めます。(針は下で止めます)
- 押え金を上げます。
- ファスナーを閉じます。
- 続けて縫い、一番下まで縫い、針を下で止めます。
- 押え金を上げます。
- 土台布を回転させます。
- ファスナーを横切って縫います。針を下で止めます。
- 押え金を上げます。
- 土台布を再度回します。
- 反対側を底から上に向かって縫います。



応用: 両側を下から上に縫う

ベルベットのような毛足の長い布地に適しています。

- 上記のようにファスナー付けの準備をします。
- 針基線を右にして、片側を下から上に向かって布目の中央を縫います。
- ファスナーのコイルの端に沿って斜めに縫います。
- 最初の側1は底からトップへ縫います。
- 針基線を左にします。
- 二番目の側2も同じようにして底からトップへと縫います。



ファスナーのむしの部分の縫い方

- むしから5cmくらい手前まで縫います。
- 針を下で止めて、押え金を上げ、むしを移動させてファスナーを開き、縫いきります。(フリーハンドシステムを使いましょう)

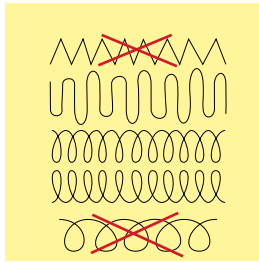
縫い始め

- 縫い始めは、糸を手でしっかりつかんでファスナーを確実に縫い始めるまで、糸をわずかに後ろに引き加減にするとよいでしょう。
- 最初に1-2cm返し縫いをして、縫い始めます。

ファスナー地は厚く、また堅い

ステッチを均一にするために、90/14-100/16番の針をお薦めします。

マニュアル式の繕い縫い



ダーニング押え No.9 (オプション)

直線縫い No.1

穴が空いたり、または摩耗した部分

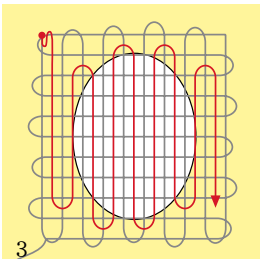
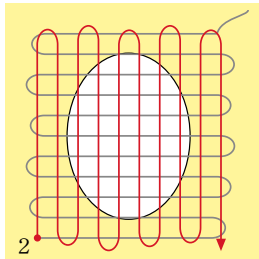
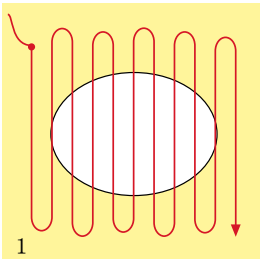
あらゆる布地で縦糸と横糸を「入れ替える」効果で補強します。

準備

- 送り歯を下げます。
- ソーイングテーブルを取り付けます。
- 繕い縫い用枠(オプション)に布地を張ります。
- ▶ ダーニングする付近は歪まないようにびんと張った状態にしておきます。

縫い方

- ー 左から右に縫います。その際、押え圧は0にしておきます。
- ー 縫い終わりで方向転換をするときは、滑らかなカーブを描くようにして布地を動かします。急な方向転換は、穴が開いたり、針が折れたりする原因になります。
- ー 縫う長さをいろいろ変えて繕ってゆきます。糸が均等に布地の上で広がっているのが理想的です。



1 穴を覆うように最初の列を縫います

- 最初の列は摩耗した周りを縫います。間隔が狭すぎないようにご注意ください。
- 縫い目が均一に揃わないように縫いましょう。
- 布地を90度回転させて縫います。

2 次に、最初の列の上を縫います

- あまり間隔を近づけると、仕上がりが堅くなってしまうので、ご注意ください。
- 布地を180度回します。

3 穴の繕いが完了しました

- 更に続けてゆるい列を縫います。



針目が揃わない

- ー 上糸が生地の表側でゆるむのは、針のスピードに対して、刺しゅう枠の動かし方が速すぎるからです。
- ー 生地裏側にループができるのは、刺しゅう枠の動かし方が遅すぎます。

糸が切れる

布を安定した動きで動かしてください。

自動繕い縫い



標準押え No.1C
ボタンホール押え No.3A

シンプルダーニングプログラムNo.22

ほころびや擦り切れた部分を素早く繕います
縦方向の繊維を補強するような感じで繕います。

準備

- 繕い縫い用枠(オプション)に薄手の布地をセットします。
- ▶ ダーニングする付近は歪まないようにびんと張った状態にしておきます。

標準押え No.1Cを使った自動繕い縫い

左端から縫い始めます。

- 最初に縦の一系列目を縫い、
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ 長さがプログラムされます。
- 自動つくり縫いが完了します。
- ▶ ミシンは自動的に停止します。
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。

ボタンホール押え No.3Aを使ったつくり縫い

- 小さなほころびや摩耗した個所を繕う。
- 繕い縫いの最大長は3cm。
- 押え金 No.1Cと同じ手順で繕います。



補強縫い

裏地に薄地の布地を当てたり、接着タイプの芯地を当てます。

ダーニングが歪んでしまう場合は

バランス機能を使って修正します。(バランス機能 60ページ参照)

補強つくり縫い(自動)



ボタンホール押え No.3A

補強ダーニングプログラムNo.23

穴や擦り切れた部分を素早く繕います
縦方向の繊維を補強するような感じで縫います。

準備

- 繕い縫い用枠(オプション)に薄手の布地をセットします。
- ▶ ダーニングする付近は歪まないようにぴんと張った状態にしておきます。

自動ボタンホール押え No.3Aを使った繕い縫い

左端から縫い始めます。

- 最初に縦の一行目を縫い、
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ 長さがプログラムされます。
- 自動つくり縫いが完了します。
- ▶ ミシンは自動的に停止します。
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。



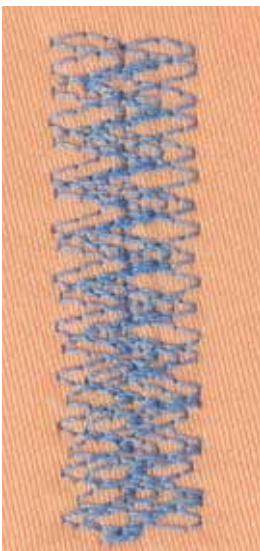
破れた箇所全体をダーニングでカバーできない場合

布の位置を変えて、縫い続けます。ダーニングプログラムは、セットした長さで何回でも繰り返し縫うことができます。



«直接長さ入力» (38ページ参照)を使うと、30mmまでの長さをプログラムして縫えます。

補強繕い縫い



標準押え No.1C

自動つくり縫いNo.34

繕い縫いプログラム No.34 は特に厚手の布地や耐久性のある洋服、例えばジーンズやオーバーオールなどの繕い縫いに大変便利です。

縁かがり縫い



標準押え No.1C

ジグザグ縫い No.2

- あらゆる布地に
- 縁かがりに
- エラスティックソーイング
- 飾り縫い

縁かがり縫い

- 布端を押え金の中央に合わせます。
- 振り幅はあまり大きくないように。
- 送り長さもあまり長くないように。
- ジグザグの片側は布を刺し、反対側は布端ぎりぎりの外側を刺すようにします。
- 布端は巻き込まないでフラットに仕上がるように。
- 薄手の布地には、細いダーニング用の糸を使います。

サテンステッチ

- 密度の詰まった、送りの小さなジグザグステッチ (送り長さ 0.5-0.7 mm)
- サテンステッチでアップリケや刺しゅう等に。



趣向を変えてサテンステッチ No.1354も使えます。

ダブルオーバーロック



標準押え No.1C

オーバーロック押え No.2A

ダブルオーバーロック No.10

縫い合わせに

目の粗いニット地でオーバーロック縫いや、ニット地やジャージで重ね縫いを。



ニット地とジャージー地

- 伸縮地に鋭い針で穴をあけてしまわないように、ジャージー用の針をお勧めします。
- 必要に応じて押え圧を調節してください。

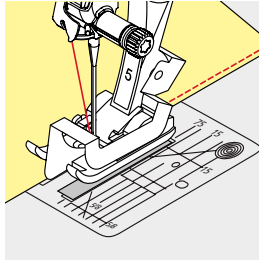
伸縮地を縫う

必要に応じてストレッチ針 (130/705 H-S)をお勧めします。

布縁をトップステッチ

まつり縫い押え No.5
標準押え No.1C
端縫い押え No.10/10C/10D (オプション)

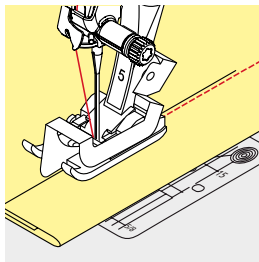
直線縫い No.1



小幅のエッジステッチ

外側のエッジ

- 外側の折り曲げた端(折り山)をまつり縫い押えのガイド板の左側に当てます。
- 針が適当な位置に来るように針基線を布端から移動します。



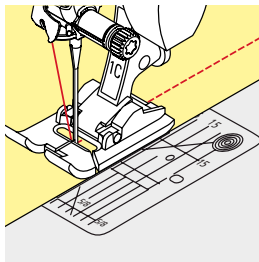
ヘムエッジ縫い

- 布の折り山をまつり縫い押え/押え底のガイド板の右側に揃えます。
- 針基線を右にして、上端に沿って縫います。



まつり縫い押え No.5
針基線は最も左、または最も右。

標準押え金 No.1C と端縫い押え No.10/10C/10D (オプション)
針基線はどこでも構わない。



ワイドエッジステッチ

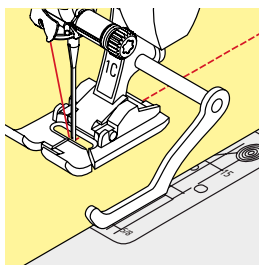
ガイドの方法

押え金をガイドとして利用:

- 布の折り山を、押え金の端に合わせる。

針板をガイド:

- 布地の折り山を針板上のけがき線に揃えてガイドします。(1 to 2.5 cm)



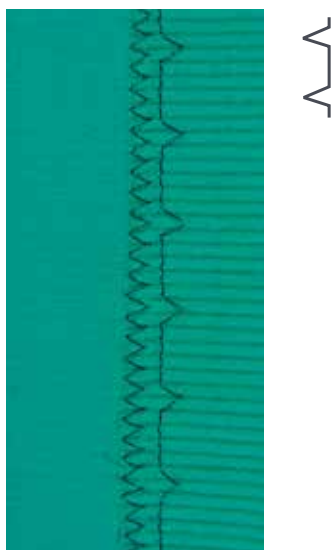
布ガイド:

押え金

- 押え金の後ろ側についているネジを緩めます。
- 布ガイドを押えの穴に差し込みます。
- 幅を適当に調節します。
- ネジを締めます
- 前の縫い目をシームガイドに合わせます。

前に縫った縫い目にシームガイドを合わせて、平行に縫うことができます。

まつり縫い



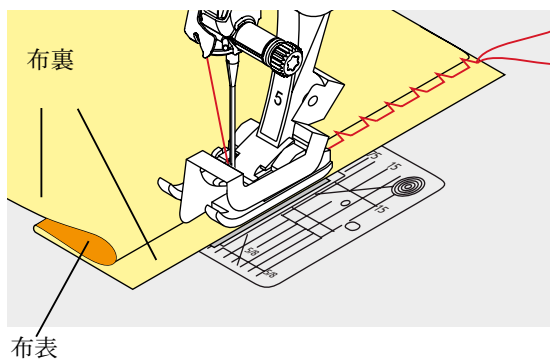
まつり縫い押え No.5

まつり縫い No.9

コットン、ウール、混紡の中厚手の布地に、目立たない縁縫いをするのに使います。

準備

- 布端を切り揃えます。
- 布端を折り、しつけするか、まち針を打ちます。



- そのままで、布地を中表に折り、布端を右側に出します。
- 布地を押えの下に置き、
- 折り山が押えのガイド板の左側にあたるようにセットします。

縫い方

- 左にジグザグした時に、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意して縫います。
- 10cmほど縫ったら、布地の裏表をチェックして、必要に応じて再度振り幅を調節します。



振り幅の微調整

折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります=均等なかがり。

フラットヘム



標準押え No.1C/1D

トリコットステッチ No.14

ジャージー、コットン、化繊、混紡地等で伸縮性のあるフラットヘムステッチに。

準備

- ヘムにアイロンを掛け、必要に応じてしつけます。
- 押え圧を必要に応じて下げます。

縫い方

- 布端から適当な右側の位置にヘム縫いします。
- 布裏ではみ出た布地をハサミで切り落とし揃えます。

留め縫いプログラム



標準押え No.1C

留め縫いステッチ No.5

- あらゆる布地に
- 縫い始めおよび縫い終わりを留め縫いします。

直線縫いで長い縫い目を縫います
決まったステッチ数で留め縫いをします。

縫い始め

- フットコントローラーを踏み込みます。
- ▶ ミシンは縫い始めに自動的に(5針前進、5針後進)で留め縫いをします。
- 必要な長さを縫います。



縫い終わり

- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ ミシンは(5針後進、5針前進)して縫い、
- ▶ 留め縫いの後自動的に止まります。

しつけ縫い



標準押え No.1C/1D

しつけ縫い No.21

- 直線縫いで送り歯が4回送る間に一针縫います。送り長さを6mmにセットすると、24mmの長さの直線縫いを可能にします。送り長さを3.5-5 mmにセットするようにお勧めします。
- 長いステッチのしつけ縫いに。
- しつけ縫い、ヘム縫い、キルトなどに。
- 仮縫い。
- 糸の取り除きが簡単。

準備

- しつけする方向にまち針を打って、
- ▶ 布地がずれないようにします。



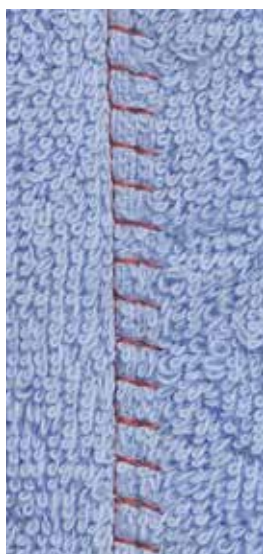
糸の始末

縫い始めと縫い終わりで3-4針留め縫いします。

糸

取り除きやすいようにしつけ縫い糸やつくろい縫い糸を使います。

フラット縫い



標準押え No.1C

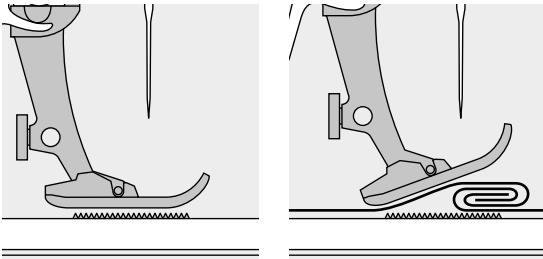
ストレッチオーバーロック縫いステッチ No.13

ふわふわしたタオル地やフェルトに、またレザーなどに最適。

縫い方

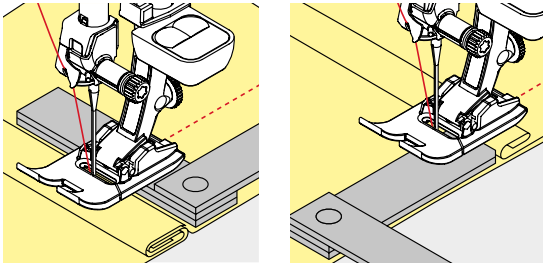
- 布端を重ねます。
- 布端に沿って、ストレッチオーバーロックで縫います。
- 上側の布端に沿って縫います。
- ▶ 耐久性のある、フラットな縫い合わせが可能です。

高さ調節板の使い方



送り歯は、押え金が水平になっている場合、もっとも効果的に働きます。

特に厚地の段差のある布の上で押えが水平に押さえられないときは、送り歯が布地をうまく送ることができないので、送りが詰まってしまいます。



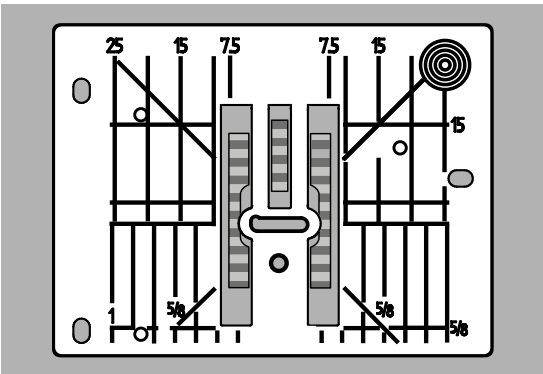
その場合には、図のようにして、高さ調整板を必要な枚数、押えの下に置くようにします。

押えの前方の高さを調節するために、一枚か二枚の高さ調節板を押えの下、出来るだけ針に近い位置に挿入します。押えが水平になるところまで縫ったら調節板を取り外します。

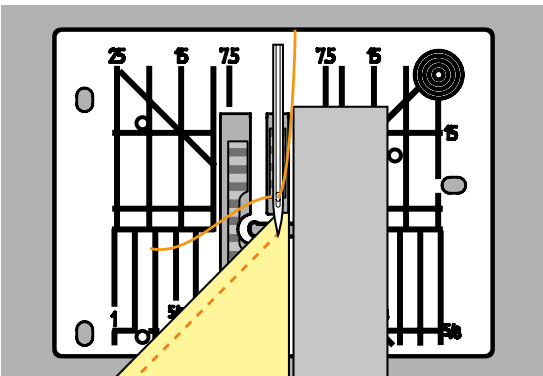


針下停止機能を使います。

コーナーの縫い方



針板と送り歯の関係で、両側の送り歯の間に距離があります。



コーナーを縫う時に、僅かな布地しか送り歯に接触しません。これでは布をしっかり送ることが出来ません。

一枚か二枚の高さ調節板を押えの下に押えに平行に挿入することで、布送りを補正することが出来ます。

▶ 布地を均等に送ります。



針下停止機能を使います。

ボタンホールに関して

ボタンホールの一覧



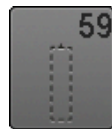
ボタンホールステッチは単に止め具の穴のためだけではなく、飾りとしての効果も多く持ち合わせています。全てのボタンホールはプログラムしていろんな手法で縫うことが可能です。

- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- スクロールすると更に多くのボタンホールステッチが用意されています。



標準ボタンホール

薄地から中厚地、ブラウス、シャツ、ズボン、ベッドリネンなどに。



直線縫いボタンホール

ボタンホールの下縫いに、補強、またはポケットの開き口に使うステッチに。本皮、合成皮革の素材にも使います。



細いボタンホール

薄地から中厚地に、ブラウス、ドレス、子供服や赤ちゃん服に。



ヘアロームボタンホール

薄地から中厚地の織地に。ブラウス、ドレス、レジャーウェア、ベッドリネンに。



ストレッチボタンホール

コットン、ウール、シルクなどでできた伸縮性の高いニット地に。



細いダブルポイントバータックのボタンホール

中厚地での飾り用ボタンホールに：ブラウス、ドレス、ジャケットなどに。



標準バータック付ラウンドボタンホール

中厚地から厚地に、ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどに。



水平バータック付飾り用はと目ボタンホール

しっかりした非伸縮性の布地に：ジャケット、コート、レジャーウェアに。



水平バータック付ラウンドボタンホール

中一厚地のあらゆるタイプの布地に：ドレス、ジャケット、コートやレインウェアに。



ダブルポイントバータック付飾りボタンホール

固い非伸縮性の布地での飾りボタンホールに。



はと目ボタンホール

厚手の非伸縮性の布地：ジャケット、コート、レジャーウェアに。



ボタン付けプログラム

二つ穴、四つ穴のボタン。



ポイントバータック付はと目ボタンホール

しっかりした非伸縮性の布地に：ジャケット、コート、レジャーウェアに。



ジグザグアイレット

コードや細いリボンの穴に、飾りに。



水平バータック付はと目ボタンホール

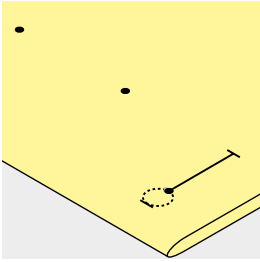
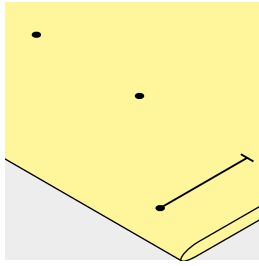
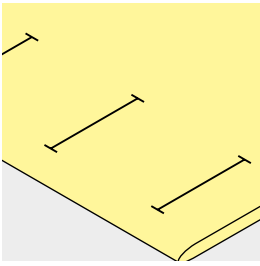
しっかりした、非伸縮性の布地に：ジャケット、コート、レジャーウェアに。



直線アイレット

コードやリボンの穴、そして飾りに。

ボタンホールで重要な事



マニュアルボタンホールの印のつけ方

- ボタンホールを縫う位置にサイズを印します。
- ボタンホール押え No.3C (オプション)を使います。

自動ボタンホールの印のつけ方

- 最初のボタンホールのサイズを印します。
- ▶ 最初のボタンホールを縫い終わったら、ボタンホールのサイズが記憶されます。
- 二番目以降のボタンホールは、縫い始めの位置だけに印 (左図では●) をつけます。
- 自動ボタンホール押え No.3Aを使います。

はと目ボタンホールの印のつけ方

- 直線部分の穴かがりの長さのみ印しを付けます。
- ▶ はと目部分は自動的に追加されて縫われます。
- ▶ 最初のボタンホールが縫い終わったら、ボタンホールのサイズが記憶されます。
- 二番目以降のボタンホールは、縫い始めの位置だけに印を付けます。
- 自動ボタンホール押え No.3Aを使います。

試し縫い

- 常に必ず同じ布地で試し縫いします。
- ボタンホール用芯地を使います。
- 縫うボタンホールを選びます。
- ボタンホールは、布の方向、水平、垂直方向、布の順目、逆目には関係無く、常に同じ方向に縫います。
- ボタンホールの穴を開けます。
- ボタンを通してみます。
- もし長さ等に問題があれば、調整します。

穴かがり幅を調節するには

- 振り幅を調整して下さい。

送り長さを変えてみる

送りの長さを調節するとボタンホールの穴かがりの長さに影響します。

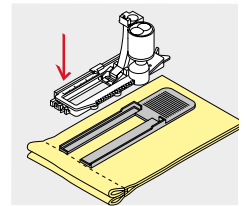
- ▶ ステッチ間のスペース

送り長さを変えた場合：

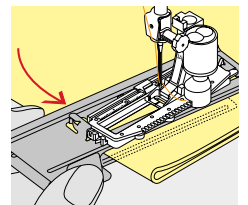
- ボタンホール縫いを再度やり直して長さを記憶させます。



ボタンホールをコーナーや段差部分に縫うときは、ボタンホールガイドアタッチメント(オプション)を使うことをお勧めします。アタッチメントは押えの後ろ側から押えと布との間にスライドさせ、段差を解消するようにセットします。



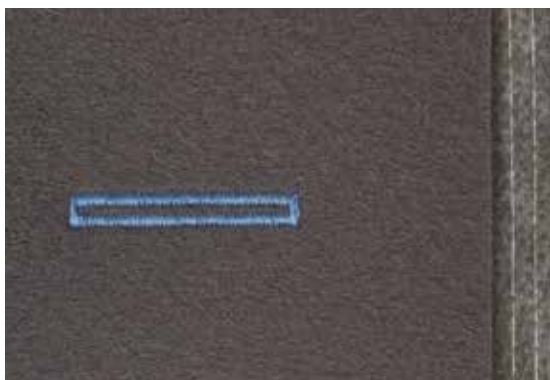
送りの難しい布地にボタンホールを縫うときは、ボタンホールガイドアタッチメント(オプション)のご使用をお勧めします。ボタンホール押え No.3Aと一緒に使います。



ボタンホール用芯地

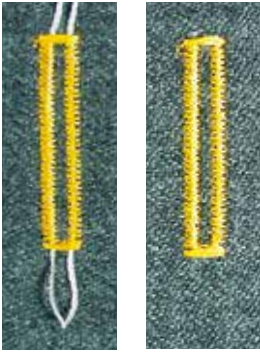


- 芯地はボタンホールの耐久性を増します。
- 布地に合った芯地を選びましょう。



- 厚地で毛深い布地に縫う時は刺しゅう用の安定紙が役に立ちます。
 - ▶ 布の送りが安定します。

ボタンホール芯紐の効果

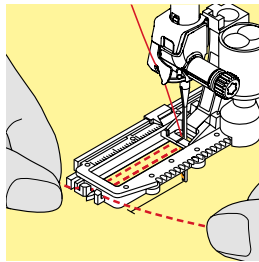
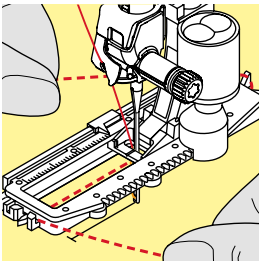


目的

- 芯紐はボタンホールを補強し、型くずれを防ぎ、見栄えを良くします。
- 主にボタンホールNo.51に適しています。
- 位置を確認してセットします。

理想的な芯紐のタイプ

- パールコットン刺しゅう糸サイズ No.8
- 強度のある手縫い用糸
- かぎ編み用ヤーン

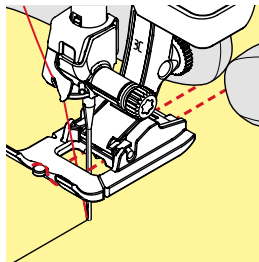
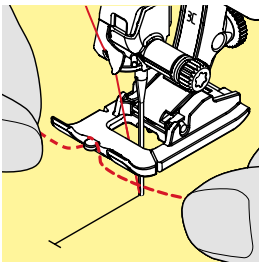


自動ボタンホール押えNo.3Aで芯入りボタンホールを縫う

- 押えを上げます。
- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- 押えの右の下側に芯紐をガイドします。
- 押えの後方にあるピンに芯紐を引っ掛けます。
- 芯紐を手前に引いて、押えの前の溝にはめ込みます。
- 芯糸を押えの止め具に引っ掛けます。
- 押えを下げます。

縫い方

- 通常の方法でボタンホールを縫います。
- 芯紐を手で持たないように。
- ▶ ボタンホールは芯紐を包み込むように縫われます。



ボタンホール押えNo.3C (オプション)で芯入りボタンホールを縫う

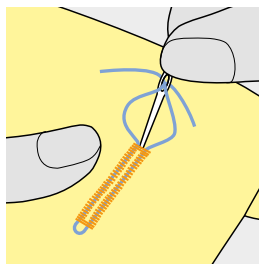
- 押え金を上げます。
- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- ボタンホール押えの(前方の)突起に芯糸を掛けます。
- 芯紐をボタンホール押えの下側を通して後方に引きます。
- 芯紐の両側を押えの下の溝にはまるように持ち、
- 押え金を下げます。

縫い方

- 通常の方法でボタンホールを縫います。
- 芯紐を手で持たないように。
- ▶ ボタンホールは芯紐を包み込むように縫われます。

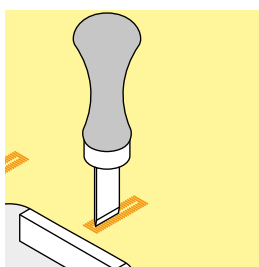
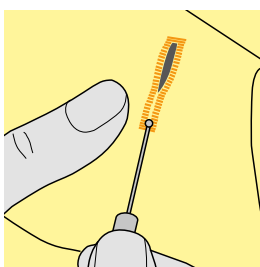
芯紐の始末方法

- 芯紐を引っ張って、ループ部分がボタンホールの縫い目の下に潜り込ませます。
- かかり針を使って、芯紐の端を裏側に出します。
- 紐端は結ぶか、留め縫いします。



ボタンホールをカットして開く前に

間違ってもパータック部分を切ってしまうないように、両端でまち針などをボタンホールに直角に刺します。



シーメリッパーを使ってボタンホールを開ける

- ボタンホールの両端から中央に向かってボタンホールを切り込みます。

ボタンホールカッター(オプション)を使ってボタンホールを切り開く

- 布をブロックの上におきます。
- カッターを、ボタンホールの中央に当てます。
- カッターを力強く押し下げます。

送りバランス



- «i»アイコンをタッチします。
- «バランス»アイコンをタッチします。

調節ダイヤルを使ってバランスを調整する

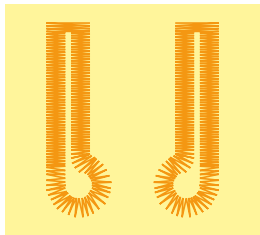
バランスを調節すると、両側の穴かがりを均等に調節します。

直接入力ダイヤルではと目とラウンドボタンホールのバランスを調節します

バランスを調節すると、両側の穴かがりを均等に調節します。

はと目やアイレットのバランス調節は次のように行います。

- 直線部分を縫います。
- ▶ 穴かがりからはと目部分に達したところで、
- ミシンを止めます。
- «バランス»アイコンをタッチします。
- 送り調節ダつまみを回して、画面右側の表示が実際に縫ったボタンホールと同じ形状に歪めます。



A

B

はと目部分が右側に歪んでいますA:

- 送り長さ調節つまみを左に回します。

はと目部分が左側に歪んでいますB:

- 送り調節つまみを右に回します。

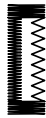
- «i»または«閉じる»アイコンをタッチして、ボタンホールを完成させてください。

はと目ボタンホールとラウンドボタンホールのバランス

バランスの調整は、左右の縫い目それぞれ独自に作用します。

左側のステッチが密すぎるC:

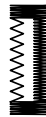
- 送り長さ調節つまみを左に回します。
- ▶ 左側の送り長さは長く、右側は短く調節されます。



C

左側のステッチが粗いD:

- 送り調節つまみを右に回します。
- ▶ 左側は短く、右側は長くなります。



D

はと目やアイレットのバランス調節は次のように行います。

はと目部分が右側に歪んでいますA:

- 送り調節つまみを右に回します。

はと目部分が左側に歪んでいますB:

- 送り長さ調節つまみを左に回します。

マニュアル(手動)の標準ボタンホールのバランス

バランスを調節すると、両側の穴かがりを均等に調節します。

ステッチカウント方式ボタンホールのバランス

バランスの調整は、左右の縫い目に独自に作用します。(マニュアルボタンホールの写真を参照してください)。

- バランスの調整をした後、ボタンホールを再度プログラムし直して下さい。

バランスをクリアーする

- バランス操作画面の黄色枠アイコンをタッチします。または、
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ «clr» はプログラムしたボタンホール自体を削除してしまうので、ご注意ください。

お薦め

必ず同じ布地、芯地を使って試し縫いしてください。



長さを直接入力するボタンホールや、マニュアル式ボタンホールでは、各ステップを個別にバランス調節することが可能です。
ステッチカウント方式のボタンホールでは、左右どちらか一方の縫い目のみの調整を行なうことが可能です。調整を行なった場合、はと目部分も同様に変更されます。

ボタンホールをプログラムする

自動の標準、伸縮地用ボタンホール



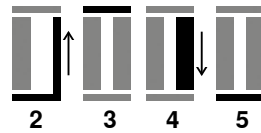
ボタンホール押え No.3A

自動ボタンホール押えNo.3Aのセンサーがボタンホールの長さを自動的に読み取り、繰り返し同じサイズのボタンホールを縫います。
ボタンホールサイズは4mmから31mmの長さまで縫えます。



布送りガイドが平らに布地に接していなければなりません! 布ガイド部分が縫い代などの重なる部分に掛かって斜めになっていると正確な布送りができません。

自動標準ボタンホールと伸縮地用ボタンホール No.51, 52, 53



ボタンホールをプログラムする

- 最初の穴かがりを前進で縫います。
 - ミシンを止めます。
 - 《返し縫い》ボタンを押します。
 - 《auto》とプログラムされたボタンホールの長さ(mm)で画面に表示されます。
 - ボタンホールの長さがプログラムされました。

ミシンは以下のステップを自動で縫います。

- 後進で直線縫いを縫います。
- 最初のバータックを縫います。
- もう一方の穴かがりを前進で縫います。
- 二番目のバータックを縫い、留め縫いをします。
- ミシンは自動で止まり、ボタンホールの縫い始めに戻ります。

自動ボタンホール

- 次からは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(《返し縫い》ボタンを押す必要はありません。)
- プログラムしたボタンホールはメモリーに記憶させておくことができます。(92ページ参照)
- 《clr》ボタンを押します。
- プログラムしたボタンホールは消去されました。



繰り返し縫い

自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

ソーイングスピード

- 中くらいのスピードで縫いましょう。
- 同じスピードで縫うのが穴かがりの縫い目を揃える秘訣です。

サイズ直接入力の自動ボタンホール

ボタンホール押え No.3A

ボタンホールの長さを入力する

ボタンホール押えNo.3Aを使って特定のサイズのボタンホールを縫うことができます。
ボタンホールの長さ = カットの長さ(mm)



- 縫いたいボタンホールを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «サイズを直接入力»アイコンをタッチします。

ボタンホールのサイズを決める

- 振り幅または送り長さ調節つまみを使って、ボタンホールのサイズを入力します。
- ▶ 入力したサイズはボタンホールの下に表示されます。
- ▶ ボタンの上に表示されるのはボタンのサイズそのものです。
- 画面の上部に表示された小さな«i»アイコンをタッチします。
- ▶ 機能の一覧が表示されます。
- ▶ 入力したサイズは記憶されました。
- ▶ «auto»と記憶されたサイズが画面左側に表示されます。

ボタンホールメニューに戻ります

- «i»または«閉じる»アイコンをタッチします。
- ▶ ボタンホール画面が表示されます。

ボタンサイズの測定と自動ボタンホール

ボタンホール押え No.3A

ボタンサイズを計る

ボタンの直径サイズを計ってボタンホールのサイズを自動的に計測します。実際の計測されたサイズに2mmが加算されます。

- ボタンを、画面右の黄色い円に当てて持ちます。
- 振り幅、または送り長さ調節つまみを回して、黄色い円がボタンのサイズに合うように調節します。
- ▶ ボタンのサイズが画面上ボタンの上の2本の線の間に表示されます。(例えば、画面では14mm)
- ボタンを画面から離します。
- «i»または«閉じる»アイコンをタッチします。
- ▶ サイズが入力されました。
- ▶ «auto»とプログラムされたサイズが画面左側に表示されます。



ボタンの厚みに対する修正

ボタンの厚みに応じてボタンホールのサイズを調節します(浮いたボタンなど)。例えば、ボタンの厚みが1cmなら、ボタンホールサイズ + 1 cm (2mmを含む)。ボタンがボタンホールを滑らかに通過するようにチェックしましょう。



ボタンホールの縫い始めに戻る

- «頭出し機能»ボタンを押します。
- ▶ プログラムはボタンホールの縫い始めに戻ります。



記憶したボタンホールの長さを削除する

- «clr»ボタンを押すか、「REC»アイコンをタッチします。
- ▶ 画面左端の«auto»表示が消えて、「REC»表示が現れます。
- これで次のボタンホールの長さをプログラムできます。

自動ラウンド、はと目ボタンホール



ボタンホール押え No.3A

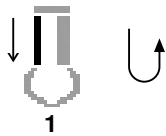


布送りガイドが平らに布地に接していなければなりません! 布ガイド部分が縫い代などの重なる部分に掛かって斜めになっていると正確な布送りができません。

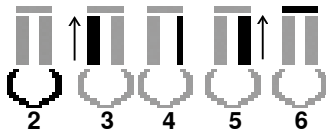
自動ラウンド、はと目ボタンホールNo.54-58, 68

ボタンホールをプログラムする

- 1 ● 最初の穴かがりを直線で前進縫いします。
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ «auto»とプログラムしたサイズ(mm表示)が画面に表示されます。
- ▶ ボタンホールの長さがプログラムされました。



ミシンは以下のステップを自動で縫います。



- 2 はと目を縫い、
- 3 最初の穴かがりを後進縫いし、
- 4 次に、直線で前進縫いし、
- 5 もう一方の穴かがりを後進で縫い、
- 6 最後にパータックと留め縫いをします。
- ▶ ミシンが止まり、ボタンホールの最初の位置に戻ります。

自動ボタンホール

- ▶ このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
- プログラムしたボタンホールを必要なくなるまで記憶させておくことができます。(92ページ参照)
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。

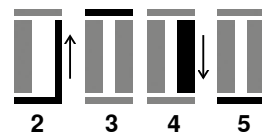


繰り返し縫い

自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

はと目ボタンホールを二度縫いする

- 厚い布地では、はと目ボタンホールを二度縫いすると見栄えのよい、しっかりした仕上がりになります。一度目は送り長さを少し大きくします。送りを変えても全体のボタンホールの長さは変わりません。
- 最初のボタンホールを縫い終わった後、そのまま押え金も布地も動かさないで下さい。
- 送り長さを少し短くして、もう一度ボタンホールを縫います。



ボタンホールをプログラムする

- 1
 - 最初の穴かかりを前進で縫います。
 - ミシンを止めます。
 - «返し縫い»ボタンを押します。
 - ▶ «auto»とプログラムされたボタンホールの長さが(mmで)画面に表示されます。
 - ▶ ボタンホールの長さがプログラムされました。

ミシンは以下のステップを自動で縫います。

- 2 後進で直線縫いを縫います。
 - 3 上の部分のバータックを縫います。
 - 4 もう一方の穴かかりを前進で縫います。
 - 5 下の部分のバータックと、留め縫いをします。
- ▶ ミシンは自動で止まり、ボタンホールの縫い始めに戻ります

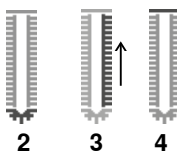
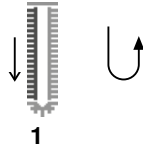
自動ボタンホール

- ▶ 次からは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
- プログラムしたボタンホールはメモリーに記憶させておくことができます。(92ページ参照)
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。

ヘアローム(伝統的) ボタンホール

ボタンホール押え No.3A

ヘアロームボタンホールステッチ No.63



ボタンホールをプログラムする

- 最初の穴かがりを前進で縫います。
 - ミシンを止めます。
 - «返し縫い»ボタンを押します。
 - ▶ «auto»とプログラムされたサイズ(mm表示)が画面に表示されます。
 - ▶ ボタンホールの長さがプログラムされました。

ミシンは以下のステップを自動で縫います。

- ラウンド部分を縫い、
- もう一方の穴かがりを後進で縫い、
- バータックと留め縫いします。
- ▶ ミシンが自動で止まり、次のボタンホールの最初の位置に戻ります。

自動ボタンホール

- ▶ 次からは、同じサイズのボタンホールを、«返し縫い»ボタンを押すことなく縫えます。
- プログラムされたボタンホールは必要なくなるまでメモリーに記憶させておくことができます。(91ページ参照)
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは削除されました。

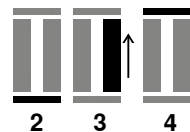
ステッチカウント式ボタンホール



- «i»アイコンをタッチします。
- «REC 123»アイコンをタッチします。

ボタンホール押え No.3C (オプション)

全てのボタンホールタイプに



ボタンホールをプログラムする

- 最初の穴かがりを前進で縫います。
 - ミシンを止めます。
 - «返し縫い»ボタンを押します。
- 手前のバータックを縫います。
- 二番目の穴かがりを後進で縫います。
 - ミシンを縫い始めの位置で止めます。
 - «返し縫い»ボタンを押します。
- ミシンは奥側のバータックを縫って、留め縫いして自動的に止まります。
 - ▶ «auto» が画面に表示されます。
 - ▶ ボタンホールの長さがプログラムされました。
 - ▶ 続けて同じボタンホールを縫うことができます。



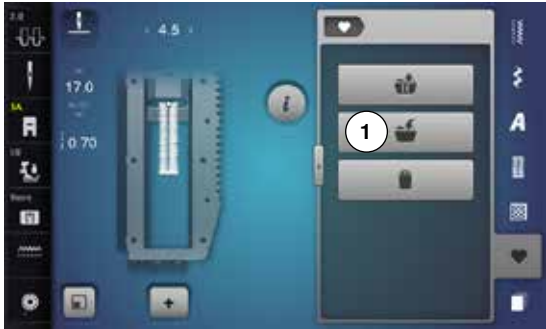
— 左側の一列は前進で、右側は返し縫いで縫われます。

ボタンホール

ボタンホールを記憶する



- «メモリー»ボタンをタッチします。

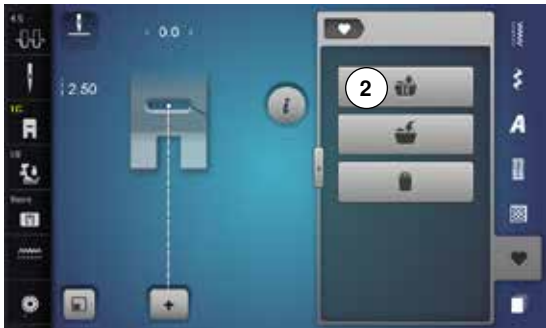


最初のボタンホールをプログラムする

- «保存»アイコン1をタッチします。
- ▶ 4種類のフォルダーが表示されます。
- ボタンホールを記憶させるフォルダーを選びます。ここでは例えばフォルダー 1。
- 黄色枠の«保存»アイコンをタッチします。
- ▶ ボタンホールはメモリーに記憶されました。

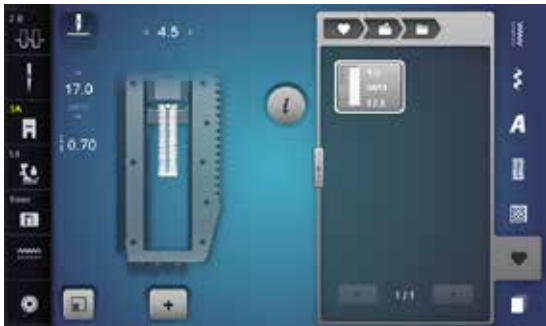


- «メモリー»ボタンをタッチします。



保存したボタンホールを選ぶ

- フォルダー2をタッチする。
- ▶ 4種類のフォルダーが表示されます。
- ボタンホール画記憶されているフォルダーを選びます。ここでは例えば、フォルダー1。



- ボタンホールを選択します。

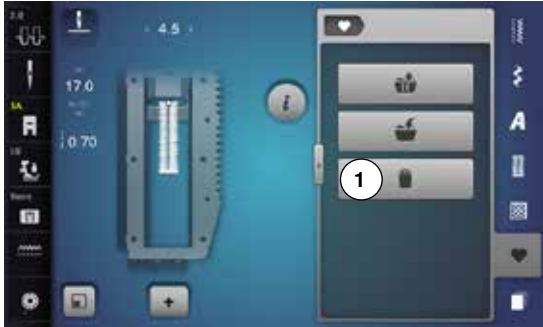


保存されたボタンホールを修正する

- «i»アイコンをタッチします。
- «サイズ直接入力»アイコンをタッチします。
- 保存されたボタンホールの長さを調節します。
- «i»または«閉じる»アイコンをタッチします。
- ボタンホールを説明通りにプログラムし直します。



- «メモリー»ボタンをタッチします。



保存したボタンホールを消去する

- «削除»アイコン1をタッチします。
- ▶ 4種類のフォルダーが表示されます。
- ▶ 削除したいボタンホールが記憶されているフォルダーを選びます。ここでは、例えばフォルダー1。
- 消したいボタンホールを選びます。
- ✓をタッチして確定します。
- ▶ ボタンホールが消去されました。

7または5ステップ手動ボタンホール



ボタンホール押え No.3C (オプション)

- 縫いたいボタンホールを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «man (マニュアル)»アイコンをタッチします。

穴かぎりの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、それに留め縫いはプログラムされています。各ステップを選ぶには、スクロールするか、矢印アイコンを使うか、直接選ぶか、または«返し縫い»ボタンで選べます。



7-ステップボタンホールを縫う

- ▶ ステップ1がボタンホールの縫い始めです。
- ▶ ステップ2 でボタンホールを縫い始めます。
- そのままボタンホールの最初の穴かぎりを縫います。
- ミシンを適当なところで止めて、または最初に印をつけた位置まで縫います。
- ステップ3を選びます。
- ▶ ミシンが反対方向に直線縫いします。
- 最初の縫い始めまで戻ったらミシンを止めます。
- ステップ4を選びます。
- ▶ ミシンが上のバータックを縫って、自動的に停止します。
- ステップ5を選びます。
- ▶ 反対側の穴かぎりを縫います。
- 最初の穴かぎりの長さを縫ったらミシンを止めます。
- ステップ6を選びます。
- ▶ ミシンが下のバータックを縫って、自動的に停止します。
- ステップ7を選びます。
- ▶ ミシンが留め縫いをして、自動的に停止します。



5-ステップボタンホールを縫う

- ▶ ステップ1がボタンホールの縫い始めです。
- ▶ ステップ2 でボタンホールを縫い始めます。
- そのままボタンホールの最初の穴かぎりを縫います。
- ミシンを適当なところで止めて、または最初に印をつけた位置まで縫います。
- ステップ3を選びます。
- ▶ ミシンは、はと目を縫って自動的に止まります。
- ステップ4を選びます。
- ▶ ミシンは反対側の穴かぎりを後進で縫っていきます。
- 最初の縫い始めまで戻ったらミシンを止めます。
- ステップ5を選びます。
- ▶ ミシンは上のバータックを縫って、自動的に留め縫いします。



直線縫いボタンホール No.59

- 自動ボタンホールと同じ手順で縫います。(87ページ参照)
- 柔らかい、ソフトな緩い織りの布地には、耐摩耗性の強いボタンホール No.59が最適です。直線縫いボタンホールは雨具、ビニール地、皮、フェルトなどで補強するのに有効です。

ボタン付けプログラム



- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- «ボタン付けプログラム»アイコンをタッチします。

ダーニング押え No.9 (オプション)
ボタン付け押え No.18 (オプション)

ボタン付けステッチ No.60

二つ穴、四つ穴のボタン。

準備

- 送り歯を下げます。

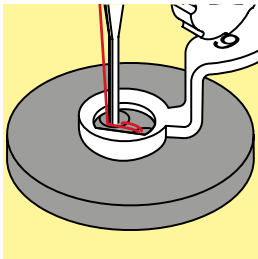


ボタンの縫い付け

飾り付けのためにボタンを縫うときはボタンには«脚(あし)»をつけないで縫います。「脚」= ボタンと布地の間に隙間を作ること。脚をつけるにはボタン付け押えNo.18を使うと便利です。

ダーニング押えNo.9 (オプション)でボタン付け

- ボタン付けプログラムを選択します。
- はずみ車を手で回して針をジグザグさせて、ボタンの二つの穴の距離を測ります。
- 必要ならば振り幅を調節します。
- 上下の糸を手で持ちながら、縫い始めます。
- 最初に左側の穴で自動で留め縫いをします。
- 左右の穴で留め縫いしながら縫います。
- ▶ ミシンが自動的に止まるまで縫い続けます。次のボタンを縫いましょう。



始めと終わりの糸始末

糸は留め縫いされていますので、余分な糸を切り取ります。

ボタンの留め縫いの方法

- 両方の糸を長く残して切り、布地の裏側に引き出します。
- 両方の糸を布裏で結びます。
- 余分な糸を切り取ります。

ボタン付け押えNo.18 (オプション)を使って縫う

- 押えのシャンクにある調節ネジでボタンの浮き加減を調節します。
- ボタン付けプログラムを選びます。前述のNo.9の押え金と同じ要領で縫います。

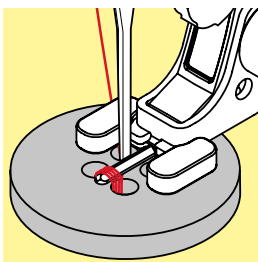


四つ穴のボタンを縫うには

- 手前側の穴をまず縫います。
- 次にボタンを手前に移動します。
- 同じようにボタンの後列を縫います。



強度を増したいときは、二度繰り返し縫うことをお勧めします。



アイレットを縫うには



- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- «アイレットプログラム»アイコンをタッチする。

標準押え No.1C

オープン刺しゅう押え No.20C

ジグザグアイレット No.61

直線アイレット No.62



アイレット

- アイレットを選びます。
- 布地を押えの下に置き、アイレットを縫います。
- ▶ 縫い終わるとミシンは自動で止まります。

アイレットに穴を開ける

- 千枚通し、パンチ・プライヤー、穴あけなどでアイレットに穴を開けます。



アイレットの形状がいびつな場合はバランス機能を使って調節します。
しっかりしたアイレットには、二度縫いをお勧めします。

飾り縫い

飾り縫いの一覧



- «飾り縫い»ボタンを押します。
- ▶ 飾り縫いのカテゴリーが表示されます。
- 縫いたいステッチカテゴリーを選びます。
- ▶ 選んだステッチカテゴリーが表示されます。
- 縫いたいステッチを選びます。



- アイコン1をタッチします。
- ▶ 画面全体に表示されます。

適用

シンプルなデザインや複雑なものなど、布地にあわせて飾りステッチを選びます。

- 薄地には、飾り縫いステッチと直線縫いを組み合わせるとよいでしょう。例えば飾り縫いステッチ No.101等。
- 中厚手の布地などには飾り縫いと直線縫いまたは幾つかのサテンステッチを組み合わせるのも趣向があります。例えば、飾り縫いステッチ No.107等。
- 中厚地には、飾り縫いとサテンステッチを組み合わせるとよいでしょう。例えば飾り縫いステッチ No.401等。



ステッチカテゴリー

- カテゴリー100 = 花柄ステッチ
- カテゴリー200 = 横送り花柄ステッチ
- カテゴリー300 = クロスステッチ
- カテゴリー400 = サテンステッチ
- カテゴリー500 = 横送りサテンステッチ
- カテゴリー600 = 装飾ステッチ
- カテゴリー700 = ヘアローム(伝統的)ステッチ
- カテゴリー800 = 横送りヘアロームステッチ
- カテゴリー900 = ノベルティー(斬新な)ステッチ
- カテゴリー1000 = 横送りノベルティーステッチ
- カテゴリー1200 = 横送り優美な飾りステッチ
- カテゴリー1400 = テーパーステッチ
- カテゴリー1500 = スカイラインステッチ
- カテゴリー1700 = インターナショナル模様

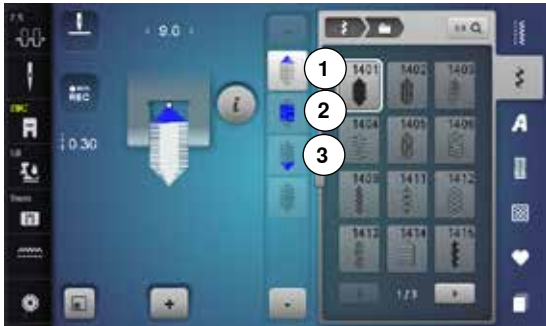


完璧なステッチを縫うには

- 上下に同じ色の糸を使うようにしましょう。
- 布裏に破り取れる極薄のステッチ用の安定紙を使って布地を補強します。
- パイル地や毛足の長い材質の布地には表側に水溶性の安定紙をあてて縫うとよい結果が得られます。(例えば、ウール、ベルベット等) 縫ったあとで簡単に取り除けます。

テーパーステッチ

テーパーステッチはステッチの始まりと終わりがくさび状に尖ったデザインです。四方向のステッチがプログラムされており、またマニュアルでいろんな方向に縫うことも可能です。

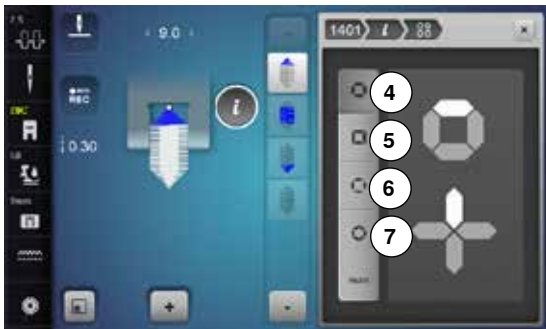


- ステッチNo.1401を選びます。
- ▶ 最初に縫う部分1がオンになっています。
- ▶ セクション1と3はプログラムされた長さで、セクション2の長さは「返し縫い」ボタンを押して自由に決められます。



角度を変えるには

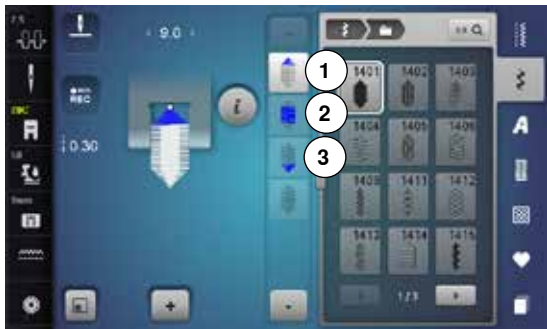
- «i»アイコンをタッチします。
- «角度のタイプ»アイコンをタッチします。



- ▶ 画面にプログラムされた角度が表示されます。
- ▶ 角度4がオンになっています。
- アイコン5、6 または 7をタッチして別の角度を選べます。



- «man(マニュアル)»アイコンをタッチします。
- 上段の«+»と«-»アイコンを使って、先端の形を-1.00(左端)から1.00(右端)に移動できます。
- 中央の黄色い番号をタッチすると、先端をパターン中央(0.00)に移動できます。
- 下段の«+»と«-»アイコンを使って、先端の角度を0.00°から90.00°の間で調節できます。
- 中央の黄色い番号をタッチすると、角度が45°にセットされます。



セクション2の長さをプログラムする

- ▶ テーパーパターンが選ばれておるときは、「REC」アイコンがオンになっています。
- 最初の部分を縫います。
- 「返し縫い」ボタンを使って、セクション2の長さをセットします。
- ▶ 長さを一度セットすると、操作画面はオフになります。(オフ: 明るく表示)
- ▶ セクション2のセットが終わると、セクション3が自動的に縫われ、ミシンが停止します。
- 新しく長さを入力する場合には、再度アイコンをタッチして下さい。



セクション2の寸法をmmで直接入力する

- 「テーパの長さ」アイコンをタッチします。
- ▶ 振幅または送り長さ調節つまみを回して長さを決めます。
- 画面上部に表示された小さな「i」アイコンをタッチします。
- ▶ 機能の一覧が表示されます。
- ステッチパターンを縫います。
- ▶ 三つの部分が自動で縫われミシンが停止します。
- 新しく長さを入力する場合には、再度アイコンをタッチして下さい。



セクション2の長さをマニュアルで設定

- 「man (マニュアル)」アイコンをタッチします。
- ▶ 最初の部分を縫います。
- 「返し縫い」ボタンを使ってセクション2の長さを決めます。
- ▶ セクション3は自動的に縫われ、ミシンが停止します。
- ▶ 長さは記憶されていないので、縫い直すには同じ作業を繰り返します。

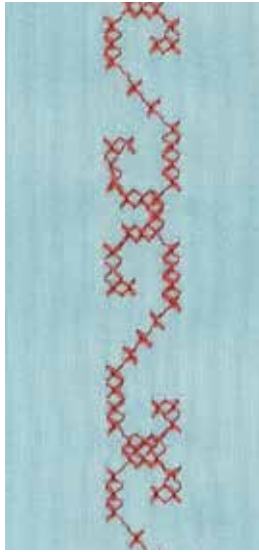


戻る

- 「i」または「閉じる」アイコンをタッチします。
- ▶ 機能画面が閉じます。
- ▶ テーパーステッチが表示されます。

飾り縫いの使い方例

クロスステッチ



標準押えNo.1C/1D または、
オープン刺しゅう押え No.20C、または20D (オプション)

クロスステッチ

- クロスステッチは伝統的なステッチです。飾り縫いに適しています。
- 麻布にクロスステッチを縫うと、手縫い風のクロスステッチに仕上がります。

適用

- ホームデコレーションに。
- 衣類のふち飾りに。
- さまざまな飾り縫いに。

縫い方

カテゴリ-300のクロスステッチは、他のどの飾りステッチとも同様に縫ったり、コンビネーションで縫ったりできます。

ふち飾りを縫う

- クロスステッチを選択します。
- シームガイド、またはソーイングテーブル布ガイドを使って一列目を縫います。最初の列が歪むと仕上がりに大きく影響しますので、一列目をまっすぐに縫うことがとても大切です。
- 新しいステッチを選ぶ。
- 二列目のステッチを、一列目から押え金の幅一つ分開けるようにして縫います。
- 三列目以降も同様にして縫っていきます。



クロスステッチにはコットン糸を使いましょう。ステッチがしっかりと太く、きれいに仕上がります
ステッチが織物のように仕上がります。

ピンタック



ピンタック押え(オプション)

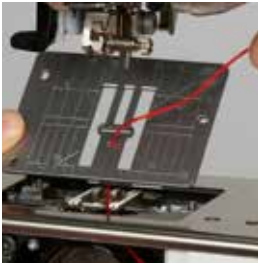
- No.30 (3本溝) = 4mm 二本針:厚地に。
- No.31 (5本溝) = 3mm 二本針:中-厚地に。
- No.32 (7本溝) = 2mm 二本針:薄地-中厚地に。
- No.33 (9本溝) = 1または1.6mm 二本針:極薄地(ピンタックコードは使えません)
- No. 46C (5本溝) = 1.6-2.5mm 二本針:非常に軽い~中量素材

直線縫い No.1

- ピンタックでは布のサイズが縮まりますので、大きめの布をご用意下さい。
- ピンタックとは、布を少しつまんで、縫ったものです。通常、布が縮みますので、型紙に合わせてカットする時は、前もってピンタックを縫っておきます。
- 飾り用に、または他のヘアローム手法と併せて使います。

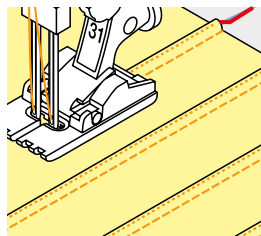
コード芯入りピンタック

- ピンタックをコード芯と一緒に縫うこともできます。
- コード芯を使うと、立体感のある仕上がりになります。
- 選んだピンタック用押え金の溝に合うコード芯を使用します。
- コード芯は色落ちしない、縮まないものを選びましょう。



コード芯をセットする

- 針板を外します。(25ページ参照)
- 釜カバーを開けます。
- 下側からコード芯を通し、ポピン部分を抜けて、針板の丸穴に通します。
- 針板を戻します。
- 釜カバーを閉じます。
- コード芯は引っ掛からないでスムーズに送られるように、釜カバーの細いすきまを通します。
- コード芯の糸こまは、フリーハンドシステム(膝押え上げレバー)に通しておきます。
- コード芯がスムーズに引き出されるのを確認しておきましょう。



ピンタックを縫う

- 最初のタックを縫います。最初に縫い線を描いておくとういでしょう。
 - ▶ コード芯は、自動的にピンタックの中に縫いこまれます。
- コード芯は布の裏側に下糸で縫いこまれていきます。
- 必要ならば、布に歪を発生させないように、布の向きを変えながら進めます。
 - 最初のピンタックを、押え金の溝の一つに合わせます。(タック同士の距離を考えて決めます)
 - 二列目を縫います。
 - この二列のピンタックに合わせて、残りを縫っていきます。



もしコード芯がスムーズに引き出されこないようなら、釜カバーを開けて、セットアッププログラムで下糸センサーをオフにして、釜カバーを開けたままで縫ってみてください。

ボビンマジック

ご注意!

この手法では、下糸のテンションを調節する必要があります。



フリーモーションソーイング

ボビンに糸以外のコードなどを巻いて縫います。フリーモーションテクニックで布地を飾ります。普通のフリーモーションソーイングと同じ要領ですが、飾り付けるのは**布裏**です。

縫う部分は、刺しゅう用の安定紙で補強しておきましょう。布の裏側にデザインを描きます。あるいは、布の表にデザインを描いて、コットン、ポリエステルまたはレーヨンの糸を使い、直線縫いでなぞっておいてもよいでしょう。裏側に出たステッチラインをガイドとして、ボビンマジックをしていきます。

ボビンマジック手法にBSR機能を使うこともできます。作品を一定の速度で動かすことを心がけてデザインを縫います。縫い終わったら安定紙を綺麗に取り除きます。

まず実際の布地と糸で試縫いして仕上がりをチェックしましょう。必要に応じて上糸、必要に応じて、上糸テンションを調節します。



飾り縫いステッチを選ぶ

全ての飾りステッチがこの手法に適しているわけではありません。シンプルな前進のみの飾り縫いが適しています。サテンタイプのステッチや複雑な伸縮縫いを繰り返すデザインステッチは使わないようにしましょう。

オープン刺しゅう押え No.20 or No.20D (オプション)がこの縫い方には適しています。

- 送り長さを大きく、振り幅は広めに調整します。太い糸を使って縫う場合、この方がきれいに仕上がります。
- ロングステッチ機能を使うと、飾り縫い効果のあるステッチを作り出すことができます。
- 必要に応じて、上糸テンションを調節します。

キルトステッチ

キルトステッチの一覧



キルティング、パッチワークやアップリケ等に最適ないろんなステッチが用意されています。

- «キルトステッチ»ボタンをタッチします。
- 縫いたいステッチを選びます。
- ▶ ステッチパターンの中には振り幅を変更できないものもあります。
- ▶ 振り幅が変更できないステッチパターンの場合には、「鍵」マークが表示されます



1324 キルター用留め縫い機能



1329 ブランケットステッチ



1339 各種飾り縫いキルトステッチ
1339-1345, 1351,
1355-1359



1325 キルティング用直線縫い



1330 ダブルブランケットステッチ



1347 キルトステッチおよび手縫い風
キルトステッチ各種
1347, 1348, 1350



1326 ピーシングステッチ、直線縫い



1331 まつり縫い (狭い)



1352 ブランケットステッチ (上送り)



1327 ステップリングステッチ



1332 フェザーステッチ



1353 ダブルブランケットステッチ (上
送り)



1328 手縫い風キルトステッチ



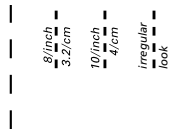
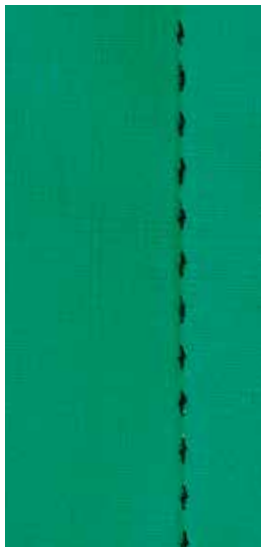
1333 フェザーステッチ各種
1333-1338



1354 サテンステッチ

キルトステッチの適用例

手縫い風キルトステッチ



標準押え No.1C

手縫い風キルトステッチ No.1328, 1347, 1348, 1350

殆どの布地に対応出来、「手縫い風」ステッチを縫えます。

糸

- 上糸 = 透明糸
- 下糸 = 30/2-30番二本抛りコットン糸

試し縫い

- ▶ 上糸で下糸を強く引き上げます。
- 一針針目が見える(下糸)
- 一針針目が見えない(上糸:透明糸) = 手縫い風効果

上糸テンション

布地に合わせて上糸テンションを(6-9)に強く調節します。

バランス

必要に応じてステッチのバランスを調節しましょう。



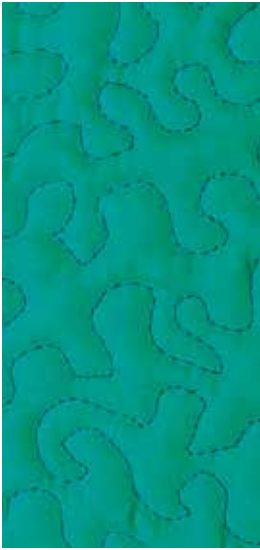
角の仕上げ方

- «針停止»ボタンを押し、針を下で停止、「一模様縫い/模様繰り返し」ボタンを押し、布を回します。
- ピボット縫いで布地を回すときに布地をいためないように注意します。

ナイロン糸が切れる場合

- ゆっくり縫うようにしましょう。
- 上糸テンションを緩めてみましょう。

フリーモーションキルティング



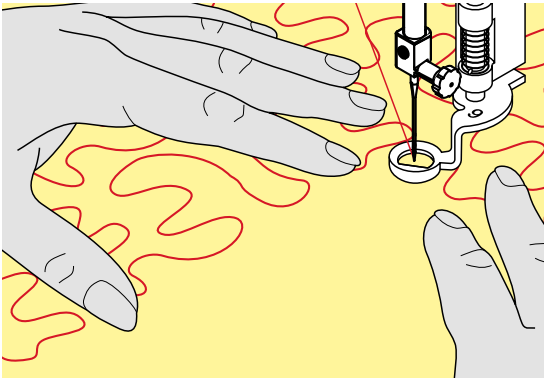
つくろい縫い押えNo.9 (オプション)

直線縫いNo.1

フリーモーションキルティング
あらゆるタイプのフリーモーションソーイングに。

準備

- トップ、キルト芯、土台布の三層をまち針でとめるか、しつけを掛けます。
- ソーイングテーブルを取り付けます。
- フリーハンドシステムを使いましょう。
- 送り歯を下げます。



作品の持ち方

- 両手を刺しゅう枠に見立てて輪を作り作品を押え金の周りで押えます。



指先にゴム加工された手袋がこのような布操作に大変役に立ちます。

デザインをキルティングする

- 中心から外に向かってキルトを掛けてゆきます。
- 作品をスムーズに丸く動かしながら、デザインを描いていきます。

ステッピング

- － ステッピングステッチでスペースを埋め尽くします。
- － ステッチはスムーズなS字曲線を描くようにし、交差しないようにします。



フリーモーションキルティングとダーニング
両方の手法はフリーモーションの基本です。

針目が揃わない

- － 糸が表側にひっばっているようなら、布を動かすスピードを遅くしてみます。
- － 裏側で糸が輪を作るようなら、布を動かす速度を早めてみてください。

ナイロン糸が切れる場合

縫うスピードを遅くして、上糸調子を緩めます。

糸が切れる

布を安定した動きで動かしてください。

BSR (ベルニナステッチレギュレーター)

BSRでキルティング



BSRの機能

BSR押えは、押えの下にあるセンサーで布の動きを感知して、ミシンのスピードを自在に変化させ、キルティングステッチの縫い目の長さを一定に保ちます。つまり、布の動かし方が速ければ、それに合わせてミシンのスピードも速くなります。布の動かし方が速過ぎる場合に、警告音機能がオンになっていれば、ピー音が鳴ります。(109ページ参照)

ご注意!

BSR押えの赤いイルミネーションが点灯している時は、例えば、糸通しや針の交換などは絶対にしないように。無意識のうちに布が動いて針が動きだすことがあります。BSR モードは布の動きが停止して7秒間経つと赤いライトが消えて機能が止まります。(モード1)

詳しくは、「安全にお使いいただくために」をご参照下さい。

BSR機能がオンになると、ミシンは直ちに減速されたスピードで連続縫いをするか(モード1、標準設定)、または布の動いている間だけ縫います。(モード2)

BSR機能を直線縫いNo.1で使う

BSR押えを使ったこの機能は、直線縫いで送り長さを4mmにセットしてフリーモーションキルティング等に適しています。

縫い目長さは、一定の速度までは、布の動きに関係なく設定した長さに保たれます。

BSR機能をジグザグ縫いNo.2で使う

ジグザグ縫いを使うとスレッドペインティングに適しています。ジグザグステッチを使うときは送り長さは関係しませんが、BSR機能が作業を楽にしてくれます。

BSR機能には:

二種類のBSRモード

- BSR1モード が標準設定です。
- フットコントローラーを踏み込むと、または「スタート/ストップ」ボタンを押すとすぐに、ミシンはゆっくりしたスピードで縫い始めます。
- ミシンの速度は布を動かす速さに合わせて制御されます。
- 針は連続して動いているので、他のボタンを押すことなく、何処でも留め縫いをする事が可能です。
- BSR 2モードは、「BSR」画面で「BSR 2」アイコンをタッチして選びます。
- BSR2モードでのミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、または「スタート/ストップ」ボタンを押すと、BSR機能がオンになりますが、布を動かさない限り、ミシンは縫い始めません。
- ミシンのスピードは布を動かす速さに合わせて制御されます。
- 留め縫いをするには、「留め縫い機能」ボタンを押します。
- 「BSR」画面で「BSR 1」アイコンをタッチするとモード1がオンになります。



(最初の一針を)均等な縫い目で縫い始めるためには、フットコントローラーを踏み込むと同時に布を動かし始めなければなりません。角の部分で縫ったり、丸い形を直線縫いする場合も同様です。

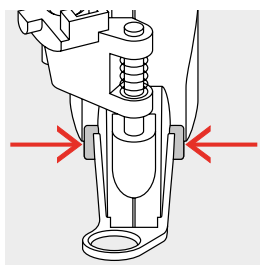
BSR機能がオンのままでミシンの電源をオフにした後、再度ミシンをオンにした場合は、最後に使っていたBSRモードがオンになっています。

布を動かすスピードが速すぎると、針目が揃わない場合があります。

BSR押えの下側のレンズに指紋やが糊が付いたりして汚れていないのを確かめてください。BSR押えのレンズは定期的にレンズクロス等できれいに拭きましょう。

準備

- 送り歯を下げます。
- 押え圧は、素材のタイプや厚みにより調節します。
- ソーイングテーブルを取り付けます。
- フリーハンドシステムを使いましょう。



押え底を取り外すには

- 押えの両側に突起しているボタンを押して、
- 押えの底を抜き取ります。

押え底を取り付ける

- 目的にあった押え底を滑り込ませながらカチッと収まるまで押し込みます。



- BSR 押えをミシンに取り付けます。
- BSR接続ソケットIIにケーブルを接続します。



- ▶ «BSR»画面が自動的に表示されます。
- ▶ BSR1モードが立ち上がります。
- 送り長さを好みの長さにセットします。
 - 標準のステッチ長さは2mmです。
 - 小さなスペースや、ステッピング手法で縫うときのステッチの長さは1–1.5mmが適当です。

BSRモードでの各種機能

針下位置停止(標準設定)

- ▶ «BSR»画面で矢印が下向きに表示されます。
- ▶ フットコントローラーから足を離すか、「スタート/ストップ」ボタンを押すと、針が布に刺さった状態で止まります。

針上位置停止

- 画面上の«針停止»アイコンをタッチします。
- ▶ 矢印が上を向きます。
- ▶ フットコントローラーから足を離すか、「スタート/ストップ」ボタンを押すと、針が上に上がった状態で止まります。

針を上げる、または下げる

- «針停止»ボタンを押します。
- ▶ 針を上下することができます。

«スタート/ストップ»ボタンで留め縫い(モード1のみ)

- 押えの下に布地を置きます。
- 押え金を下げます。
- «針停止»ボタンを二回押します。
- ▶ 下糸が引き上げられました。
- 上下の糸を指で持ったままで、
- «スタート/ストップ»ボタンを押すと、
- ▶ BSR モードがスタートします。
- 5-6針留め縫いをします。
- «スタート/ストップ»ボタンを押すと、
- ▶ BSRモードが停止します。
- 糸を切ります。
- «スタート/ストップ»ボタンを押すと、
- ▶ BSR モードがスタートします。
- 続けて縫ってください。

留め縫い機能(モード2のみ)

- «留め縫い機能»ボタンを押します。
- フットコントローラーを踏み込むか、または«スタート/ストップ»ボタンを押します。布地を動かすと短い留め縫いを数針縫った後、ミシンは送り長さを設定した状態に戻し、留め縫い機能をオフにします。

フリーモーションキルティング(モード2のみ)

- ▶ BSR モードが起動しました。
- フリーモーションキルティングができます。
- フリーモーションの途中で 留め縫い機能ボタンをタッチすると、短い留め縫いステッチをして、
- ▶ ミシンが止まります。
- ▶ BSRモードがオフになります。

BSRをオンにしないでフリーモーションキルティング

- «BSR»アイコンをタッチします。
 - ▶ BSRモードがオフになります。
- BSR押えを使って普通のフリーモーションキルティングが可能です。ステッチ長さの自動制御は働いていません。



警告音をオン／オフするには

- «セットアップ»ボタンを押します。
- «警告音»アイコンをタッチします。



セットアッププログラムのBSR警告音アイコンを選ぶ

- ▶ 標準で警告音がオンに設定されています。
- BSRのスピーカーアイコン1 をタッチします。
- ▶ スピーカーが白く、アイコンが暗く表示されます。
- ▶ 警告音がオフに設定されました。

警告音がオンのとき、スピーカーは暗く、アイコンが明るく表示されます。



«BSR»画面でBSR警告音を選ぶ

- スピーカーアイコンをタッチします。
- ▶ アイコンが暗く、スピーカーが白く表示されます。
- ▶ 警告音がオフに設定されました。

アイコンが明るく、スピーカーが暗く表示されているときは警告音がオンになっています。

BSR機能をオンにする**最初の方法:**

BSRをフットコントローラーで使う方法

- フットコントローラーを接続します。
- フットコントローラを踏み込みます。
- ▶ 押え金が下がります。
- もう一度フットコントローラーを踏みなおします。
- ▶ BSR モードがスタートします。
- ▶ BSR押えに赤いライトが点灯します。
- 縫っている間は、ずっとフットコントローラーを踏み込んでおきます。
- ミシンのスピードは布を動かす早さに合わせて制御されます。フットコントローラーはオン/オフのスイッチとして機能します。
- フットコントローラーから足を離します。
- ▶ BSRモードが停止します。

二番目の方法:

BSRを«スタート/ストップ»ボタンで使う方法

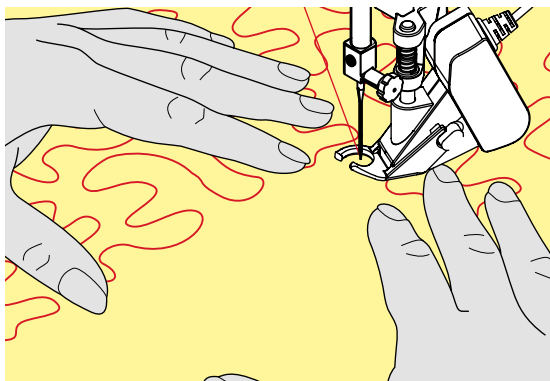
- «スタート/ストップ»ボタンを押すと、
- ▶ 押え金が下がります。
- 再び«スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ▶ BSR モードがスタートします。
- ▶ BSR押えに赤いランプが点灯します。
- ミシンのスピードは布を動かす早さに合わせて制御されます。
- 再び«スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ▶ BSRモードが停止します。

BSR機能を«スタート/ストップ»ボタンでオフにする**モード 1**

布が約7秒間動かない状態に置かれると、BSRモードは自動的にオフになり、押えの赤いランプも消えます。

モード 2

フリーモーションで布地を動かすのをやめると、針の位置によっては**もう一針**縫う場合があります。「BSR」画面の針停止位置表示の矢印が下を向いていてもミシンは常に針が上位置で停止します。

**作品の持ち方**

- 布地を押え金の周りで両手の指を広げて枠を使っているような効果を利用して縫います。
- 急な手の動きは極端に長いステッチや短いステッチを生み出します。
- 安定した布の動きが目の揃ったステッチを生み出します。
- ソーイング中にピボット縫い(針を刺したままで布地を回転させる)をしないように。



指先にゴム加工された手袋がこのような布操作に大変役に立ちます。

**適用例:**

- BSRをジグザグステッチNo.2で縫う
- ジグザグ縫いを使うとスレッドペインティング手法も可能です。
- 広いスペースをすばやく埋めていきますので、絵画のような作品を作り出せます。

BSR 機能を停止させる

- BSRのプラグをコネクターから引き抜きます。
- BSR押えを取り外します。

ベルニナデュアルフィード(上送り機能)

ご注意!

使用できるのは、「D」のついた、後方中央に切れ込みのある押え金のみです。
それ以外の押え金を取り付けている場合、デュアルフィードをオンにした状態ではミシンは動かず、エラーメッセージが表示されます。

ベルニナデュアルフィードは上と下の布地の両方を挟み込むようにして同時に送ります。ストライプ地やチェック柄の布地では、パターンを揃えて縫うので大変効果があります。

お薦めの押え金

- 標準デュアルフィード押え No.1D
- ファスナー押え No.4D



「D」のつく押え金のオプションアクセサリは、同封のアクセサリカタログに掲載されています。

**ベルニナデュアルフィードに切り替えるには**

- 押え金を上げます。
- 上送り装置を引き下げてセットします。

**ベルニナデュアルフィードを格納するには**

- 押え金を上げます。
- デュアルフィード上送り押えを二本の指で挟むように持ち、下へ引き下ろします。
- そこから後方に押しやると、ゆっくと上方方向に引き上げられ格納されます。

各種布地

縫い難い布(毛足が長い、滑りやすい、滑りの悪い布等)

- ベルベットは、毛足の目に配慮しながら縫います。
 - タオル地
 - ジャージー地(特に横目に沿って縫う場合)
 - 人工毛皮(コーティングされたものを含む)
 - フリース
 - 芯地入りの布地
 - ストライプおよびチェック
 - 連続模様のカーテン地
- ◀滑り難い▶布地:
- 人工レザー、防水加工地(滑り加工デュアルフィード押え)

ご注意

ソーイング:

- すべてのソーイングテクニックに使うことができます。(ヘム仕上げ、ファスナー等)

パッチワーク:

- ストライプの柄合わせやブロックピーシングが、正確にできます。
- 9mm幅までの飾り縫いステッチ

アップリケ:

- オープン刺しゅう押え No.20D (オプション)
- リボンおよびバイアスパインディングを縫い付けることができます。



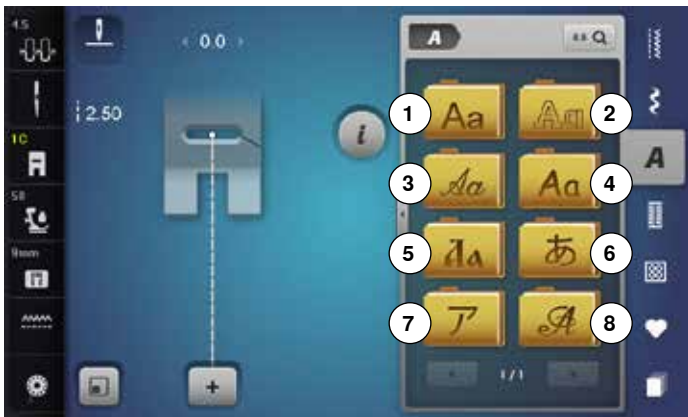
押え圧

押え圧を布に合わせてます。布が厚くなるほど、押え圧を低くします。

文字

文字に関して

ブロック体、ダブルブロック体、スクリプト体、コミック体、ギリシャ書体などは二種類のサイズで縫うことができます。
 モノグラムは三種類のサイズがあります。
 ブロック体、ダブルブロック体、スクリプト体、コミック体、ギリシャ書体は小文字で縫うことも可能です。



- «文字»ボタンをタッチします。
- ▶ 画面には書体の一覧が表示されます。
- 1 ブロック体
- 2 ダブルブロック体
- 3 スクリプト(イタリック)体
- 4 コミックサンズ体
- 5 ギリシャ文字書体
- 6 ひらがな
- 7 カタカナ
- 8 モノグラム 30/20/15mm
- 文字を選びます



文字列

- すべての大文字、小文字、数字、特殊記号などは、矢印アイコンでスキャンして検索できます。

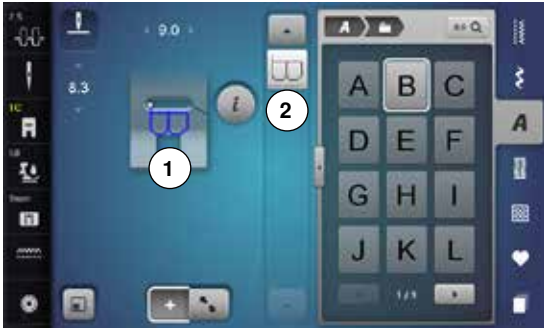
完璧なステッチを縫うには

- 上下同色の糸を使いましょう。
- 作品の裏側に安定紙を置いて補強します。
- タオル地や毛羽立った布地(例:ウール地、ベルベット等)の表側にも、水溶性の安定紙を乗せて縫いましょう。
- 薄手の布地には、直線的な単純なステッチの文字(ダブルブロック体等)等が適しています。

文字列を作る

個々の文字、および同じ字体の同じ文字を連続して縫う場合には、シングルモードで縫います。

名前、住所、文章等を縫うには、コンビ(組合せ)モードを使います。



- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- アイコンをタッチして文字を選びます。
- ▶ 文字はステッチ操作画面1と編集画面2に表示されます。
- ▶ カーソルは、文字の下に表示されます。



次の文字を選ぶ

- 文字アイコンをタッチして選びます。
- ▶ 次の文字はステッチ操作画面と編集画面に表示されます。



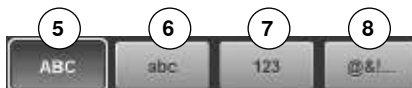
画面の拡大表示

- アイコン3をタッチします。
- 文字を選びます。
- ▶ キーボードが表示されます。
- ▶ «ABC»アイコン、(大文字)が自動的にオンになります。
- 文字列を入力します。
- 画面の右下のスクロールボタンで文字をスクロールできます。
- ▶ 文字列入力欄4に文字が表示されます。



訂正するには

- «削除»アイコンをタッチします。
- ▶ 入力した文字列が右端から一文字ずつ削除されます。



- 5 «ABC» 大文字 (標準)
- 6 «abc» 小文字
- 7 «123» 数字
- 8 «@?!» 特殊文字

組合わせたステッチ/文字を訂正するには



文字の挿入

文字はカーソルの下側に挿入されます。

挿入したい場所を指定する:

- 編集画面の文字を直接選ぶか、スクロールして選びます。
- ▶ ステッチパターンコンビネーションがステッチ操作画面の中で挿入したいステッチパターンのスタート位置に移動されました。
- スタート位置は、表示された押え金の針穴の中で白い点1で表示されています。
- 新しい文字を選びます。
- ▶ 選んだ文字の後ろに選んだ文字が挿入されました。



コンビネーションの先頭に文字を挿入するには:

- ▶ 矢印アイコンを使ってカーソルを先頭に移動させます。

文字を削除するには

カーソルの上で文字が削除されます。

場所を選ぶ:

- 編集画面の中で削除したい文字を選ぶか、スクロールして探します。
- «i»アイコンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- 指先で削除したい文字をタッチし、タッチしたままで右方向に移動(スワイプ)します。
- 画面から指を払うように離します。
- ▶ これで文字を削除できました。

コンビネーションの保存、または削除。122, 128参照してください。

文字と機能の組み合わせ

小文字を選ぶには

- スクロールアイコンを使って小文字が現れるまで画面上をスクロールします。
- 大きなアルファベット画面の中で«abc»アイコンをタッチします。114頁参照。



フォントサイズを変える

- «i»アイコンをタッチします。
- «フォントサイズ»アイコンをタッチします。
- ▶ 小さな«A»が暗く表示され、アイコンが黄色い枠で表示されます。
- ▶ 文字サイズを小さくする
- 再び«フォントサイズ»アイコンをタッチします。
- ▶ 大きな文字が再びオンになりました。(大きな«A»が暗く表示されます)

モノグラム



モノグラムは横送り機能を使って縫われます。

- 始点(白い点)と終点(赤い十字)がステッチ操作画面に表示されます。
- ▶ ステッチの幅は変えられません。
- ▶ 鍵マークがシンボルで表示されます。



- «サイズ調節»アイコンをタッチします。



- ▶ ステッチパターンが調節され全体が見えるようになりました。
- ▶ 仮想表示の押え金が消えました。



モノグラムのサイズ

フォントサイズ 1 = 30 mm

- ▶ モノグラムが起動されるとサイズは1にセットされます。(大きな«A»がオンになります)
- ▶ モノグラムサイズ1は独立した文字で、文字列にはできません。
- ▶ 自動で縫われ、最後まで縫ってミシンは自動で止まります。

フォントサイズ2 = 20 mm

- «フォントサイズ»アイコンをタッチします。
- ▶ 中央の«A»がオンになります。
- ▶ サイズ2のモノグラムは水平に連続して縫えます。
- ▶ ミシンは自動的に縫い始まり縫い終わります。

フォントサイズ3 = 15 mm

- «フォントサイズアイコンをタッチします。
- ▶ 小さな«A»がオンになります。
- ▶ サイズ3のモノグラムも水平に連続して縫えます。
- ▶ ミシンは自動的に縫い始まり縫い終わります。



横送りステッチパターン、例えばモノグラム

- ソーイングテーブルを使ってソーイングエリアを広く使いましょう。
- 横送りステッチを縫うときは、布地が均等に送られて、軽く動くように、周りに引っかかるような障害物がないように注意しましょう。
- 布地が自由に動くように、また布地を押ししたり引いたりしないように、また布地が回転したり、歪んで動かないように注意します。
- 押え金No.40Cを使います。

実際に縫う布地と糸と安定紙を使って試し縫いするように。



バランス機能

- 布地や、糸や、安定紙によってステッチがオリジナルの形状で縫えないことがあります。
- バランス機能を使うと、こうして歪んだステッチを調節してオリジナルな形状に維持することが可能です。

パーソナルプログラムについて

パーソナル画面を作るには

パーソナルプログラムは、よく使うステッチを、好みの状態、振り幅や送り長さなどを変更して、個人的なフォルダーに保存しておく機能です。



以下の変更を保存することができます。

- 振り幅
- 送り長さ
- 針基線
- 糸調子
- 反転イメージ
- 模様拡大
- ロングステッチ
- バランス
- 模様繰り返し縫い <<1-9X>>

もしメモリーの容量が一杯になっていると、メモリーが一杯です、というメッセージが表示されます。要らないステッチや、刺しゅうデザインを削除して空きスペースを作って保存してください。

ステッチパターンを準備する



最初のステッチをプログラムして保存する

- <<実用縫い>>画面で、例えばジグザグ縫いを選びます。
- 変更を加えます。

1 ● <<パーソナルプログラム>>ボタン1をタッチします。



- <<保存>>アイコン2をタッチします。



- ▶ 4種類のフォルダーが表示されます。
- ステッチパターンを保存したアイフォルダーを、例えばフォルダー1を選びます。
- ▶ 各フォルダーには、最大100種類のパターンが保存できます。



- «保存»3 または«OK»アイコン4をタッチします。
- ▶ 変更されたジグザグが保存されました。
- ▶ 画面が閉じます。



二番目のステッチをプログラムし保存する

- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- 標準ボタンホールNo.51を選びます。
- 同じ要領でステッチを保存します。
- このようにして、どのようなステッチでも保存できます。



パーソナルプログラムからステッチを選ぶ

- «パーソナルプログラム»ボタンをタッチします。



- «開く»アイコン4をタッチする。
- フィルター、例えばフォルダー1を選びます。



パーソナル画面

- ▶ 保存されたステッチパターンが画像と振幅と送り長さと一緒に表示されます。
- スクロール機能でステッチを探ることができます。

ステッチパターンの変更と上書き



ステッチパターンを選ぶ

- «パーソナルプログラム»ボタン1を押します。
- «開く»アイコンをタッチします。
- フォルダーを開きます。
- ジグザグステッチを選びます。
- 変更を加えます。
- ▶ 振り幅と送り長さが変更されました。(黄色い番号表示)
- «戻る»アイコン2をタッチします。
- «保存»アイコンをタッチします。
- 同じフォルダーを選びます。



- ジグザグ3を選びます。



- ✓をタッチして確定します。
- ▶ 変更内容が保存されました。

ステッチパターンを削除する



ステッチパターンを選ぶ

- «パーソナルプログラム»ボタンをタッチする。
- «削除»アイコン1をタッチする。
- フォルダーを選びます。



- 削除したいステッチパターンを選択します。



- ✓をタッチして確定します。
- ▶ ステッチパターンが削除されました。
- ▶ 残ったステッチは空いたスペースを埋めて移動します。

コンビモードに関して

ミシンには、ソーイングおよび刺しゅうの両方の情報を保存するメモリーがあります。

ソーイングメモリーには、ステッチパターン、文字および数字の組み合わせを保存できます。

メモリーに十分な空き容量が残っていれば、メモリーの各「引き出し」には最大70ステッチ(模様)が保存できます。(すべての引き出しが一杯でなくても)メモリーが一杯です、と表示されるときは、多分、数多くの刺しゅうデザインが保存されているためかもしれません。

メモリーは恒久です。つまり削除するまで保存されます。ミシンの電源を切っても、メモリーの内容には影響しません。

ステッチパターンのコンビネーションを作る



プログラムと保存

- «飾り縫いステッチ»ボタンをタッチします。
- ステッチカテゴリーを選びます。
- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- 必要なステッチパターンを選択するか、番号を入力します。
- 送り長さ、振り幅、針基線などに変化をつけます。
- 別のステッチを選びます。



- «メモリー»アイコン1をタッチします。



- «保存»アイコン2をタッチします。



- «保存» 3 または«OK»アイコンをタッチします。
- ▶ コンビネーションが保存されました。
- ▶ 画面が閉じます。

ステッチパターンを削除するには



ステッチの削除

- «i»アイコンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- ▶ カーソルの上に位置するパターンが順次削除されます。
- «削除»アイコンをステッチ操作画面が空になるまで繰り返しタッチします。または、
- 削除したいパターンを指先で押えたままにして、右にずらせます。
- 画面から指を離します。
- ▶ パターンが削除されました。
- ステッチ操作画面が空になるまで繰り返します。



コンビネーションを削除する

- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーション全体を編集»アイコンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- ✓をタッチして確定します。
- ▶ ステッチ操作画面が空になりました。
- «閉じる»または«i»アイコンをタッチします。
- 新しいステッチコンビネーションをプログラムできます。

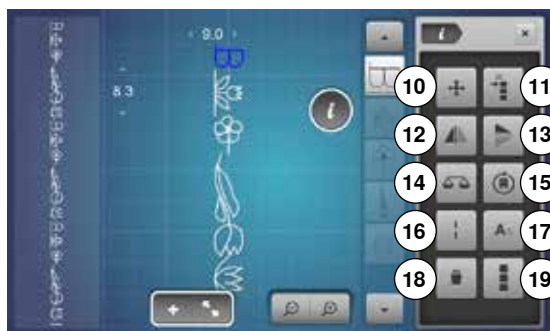
コンビネーションの一覧



- «コンビネーションの一覧»アイコンをタッチします。
- ▶ 画面には以下の内容が表示されます。



- 1 ステッチの振幅
- 2 ステッチの送り長さ
- 3 «コンビモード»アイコン
- 4 «コンビネーションの一覧»アイコン
- 5 ステッチコンビネーションを完成させる。
- 6 コンビネーションの表示を縮小する。
- 7 コンビネーションの表示を拡大する。
- 8 矢印アイコンを使ってコンビネーション内をスクロールできます。
- 9 «i»アイコンをタッチして、画面に機能を表示できます。



- «i»アイコンをタッチする。
- ▶ 以下の機能を使えます。
- 10 つなぎステッチ
- 11 単一のステッチ、またはコンビネーション中のステッチを移動
- 12 模様左右反転
- 13 模様上下反転
- 14 バランス
- 15 多方向縫い
- 16 ロングステッチ
- 17 文字のサイズ
- 18 コンビネーション中の一部、または単体のパターンを削除する
- 19 コンビネーション全体を編集する。
- ▶ 各ステッチパターンを直接選べます。例えば変更するために。
- «コンビネーションの一覧»アイコンをタッチする。
- ▶ 画面が閉じます。

保存されたステッチコンビネーションを開く

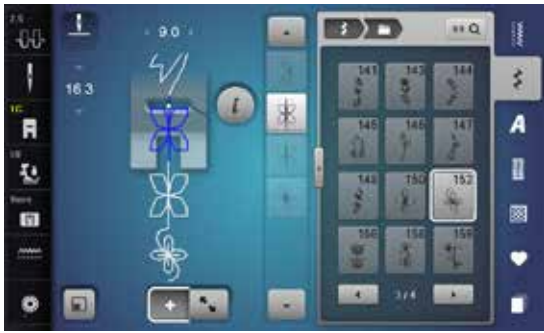


- 更に「コンビネーションの一覧」アイコンをタッチします。
- 「メモリー」ボタンをタッチします。
- 「開く」アイコン1をタッチします。



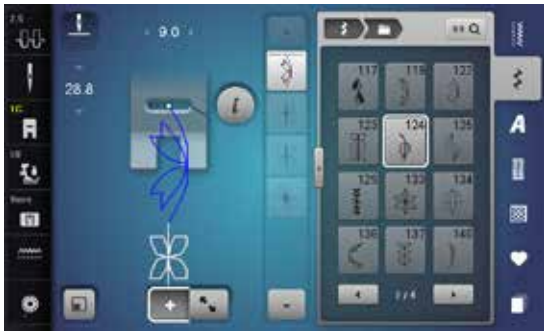
- ▶ 保存されたコンビネーションの一覧が表示されます。
- 開きたいメモリーの引き出しをタッチします。
- ▶ ステッチ操作画面に保存したコンビネーションが表示されます。

ステッチコンビネーションを修正する

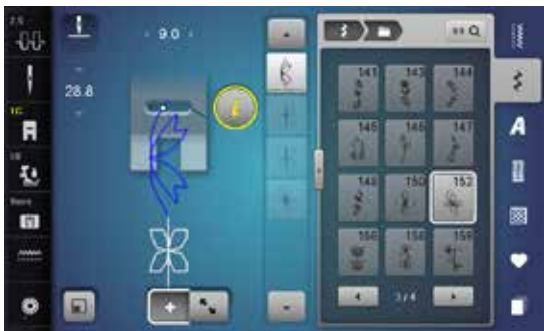


ステッチを挿入する

- コンビネーション中、または編集画面の中で挿入したい位置を選びます。
- 新しいステッチパターンを選びます。
- ▶ 新しいステッチが選んだステッチの次に挿入されます。



コンビネーションの先頭に新しいステッチを挿入する場合は、カーソルをコンビネーションのいちばん先頭に移動させます。



ステッチを加工する

- コンビネーションの中でステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチする。
- 使いたい機能、例えば模様左右反転、を選びます。
- ▶ ステッチが、左右に反転して表示されます。
- «閉じる»または«i»アイコンをタッチする。

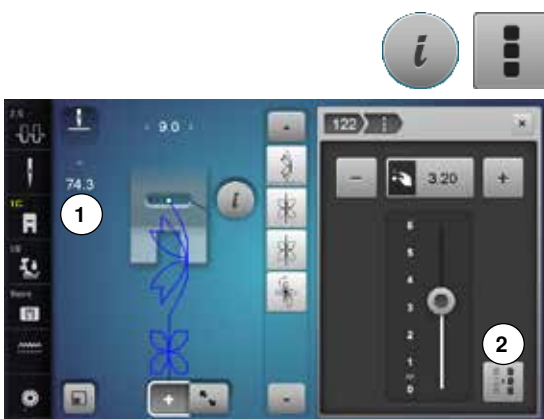


修正は常にカーソルの上で行われます。同じ方法で、保存されたコンビネーションステッチも修正可能です。修正した内容を確認するにはコンビネーションを再度保存しておきます。

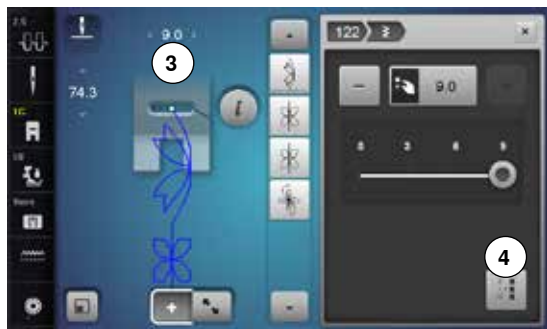
コンビネーション中で送り長さを変える

コンビネーション中のすべてのステッチパターンの送り長さを最大に変更できます。

- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーション全体を編集»アイコンをタッチします。
- «送り長さ目盛り»アイコン1をタッチします。
- ▶ «送り長さ»画面が表示されます。
- «コンビネーション中で送り長さを変更する»アイコン2をタッチする。
- ▶ コンビネーション中のすべてのステッチパターンの送り長さが最大に変更されました。



コンビモード



コンビネーション中で振幅を調節する

コンビネーション中のすべてのステッチパターンの振幅を最大に変更できます。

- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーション全体を編集»アイコンをタッチします。
- «振幅目盛り»アイコン3をタッチします。
- ▶ «振幅操作»画面が表示されます。
- «コンビネーション中の振幅を調節»アイコン4をタッチする。
- ▶ コンビネーション中ですべてのステッチパターンの振幅が最大になりました。



コンビネーション全体を反転させる

- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーション全体を編集»アイコンをタッチします。
- «模様反転»アイコンをタッチします。
- ▶ コンビネーション全体が反転されました。
- «閉じる»または«i»アイコンをタッチします。



コンビネーションの分割 1

- «i»アイコンをタッチします。
- «カーソル位置でコンビネーションを編集»アイコンをタッチする。
- «分割コンビネーション 1»アイコンをタッチします。
- «分割 1»機能を使ってコンビネーションをいくつにでも分割できます。
- ▶ カーソルを当てている箇所のみを縫うことができます。
- 次のセクションを縫うには、カーソルを移動して指定します。



コンビネーションの分割 2

- «i»アイコンをタッチします。
- «カーソル位置でコンビネーションを編集»アイコンをタッチする。
- «分割2»アイコンをタッチします。
- «分割2»機能を使ってコンビネーションはどの位置でも分割できます。
- 最初の部分を縫います。
- ▶ ミシンはプログラムした分割地点に到達したら自動的に止まります。
- 布地を置き換えます。
- 次の部分を縫います。



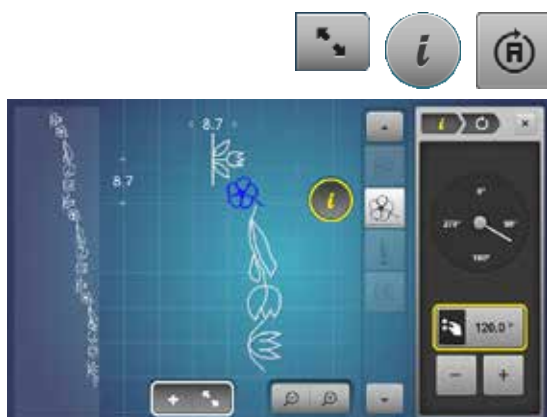
コンビネーション中の各ステッチパターンを移動する

- «コンビネーションの一覧»アイコンをタッチする。
- 縫いたいステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチする。
- «つなぎステッチ»アイコンをタッチする。
- ステッチパターンを0.1 mmずつつまみを回して、または«+»/«-»アイコンを使って移動するか、または
- タッチペンまたは指先で好きな方向に移動します。
- ▶ つなぎステッチは自動的に挿入されます。



コンビネーション中の複数のパターンを移動する

- «コンビネーションの一覧»アイコンをタッチします。
- 縫いたいステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーションを移動»アイコンをタッチします
- 選ばれているパターンを、つまみを回すか、«+»/«-»アイコンを使って、またはタッチペンまたは指先で移動させます。



コンビネーション中の各ステッチを多方向に縫う

- «コンビネーション一覧»アイコンをタッチします。
- 縫いたいステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «多方向縫い»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンを0.5°ずつ振り幅調節つまみを使って回転させます。
- ステッチパターンを1°ずつ送り長さ調節つまみを使って回転させます。
- ステッチパターンを0.5°ずつ«+»/«-»アイコンを使って回転させます。



コンビネーション全体を多方向に縫う

- «コンビネーションの一覧»アイコンをタッチします。
- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーションを編集»アイコンをタッチします。
- «多方向縫い»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンを0.5°ずつ振り幅調節つまみを使って回転させます。
- ステッチパターンを1°ずつ送り長さ調節つまみを使って回転させます。
- ステッチパターンを0.5°ずつ«+»/«-»アイコンを使って回転させます。

ステッチコンビネーション



上書き

- 新しいステッチコンビネーションをプログラムします。
- «メモリー»ボタンをタッチします。
- «保存»アイコンをタッチします。
- 上書きしたいメモリー引き出しを選びます。ここではメモリー引き出し3。
- ✓をタッチして確定します。
- ✕にタッチして、上書き手順をキャンセルします。



削除

- «メモリー»ボタンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- 削除したいメモリー引き出しを選びます。ここではメモリー引き出し5。
- ✓をタッチして確定します。
- ✕をタッチして削除手順をキャンセルします。

ステッチの履歴



- «履歴»ボタンを押します。

- ▶ これまでに縫った15のステッチの履歴が表示されます。
- ▶ 履歴画面に表示されているステッチは、新しいステッチを縫うと、直後に新しい履歴に書き換えられます。

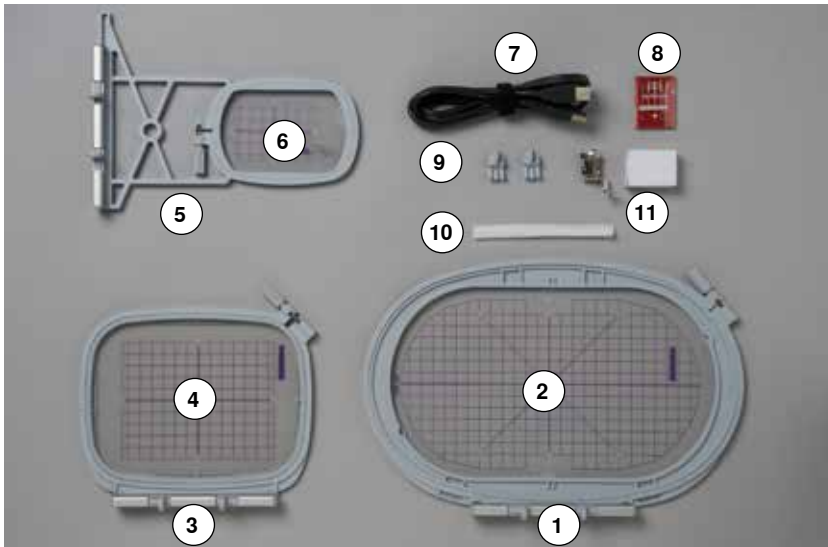
刺しゅうの部・目次

アクセサリー	131	《編集》画面	146
標準アクセサリー	131	《編集機能》画面一覧	148
刺しゅう機	132	機能の説明	148
詳細外観	132	刺しゅうメニューの一覧	152
刺しゅうに関する重要事項	133	選択メニュー画面	153
刺しゅう糸	133	カラー画面	154
下糸	133	刺しゅうモチーフ	155
刺しゅうモチーフを選ぶ	134	刺しゅうモチーフを選ぶ	155
試し縫い	134	文字	155
モチーフのサイズ変更	134	● 書体を選びます	155
ステッチタイプのいろいろ	135	● 文字列の入力と修正	155
● アンダーレイステッチ	135	● 文字を削除する	155
● サテン埋め込みステッチ	135	● 訂正するには	155
● ステップ(たたみ)埋め込みステッチ	135	ベルニナ刺しゅうモチーフ	156
● つなぎステッチ	135	● モチーフの一覧	156
刺しゅうの準備	136	ステッチパターン	156
刺しゅう機の取り付け	136	● ステッチパターンの一覧	156
刺しゅう押え／刺しゅう針	137	マイデザイン	156
直線縫い/カットワーク用針板	137	● モチーフの一覧	156
上糸と下糸の糸掛け	137	モチーフと機能の組み合わせ	157
刺しゅう枠	138	刺しゅうモチーフの移動	157
● 中心を決める	138	モチーフを回転させる	157
● 刺しゅう枠を使う	138	モチーフの高さ、または幅を個別に変える	157
● 刺しゅう枠用テンプレート	138	刺しゅうモチーフをプロポーシオンを維持して拡大、縮小	158
● 布を刺しゅう枠にセットする	138	モチーフの反転	158
安定紙について	139	刺しゅう枠の選択	159
安定紙	139	● モチーフの中心	159
スプレー糊	139	● 目盛り	159
アイロン接着芯	140	刺しゅうの位置合わせ	160
● のり付き安定紙	140	● モチーフのサイズをチェックする	160
● 水溶性安定紙	140	ズーム	161
刺しゅう機能	141	● 刺しゅうモチーフを移動する	161
《機能》ボタンの一覧	141	モチーフのサイズと刺しゅう時間	161
● 《スタート/ストップ》ボタン	141	エンドレス刺しゅう	162
● 《押え金上下》ボタン	141	コンビネーションについて	164
● 《自動糸切り》ボタン	141	コンビネーションデザインを作るには	164
● 振り幅、送り長さ調節つまみ	141	● 二番目のモチーフを追加する	164
● スライド式スピードコントロール	141	● モチーフを複製(コピーして貼り付け)する	164
● コンビネーションを複製する	141	● コンビネーションを複製する	164
刺しゅう画面の一覧	142	文字列	165
刺しゅうモードに切り替える	142	● 組み合わせ	165
文字の刺しゅう	143	● 位置合わせ	165
ベルニナオリジナルモチーフ	144	● 文字列を追加する	165
ベルニナステッチパターン	144	文字列と刺しゅうモチーフ	166
マイデザイン	144	● 組み合わせ	166
USBメモリー(オプション)に保存された刺しゅうモチーフ	145	● モチーフにあわせて文字列を修正する	166
		● 文字列を加工する	166
		● ステッチパターン／文字／文字列を削除する	166

モチーフを編集する	167	刺しゅう途中に糸が切れる	180
各種の埋め込みステッチ	168	上糸、下糸が切れる	180
• ステッチタイプを変更する	168	糸が切れたときの手順	180
モチーフの色	169	• 刺しゅう画面に戻る	180
• モチーフの配色を変える	169	• 刺しゅうを再開します	180
• 糸のブランドを入れ替える	169	クリーニング	181
• 色替え編集機能	170	トラブルシューティング	183
• 色替え編集機能	170	ステッチの一覧	188
• 単色で刺しゅうする	170	実用縫い	188
• 文字列の各文字を異なるカラーで刺しゅうするには	170	ボタンホール	188
• 一色で文字列を刺しゅうするには	170	飾り縫い	188
しつけ縫い	171	キルトステッチ	191
• しつけ縫いをオフにする	171	文字	193
飾り縫いのパターンを刺繍モチーフとしてインポートするには	172	刺しゅうモチーフの一覧	199
ソールモードで飾り縫いのパターンを選択する	172	飾りモチーフ	199
刺しゅうモードで飾り縫いのパターンを選択する	172	キルトステッチ	201
刺しゅうモチーフを保存するには	173	ボーダーとレースモチーフ	202
刺しゅう機のメモリー	173	アジアンテイスト	203
USBメモリー	173	花柄モチーフ	204
モチーフの上書き	174	季節のモチーフ	205
保存した単体のモチーフを削除する	175	子供用モチーフ	206
• 削除処理を取り消す	175	スポーツとホビー	207
全てのモチーフを削除する	176	動物モチーフ	208
• 削除処理を取り消す	176	花柄アウトライン	209
刺しゅうを始める	177	文字	210
刺しゅう枠の選択	177	索引	211
• 刺しゅう枠を取り付ける	177		
• 刺しゅう機のアームの取付金具に刺しゅう枠を取り付けます	177		
• 刺しゅう枠を取り外す	177		
刺しゅうメニュー	178		
«スタート/ストップ»ボタンで刺しゅうを始める	178		
• 途中で止めるには	178		
• 一つの色を完成させる	178		
• 色の交換	178		
• «刺しゅう»画面	178		
• 刺しゅうスピード	178		
• 刺しゅうを終わる	179		
フットコントローラーを使って刺しゅうする	179		
• 途中で止めるには	179		
• 一つの色を完成させる	179		
• 糸の交換	179		
• «刺しゅう»画面	179		

アクセサリ

標準アクセサリ



- 1 刺しゅう枠—楕円形、145x255 mm
- 2 刺しゅう枠—テンプレート楕円形、VAR 00
- 3 刺しゅう枠—中型、100x130 mm
- 4 刺しゅう枠—テンプレート中型
- 5 刺しゅう枠—小型、72x50 mm
- 6 刺しゅう枠—テンプレート小型、青色
- 7 パソコン接続用コード
- 8 刺しゅう針セット(SUK)
- 9 テンプレート用つまみ
- 10 糸こまネット、白
- 11 刺しゅう押え No.26

刺しゅう機

詳細外観



- 1 刺しゅうアーム
- 2 ミシンへの接続固定金具
- 3 刺しゅう枠取り付け用ブラケット
- 4 ミシンへの接続プラグ



- 5 刺しゅう機接続用ソケット(ミシン側)

刺しゅうに関する重要事項

刺しゅう糸

刺しゅうの仕上がりを良くするため、また糸切れを起こさないためにも、高品質の糸をお使いください。

上糸には40番のレーヨン、またはポリエステル糸が特に効果的です。カラフルな美しい刺しゅうに必要な幅広い色が揃っています。



ポリエステル糸

ポリエステルの高級な光沢仕上げの糸は色あせがなく、強度もあり、あらゆる刺しゅうに適した糸です。

レーヨン糸

レーヨンは輝きのある柔らかいビスコース繊維から作られており、繊細な刺しゅうに向いています。色あせを招く洗濯を必要とする作品には向きません。

メタリック糸

メタリック糸は細一中細の糸で刺しゅうに特殊効果を与えるのに適しています。メタリック糸を使うときは、スピードは控えめに、上糸テンションも緩めます。

刺しゅう針

- 糸と針のサイズを合わせましょう。
- 針は頻繁に新しいものに交換しましょう。



垂直糸立て棒で、メタリック糸やシルク糸など特殊な糸を使う時は、補助糸案内(オプション)と一緒に使うことをお勧めします。メタリック糸での刺しゅうには、メタフィル針かSUK針をお勧めします。また、上糸のテンションを緩くするか、刺しゅうスピードを遅くしてください。

下糸



ボビン用下糸

ボビン用下糸は特にしなやかな細いポリエステル糸で刺しゅうの下糸に適しています。この特殊なボビン用下糸は安定した糸のテンションを可能にし、上糸と下糸が完璧なステッチを生み出すのを補助します。

ダーニングおよび刺しゅう用糸

光沢性のある細いコットン糸はコットンの布地に刺繍するには最適です。



ほとんどの場合、刺しゅう用の下糸の色は白か黒です。または特殊な場合には土台布と合うものにしましょう。

刺しゅうモチーフを選ぶ

薄地にはシンプルでステッチ数の少ないモチーフが適しています。大きくて、密度の濃い刺しゅうモチーフ、例えば多色で多方向に展開するデザイン等は、中から厚地の布地を選びましょう。

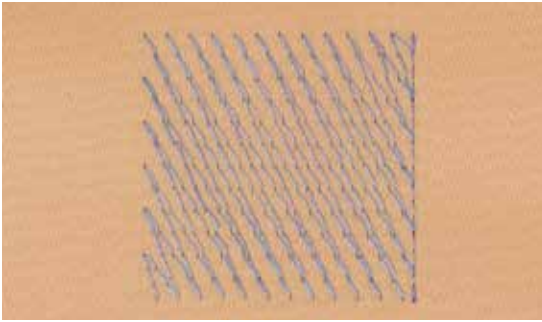
試し縫い

常に同じ条件で試し縫いをしましょう。本番と同じ安定紙を使います。モチーフと布地の組み合わせで、色や、安定紙、針などを必要に応じて使い分けましょう。

モチーフのサイズ変更

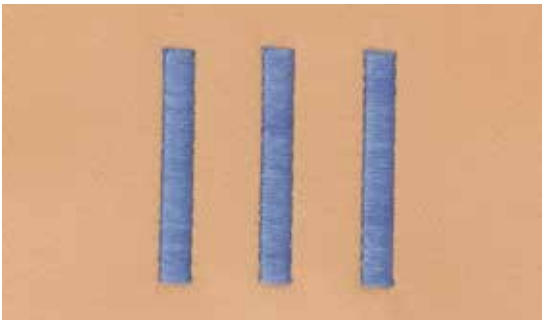
モチーフのサイズは画面上のアイコン操作で変更できますし、またベルニナ刺しゅうソフトを使って変更も可能です。拡大、縮小は±20%以内をお勧めします。

ステッチタイプのいろいろ



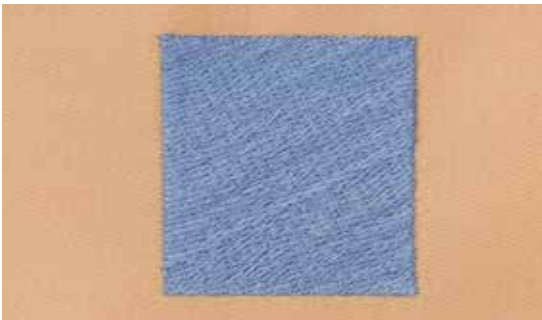
アンダーレイステッチ

アンダーレイステッチは、デザインの基本となる部分であり、土台布を安定させ、刺しゅうモチーフの形を保たせるために使われます。また、ニットなどの土台布に、ステッチが沈み込んでしまうのを防ぐためにも使われます。



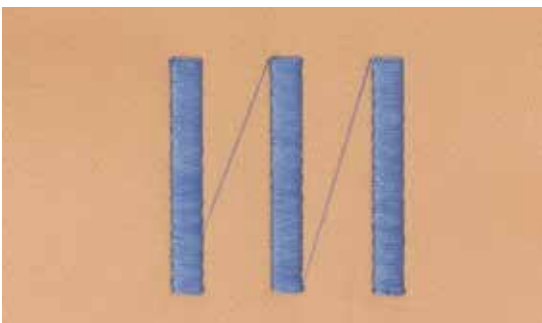
サテン埋め込みステッチ

刺しゅう枠が左右に動いてサテンステッチを縫います。仕上がりは目の細かいジグザグステッチを縫ったようになり、スペースを埋めます。サテン埋め込みステッチは小さな、狭いスペースを埋めるのに適しています。サテン埋め込ステッチは、ステッチが緩み、大きなスペースを埋めるのに適していません。加えて、幅の広いサテン埋め込みステッチは緩んだときに糸目が引っ掛かったり、浮き上がったりして刺しゅうを駄目にしてしまう危険もありません。



ステップ(たたみ)埋め込みステッチ

特定の長さのステッチを繰り返す埋め込みステッチの一種です。広い面積を効率よく埋め込むのに適しています。



つなぎステッチ

モチーフから次のモチーフへと移動するときに発生するロングステッチです。つなぎステッチの前後では留め縫いが実行されます。つなぎステッチは次の色を刺しゅうする前に切り取ります。

刺しゅうの準備

刺しゅう機の取り付け

ご注意!

刺しゅう機を取り付ける時、または取り外す時にはソーイングテーブルを取り外しておきましょう。

刺しゅう機をセットする時は、ミシンと刺しゅう機が同じフラットなテーブル面に設置できるように注意します。刺しゅう機は高速で運転されます。ミシンと刺しゅう機の両方が同じテーブルの上で運転されない場合は、スピードを落として操作していただかねばなりません。

刺しゅう機のアームが動き回れる十分なスペースを確保してください。ミシンと刺しゅう機を持ち運ぶときは、必ず別々に運んでください。



刺しゅう機をセットするには

- 刺しゅう機の左端を底から持ち上げ傾けます。
- 傾けたままでミシンの接続部に合わせて刺しゅう機をミシン側にスライドさせて接続します。



刺しゅう機をミシンから取り外すには

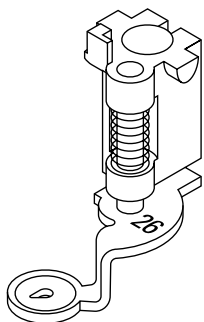
- 刺しゅう機の左側を持ち上げ、注意深く引き抜くようにします。



ソーイングテーブルの取り付け

刺しゅう機のアームが左端に位置していなければ取り付けられません。必要なら、「待機／収納位置」機能を使ってアームを待機／収納位置に移動させてください。150ページを参照してください。

刺しゅう押え／刺しゅう針



刺しゅう針

刺しゅう針(130/705 H-SUK)は大きな針穴と僅かに丸い針先を持った刺しゅうに適した針です。レーヨンやコットンなどの糸で糸切れを防ぎます。

- SUK針をお勧めします。
- 刺しゅう糸によっては針サイズNo.70-SUK からNo.90-SUKをお勧めします。
- 針は出来るだけ頻繁に交換しましょう。

準備

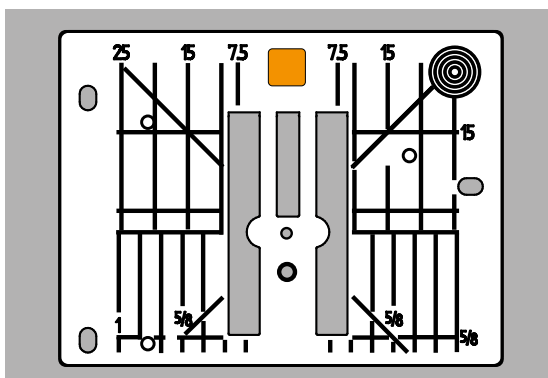
- 刺しゅう押えNo. 26をミンに取り付けます。
- 押えを上げます。
- 針を上げます。



送り歯を下げる

- «送り歯ドロップ»ボタン1を押し込みます。
- ▶ 送り歯が下がります。

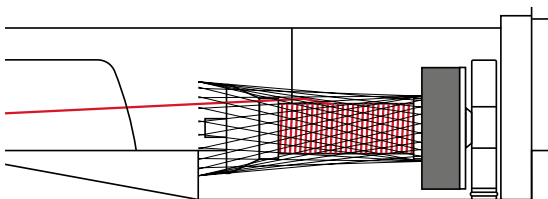
直線縫い/カットワーク用針板



直線縫い/カットワーク用針板には小さな針穴が付いています。この小さな針穴は布のベコつきを抑えて、刺しゅうの仕上がりに大きく影響します。ご使用をお勧めします。

- 標準の針板を取り外します。(25ページ参照)
- 直線/カットワーク用針板を取り付けます。

上糸と下糸の糸掛け



上糸を掛ける

- 糸立て棒に糸こまクッションを取り付けます。
- 糸こまをセットします。
- レーヨンや滑り易い糸などでは、付属品の糸こまネットを被せてください。
- ▶ 糸の流れがスムーズになります。



糸こま

メタリック糸や、特殊な糸には、垂直の糸立て棒を使用し、補助糸案内(オプション)を装着してください。

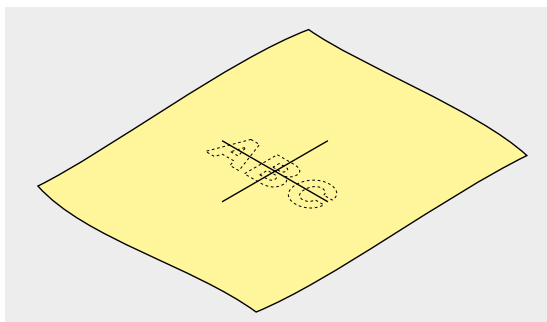
下糸を準備する

ソーイングと同じ要領で下糸を準備します。21ページを参照してください。



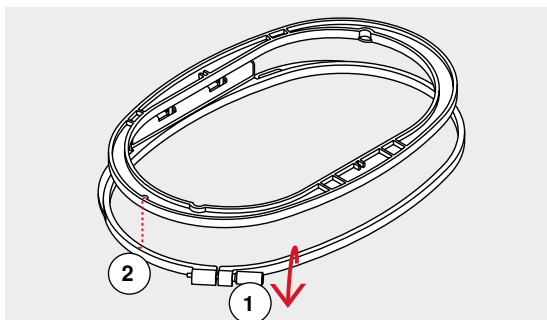
ポピンケースをセットして、釜カバーを閉じます。下糸センサーがオンになります。(セットアッププログラムでオンにします)。

刺しゅう枠



中心を決める

- 布地上でデザインの中心を決めます。
- マーカーかチャコで布地に印をつけます。

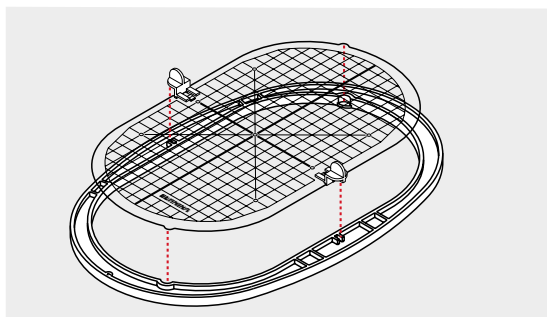


刺しゅう枠を使う

- 刺しゅう枠の外枠のネジ1を緩めます。
 - 内枠を取り外します。
- 外枠と内枠マーク2を揃えます。

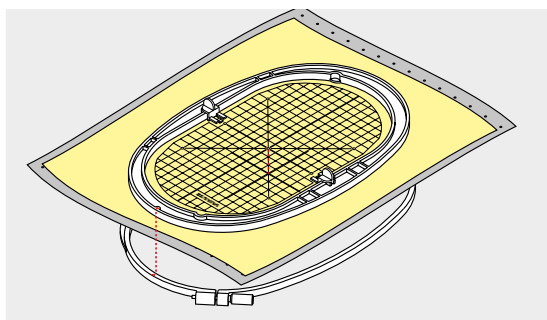
矢印マーク:

- 中型刺しゅう枠では中央手前
- 小型刺しゅう枠では右側
- メガフープとジャンボフープ(オプション)では中央手前



刺しゅう枠用テンプレート

- 刺しゅう枠にはそれぞれ専用のテンプレートが付いています。
- 刺しゅう可能な範囲には、1センチ目盛りの格子が描かれています。
- 中央と終了ポイントには穴が開いています。
- この穴を通して布地に印つけができます。
- テンプレートホルダーを取り付けます
- 内枠にテンプレートをBERNINAのロゴが手前(矢印のそば)に見え、正常に読める向きにセットします。
- ▶ テンプレートは、自動的に内側の枠に固定されます。

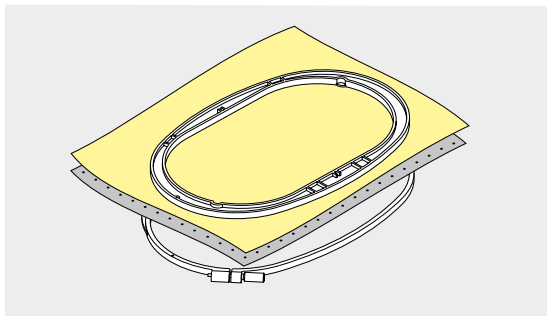


布を刺しゅう枠にセットする

- 内枠の下に布地を置きます。
 - 布地にマークした中心点と、テンプレートの中心点を合わせます。
 - 内側の枠と布地を外枠の上に被せて置きます。
- 内側と外側の枠の矢印を合わせます。
- 内枠と外枠を重ねます。布地が動いてずれないように注意します。
 - 布地をドラムのようにバンバンに貼り付けます。
 - 止めネジをしっかり締め付けます。
 - テンプレートを取り外す際には、テンプレート用つまみを持って持ち上げます。

安定紙について

安定紙



破り取れる安定紙(ティアウェイ)

- 刺しゅうの後、まわりの余分な部分を紙のように破り取れるものです。
- 一枚、二枚重ねなどして必要な強度に応じて使います。
- ささまざまな厚みのものがあります。
- しっかりと安定させたい場合には、布の裏側に、スプレー糊で接着してから、刺しゅう枠にセットするとよいでしょう。
- 刺しゅうが終わったら裏側ではみ出ている安定紙を引っ張らないように注意して破り取ります。
- 刺しゅう部分を歪ませないように注意します。
- 刺しゅう部分に縫いこまれた安定紙は残したままにします。

適用:

全ての織地および伸縮性のない布地に最適です。

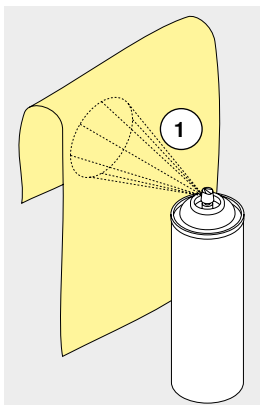
切り取る安定紙(カット・アウェイ)

- 一枚、二枚重ねなどして必要な強度に応じて使います。
- ささまざまな厚みのものがあります。
- しっかりと安定させたい場合には、布の裏側に、スプレー糊で接着してから、刺しゅう枠にセットするとよいでしょう。
- ステッチが完成したら、余分な安定紙をハサミで切り取ります。
- 刺しゅう部分を歪ませないように注意します。
- 安定紙は刺しゅう部分に残したままにします。

適用:

伸縮性のある布地、特にニットに最適です。

スプレー糊



刺しゅう機にスプレー糊が散らばらないように注意しましょう。

- 距離1は、25-30 cm離してスプレーします。
- 火の回りで使わないよう、注意してスプレーしましょう。
- 安定紙や布地の裏側に軽くスプレーし、布ずれやしわを防ぎます。

適用:

- 伸縮性のある布地およびニット地に。布地が伸びたりしないように。
- 滑りやすい布地が刺しゅう枠から滑って外れたりしないように。
- アプリケなどの小さなピースで位置決めが重要な刺しゅうに。
- 小さな布地: 小さな布地、例えばポケットのカバーなど、を安定紙に固定するために。
- ベルベットのような起毛した素材や皮など、刺しゅう枠の跡が素材を傷つけたりするので、刺しゅう枠に固定できないときに。
- 刺しゅうしたい箇所を部分的に貼り付けて刺しゅうするとき。

スプレー洗濯のりで布地を堅くする

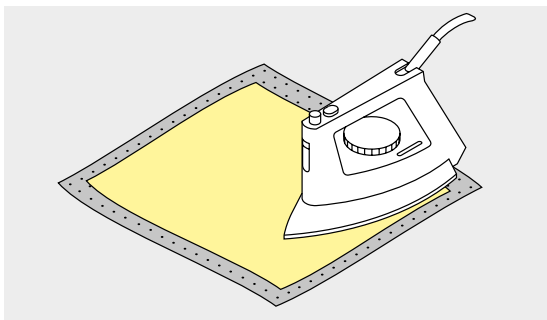
スプレー糊は、薄手の柔らかい布地、または目の粗い布地をしっかりとさせるのに最適です。

- 刺しゅうしたい部分全体にスプレーします。
 - 乾くまで置いておくか、低温のアイロンでしっかりと乾燥させます。
- 水溶性安定紙等を、布地の裏側に使用します。

適用:

薄手で、目の粗い布地に最適です。パティストや薄手の麻等。

アイロン接着芯



さまざまな厚さのものがあるので、使う布地に適したものを選んでください。簡単に剥がせるものを使うようにしましょう。

- 布地の裏側にアイロンで接着します。

適用：

モチーフを刺しゅうする位置の布地の裏に貼り付けます。他の安定紙とあわせて使うとよいでしょう。

のり付き安定紙

- 安定紙を、裏側を上にして刺しゅう枠にセットします。
- はさみのような先の尖ったものを使い、台紙に引っかき傷をつけます。
- 台紙をはがします。
- ▶ のりの付いた面が出てきました。
- 布をその上に固定して、刺しゅうします。

適用：

- － ジャージーやシルクのような、繊細な布地等に。
- － 刺しゅう枠にはめ難い場所や、素材に。



刺しゅう後、針、針板、釜などに付着したのりを綺麗に拭き取っておきましょう。

水溶性安定紙

水溶性安定紙は、食品ラップのようなものや和紙のような外見のものもあります。刺しゅうが完成したら、ぬるま湯につけて溶かします。タオルのような、毛足の長い布地を使用する際には、最適の保護材です。これによって、繊維が布目に沈み込んでしまって、ステッチの隙間から土台布が見えてしまうのを防ぎます。

- 布地の上に被せて置きます。
- 刺しゅう枠と一緒にセットすることもあります。
- 必要ならば、スプレー糊で固定します。
- パイル地、タオル等には裏側から安定紙で補強、水溶性安定紙を上にかぶせます。
- 水溶性安定紙を溶かした後は、デザインは平らな場所において、乾かします。

適用：

- － タオル、ベルベット、ブークレーニット等に最適。
- － 繊細で薄手の布地（オーガンジー、パティスト等）
- － レース刺しゅうに。



レース刺しゅうでは、（土台布が無く、安定紙の上に刺しゅうするだけなので）不織布のような水溶性安定紙が最適です。薄い水溶性安定紙なら二重、三重にして刺しゅう枠に張り付けて刺しゅうします。レース刺しゅうでは刺しゅうモチーフのステッチは小さなステッチで連結されていないければ、安定紙を溶かしたあとは、モチーフがぼろぼろになってしまいます。

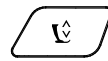
刺しゅう機能

《機能》ボタンの一覧



《スタート/ストップ》ボタン

ボタンを押して刺しゅうをスタート、ストップします。



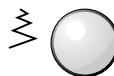
《押え金上下》ボタン

- ボタンを押します。
- ▶ 押えが一旦下がり、再び刺しゅう枠をセットしやすいように適度な高さまで上がります。
- ▶ ミシンをスタートさせると押え金は下がり布地を押えます。
- ボタンを再度押します。
- ▶ 押え金が上がります。



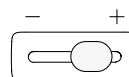
《自動糸切り》ボタン

- ボタンを押します。
- ▶ 上糸と下糸の両方を自動でカットします。



振り幅、送り長さ調節つまみ

つまみは多目的の操作に使われます。例えば、モチーフのサイズを変えたり、回転させたり。その都度、どのつまみを使って操作するか画面に表示されます。

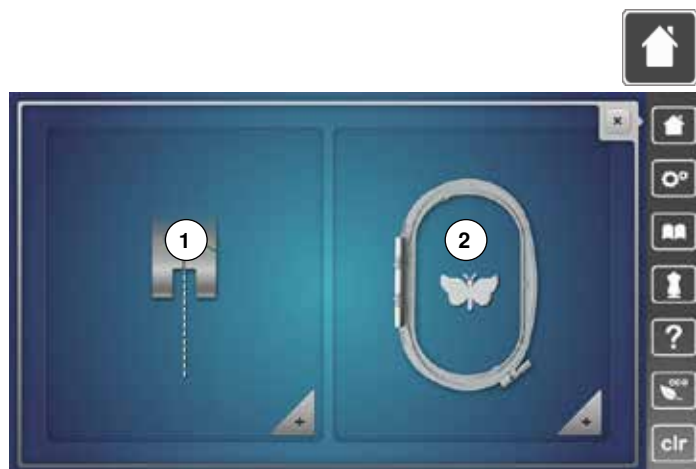


スライド式スピードコントロール

スライド式スピードコントロールを使ってスピードを調節します。

刺しゅう画面の一覧

刺しゅうモードに切り替える



- «ホーム»ボタンを押します。

刺しゅうモード

- «刺しゅうモード»アイコン2をタッチします。
- ▶ «刺しゅう»画面が表示されます。

ソーイングモード

- «ソーイングモード»アイコン1をタッチします。
- ▶ «ソーイング»画面が表示されます。



刺しゅう機アイコン
«文字»、«モチーフ»、«ステッチパターン»または«マイデザイン»フォルダーから刺しゅうしたいモチーフを選びます。

USBメモリー(オプション)
USBメモリー(オプション)に保存された刺しゅうモチーフのフォルダーです。

文字
内臓の文字フォルダーです。

刺しゅうモチーフ
内臓の刺しゅうモチーフのフォルダーです。

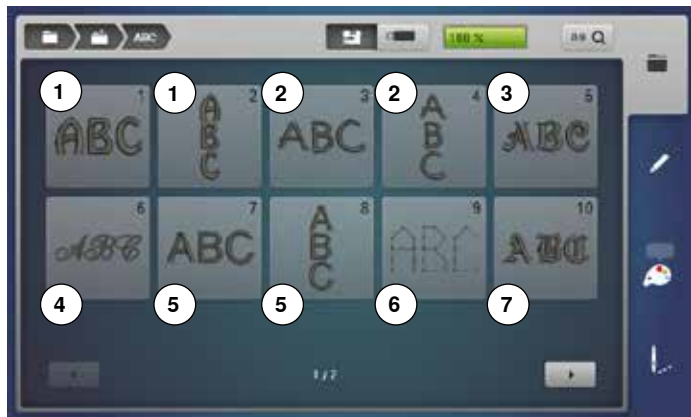
ステッチパターン
内臓のステッチパターンが選べます。

マイデザイン
ユーザーの刺しゅうモチーフを保存するフォルダーです。

文字の刺しゅう



- «文字フォルダー»アイコンをタッチします。



- 文字書体を選びます。

- 1 Drifter
- 2 Childs Play
- 3 Victoria
- 4 Anniversary
- 5 Swiss Block
- 6 Quilt Block
- 7 Old English

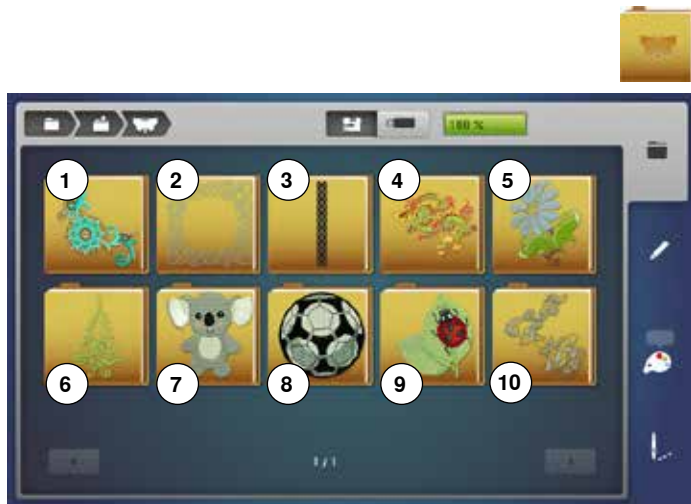


- 8 Russian Textbook



- メニューに戻る
«刺しゅう»画面に戻る。

ベルニナオリジナルモチーフ



- «刺しゅうモチーフフォルダー»アイコンをタッチします。
 - 刺しゅうモチーフフォルダーを選びます。
- 1 飾りモチーフ
 - 2 キルティング
 - 3 ボーダーとレースモチーフ
 - 4 アジアンテイスト
 - 5 花柄モチーフ
 - 6 季節のモチーフ
 - 7 子供用モチーフ
 - 8 スポーツとホビー
 - 9 動物モチーフ
 - 10 花柄アウトライン

ベルニナステッチパターン



- «ステッチパターン»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンフォルダーを選びます。
- ▶ ソーイングモードで使うすべてのステッチパターンで刺しゅうできます。

マイデザイン



- «マイデザイン»アイコンをタッチします。
- 刺しゅうモチーフを選びます。

USBメモリー(オプション) に保存された刺しゅうモチーフ



- USBスティックを差し込みます。
- «USBスティック»アイコンをタッチします。
- 刺しゅうモチーフを選びます。



《編集》画面



- 1 上糸テンション
- 2 セキュリティプログラム-針
- 3 押え金表示/押え金選択
- 4 刺しゅう枠の選択
- 5 セキュリティプログラム-針板
- 6 送り歯上下位置表示
- 7 下糸残量表示
- 8 選択
- 9 編集
- 10 色番号
- 11 刺しゅうメニュー



上糸テンション

- ▶ 設定状況が表示されます。



セキュリティプログラム

- 《針》または《針板》アイコンをタッチします。
- 使う《針》と、または《針板》アイコンをタッチします。
- ▶ 不適切な針板が選ばれると、アイコンに警告が表示されます。





押え金表示/押え金選択

刺しゅう押えNo. 26 が標準押えとして表示されます。

- アイコンをタッチします。
- ▶ 他に使える押え金、例えば、フリーモーション・カウチング押えNo. 43 など、が表示され選ぶことができます。
- 作業に必要な押え金を取り付け、その押え金のアイコンをタッチします。



刺しゅう枠の選択

モチーフに最適なサイズの刺しゅう枠を選べます。

- アイコンをタッチします。
- ▶ 刺しゅう枠のオプションが表示され、それに関する機能が表示されます。



送り歯上下位置表示

送り歯の上、または下位置が表示されます。

- アイコンをタッチします。
- ▶ アニメーションで送り歯の下げ方、上げ方が表示されます。



下糸残量表示

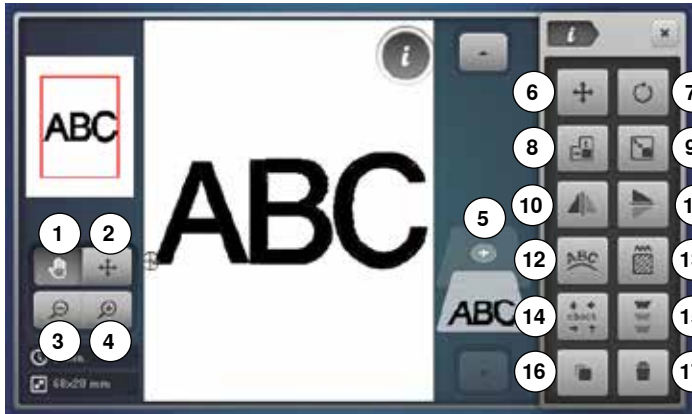
ボビンの下糸の残量が表示されます。

- アイコンをタッチします。
- ▶ アニメーションで下糸の交換方法が表示されます。

≪編集機能≫画面一覧



- 文字モチーフを選びます。
- ≪i≫アイコンをタッチします。
- ≪拡大表示≫アイコンをタッチします。



多機能つまみ操作が必要な場合は、つまみが表示されます。

機能

- 1 モチーフを移動して表示
- 2 刺しゅう枠の移動
- 3 ズームアウト
- 4 ズームアップ
- 5 モチーフを追加
- 6 モチーフの移動
- 7 モチーフの回転
- 8 モチーフの高さ、幅を変形
- 9 プロポーションを維持してモチーフの拡大、縮小
- 10 左右反転
- 11 上下反転
- 12 文字の変形
- 13 ステッチタイプの変形
- 14 刺しゅう枠とモチーフのサイズのチェック
- 15 エンドレス刺しゅう
- 16 モチーフの複製
- 17 モチーフの削除

機能の説明



インフォメーション

- アイコンをタッチします。
- ▶ 別の画面が開きます。



戻る

- アイコンをタッチします。
- ▶ 前の画面が表示されます。
- ▶ 編集内容が確定されました。



確認チェック

- アイコンをタッチします。
- ▶ 編集／選択機能がオンになりました。



画面を閉じる

- アイコンをタッチします。
- ▶ 画面が閉じます。
- ▶ 前の画面が表示されます。



モチーフの移動

画面上でモチーフを直接指先やタッチペンで自由に動かして見ることができます。刺しゅうの位置は変わりません。



刺しゅう枠の移動

刺しゅう枠の中でモチーフを、画面上で指先やタッチペンで直接タッチして移動することができます。



ズームアップ

- アイコン≪1-5x≫をタッチします。
- ▶ モチーフを画面上で一段ずつ拡大して表示します。



ズームアウト

- アイコン≪1-5x≫をタッチします。
- ▶ ズームアップしたモチーフを一段ずつ縮小して表示します。



モチーフの追加

- ▶ 前の(文字、モチーフ、ステッチパターン、マイデザイン)の一覧画面を表示します。
- モチーフを選びます。



モチーフの移動

1/10 mm ずつの移動を表示します。

- 振り幅調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが水平方向に移動します。
- 送り長さ調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが垂直方向に移動します。
- 振り幅と送り長さ調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが斜め方向に移動します。(両方のアイコンに移動距離が表示されます)

画面上で指先、またはタッチペンでモチーフを直接タッチして移動できます。



モチーフのサイズをチェック

モチーフサイズは四つの矢印アイコンで移動できます。

- «モチーフの中心»アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフの中心が針の位置に移動します。
- 振り幅調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが水平方向に動きます。
- 送り長さ調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが垂直方向に移動します。



エンドレス刺しゅう

画面を開いてボーダーのコンビネーションを表示します。



モチーフを回転させる

回転角度(°)の表示画面。

- 振り幅調節つまみを右に回します。
- ▶ モチーフが右に回転します。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
- ▶ モチーフが左に回転します。
- «+90»アイコンを1~4回タッチします。
- ▶ モチーフがタッチ毎に右に90°単位で回転します。(0°, 90°, 180°, 270°, 360°)



モチーフの複製を作る

画面上でオンになっているモチーフが複製されました。



モチーフを削除する

画面上でオンになっているモチーフを削除します。



モチーフの高さと幅を変える

拡大率、縮小率が画面に%で表示されます。

- 振り幅調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが水平方向に変形されました。
- 送り長さ調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが垂直方向に変形されました。



プロポーションを維持してモチーフの拡大、縮小

拡大率、縮小率が画面に%で表示されます。

- 振り幅調節つまみを右に回します。
- ▶ モチーフが拡大されます。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
- ▶ モチーフが縮小されます。



左右反転

モチーフが左右に反転されます。



上下反転

モチーフが上下に反転されます。



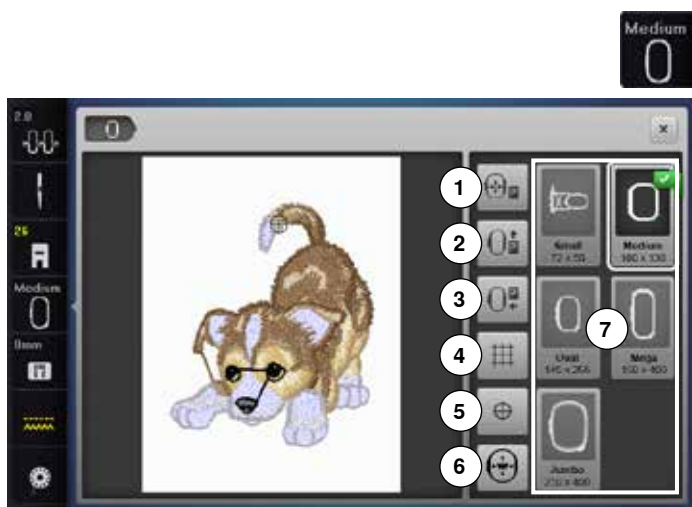
文字列の変換

- 振り幅調節つまみを回します。
- ▶ 文字間の距離がmm単位で変えられます。
- 送り長さ調節つまみを回します。
- ▶ 文字列が上向き、下向きの円弧状に変形できます。



埋め込みステッチタイプを変える

- サテン埋め込みステッチをステップ埋め込みステッチに変換します。
- ステッチの密度を変えます。



- «刺しゅう枠»アイコンにタッチします。

機能

- 1 刺しゅう枠の移動
- 2 刺しゅう枠を後ろへ移動
- 3 刺しゅう機の待機／収納位置
- 4 目盛り
- 5 モチーフの中心
- 6 刺しゅう枠ポジション
- 7 刺しゅう枠の表示



刺しゅう枠の移動

- ▶ 刺しゅう枠が水平移動して中央に戻ります。上糸通しに便利です。
- «スタート/ストップ»ボタンを押す。
- ▶ 刺しゅう枠は元の位置に戻り、刺しゅうを続けます。



刺しゅう枠の表示

- ▶ モチーフに最適なサイズの刺しゅう枠を選べます。
- アイコンをタッチします。
- ▶ 刺しゅう枠の選択と各種機能が画面に表示されます。



刺しゅう枠を後ろへ移動

- ▶ 刺しゅう枠がまっすぐ後ろへ移動します。ポビンの入れ替えに便利な機能です。



刺しゅう機の待機／収納位置

- 刺しゅう枠を取り外す。
- ▶ 刺しゅうアームは左側に水平に移動して待機／収納位置で停止します。
- ソーイングモードに切り替わります。刺しゅう機を取り外さずにソーイングが可能です。



目盛り

- アイコンをタッチします。
- ▶ 画面上で大きなカーソルが刺しゅう枠の中心に表示されます。
- アイコンを再度タッチします。
- ▶ 目盛りが表示されます。
- モチーフのレイアウトに便利です。



モチーフの中心

モチーフの正確な中心が十字カーソルで表示されます。バーチャルポジショニング機能がオンになっている時は、針が正確にモチーフの中心に来るように刺しゅう枠が移動します。



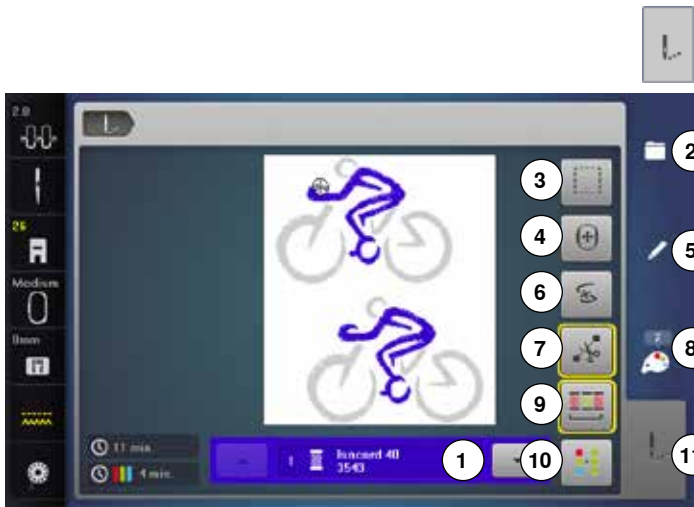
刺しゅう枠ポジション

アイコンがオフ = モチーフを移動しても刺しゅう枠は動きません。



- アイコンをタッチします。モチーフを移動させると、刺しゅう枠が呼応して移動します。この機能は刺しゅう枠が取り付けられている時だけ機能します。

刺しゅうメニューの一覧



- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。

多機能つまみ操作が必要な場合は、つまみが表示されます。

機能

- 1 カラー情報
- 2 選択
- 3 しつけ縫い
- 4 刺しゅう枠の移動
- 5 編集
- 6 糸切れ
- 7 つなぎステッチをカットする
- 8 色番号
- 9 カラー順にモチーフを刺しゅうする／色変えの頻度を少なくする
- 10 塗りつぶし機能
- 11 «刺しゅうメニュー»ボタン



カラー情報

アクティブな色の情報。

- 矢印アイコン上向き、または下向きをタッチします。
 - ▶ 色の表示が変わりました。
 - ▶ 表示された色の場所に刺しゅう枠が移動します。
- 表示されている色、または順番を変えて刺しゅうできます。



糸切れ

画面左には、標準サイズで現在縫っている色が表示されます。画面右にはモチーフが拡大されて表示されます。



つなぎステッチのカット

通常は、この機能はオン（黄色枠アイコン表示）になっています。つなぎステッチは自動で切られます。

- アイコンをタッチします。
- 自動糸切りがオフになります。



選択

- 新しいモチーフを選ぶ
- モチーフの追加
- モチーフの保存
- モチーフの削除



色番号

モチーフの色数を表示

- アイコンをタッチします。
- ▶ 選んだモチーフのカラー情報の画面が表示されます。



しつけ縫い

- アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフの周りを四角形でしつけ縫いします。
- アイコンをもう一度タッチします。表示が変わります。
- ▶ 刺しゅう枠に沿ってしつけ縫いします。
- アイコンを再度タッチします。
- ▶ しつけ縫いがオフになりました。



色順にモチーフを刺しゅうする

アイコンをオフにすると、画面上の複数のモチーフは、モチーフ単位で刺しゅうされ、同じ色の糸を何度も交換することになります。



糸の交換頻度を少なくする

アイコンをオンにすると、同じ色をまとめて縫うので、糸変えの頻度が少なくなります。



刺しゅう枠の移動

刺しゅう枠に入りきらない大きなモチーフ（例えば、文字列やボーダー刺しゅうなど）を刺しゅうするとき、布を刺しゅう枠に張り替えなければなりません。このとき、先に縫ったモチーフの最後の針目に刺しゅう枠を、振り幅、送り長さ調節つまみを使って移動します。

- ▶ 移動作業がアイコンに表示されます。



塗りつぶし機能

アイコンがオンの時、色替えなく、最初から終わりまで一色で刺しゅうします。
アイコンがオフの時、色順に刺しゅうをします。



編集

この画面でモチーフを編集できます。



刺しゅうメニュー

- ▶ «刺しゅう»画面が表示されます。
 - ▶ 刺しゅうをする準備が出来ました。
- «スタート/ストップ»ボタンを押して刺しゅうを始めます。

選択メニュー画面



- «モチーフの選択»ボタンを押します。

機能

- 1 新しいモチーフを開く
- 2 モチーフの追加
- 3 モチーフの保存
- 4 モチーフの削除



新しいモチーフを開く

- ▶ 前の画面（文字、モチーフ、ステッチパターン、マイデザイン）を表示します。
- モチーフを選びます。



モチーフの追加

- ▶ 前の画面（文字、モチーフ、ステッチパターン、マイデザイン）を表示します。
- モチーフを選びます。



モチーフの保存

- ▶ «保存»画面が表示されます。



モチーフの削除

- ▶ «削除»画面が表示されます。

カラー画面



- «色番号»ボタンを押します。



糸のブランドを変える

- ▶ 画面に糸メーカーのブランドが表示されます。

刺しゅうモチーフ

刺しゅうモチーフを選ぶ



「文字」、「モチーフ」、「ステッチパターン」、「マイデザイン」ファイルからいろんな刺しゅうデザインを選べます。

文字



書体を選びます

- 「文字」アイコンをタッチします。
- ▶ 画面に幾つかの文字書体が表示されます。
- 縫いたい「文字書体」アイコンをタッチします。



文字列の入力と修正

- ▶ キーボードが表示されます。
 - 「ABC」アイコン、(大文字)が自動的にオンになります。
 - 文字を入力します。
- スペースキーはキーボードの下に表示されています。
- ▶ 文字列入力欄1に文字が表示されます。
 - タッチ✓して確定します。

文字を削除する

- 文字列入力欄1 をタッチします。
- ▶ 入力された全ての文字列が削除されます。

訂正するには

- アイコン2をタッチします。
- ▶ 入力した文字列が右端から一文字ずつ削除されます。



3 「ABC」大文字 (標準)

4 「abc」小文字

5 「1,2,3」数字と算術記号

6 「@&!...」特殊文字、記号



文字列が刺しゅう枠からはみ出るときは、文字列を90度回転させて見ましょう。それでも入りきらないときは、文字のサイズを小さくするか、文字数を減らしましょう。

ベルニナ刺しゅうモチーフ

すべてのベルニナ刺しゅうモチーフはそのままに刺しゅうするか、またはいろいろな機能を使って編集して刺しゅうできます。



モチーフの一覧

- «刺しゅうモチーフフォルダー»アイコンをタッチします。



モチーフはテーマ毎のフォルダーに保存されて表示されます。

- フォルダーを選びます。
- モチーフを選びます。

ステッチパターン

ソーイングの部と同じカテゴリーに入っています。



ステッチパターンの一覧

- フォルダーを選びます。
- ステッチを選びます。



マイデザイン

すべての刺しゅうモチーフはそのままに刺しゅうするか、またはいろいろな機能を使って編集して刺しゅうできます。



モチーフの一覧

- «マイデザイン»アイコンをタッチします。
- モチーフのアイコンをタッチするか、「0-9»アイコンで選びます。



モチーフと機能の組合わせ

機能をオンにするには、それぞれのアイコンをタッチし、振り幅、送り長さ調節つまみを使って調節します。

刺しゅうモチーフの移動



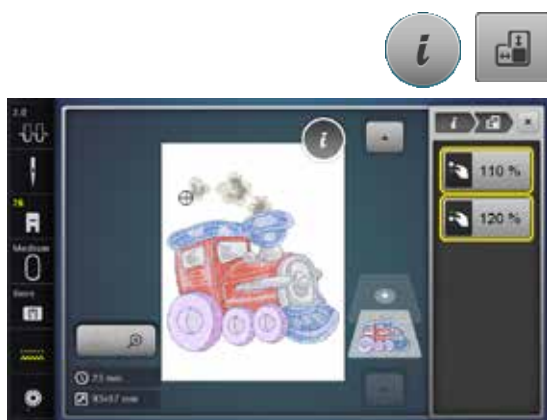
- «i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの移動»アイコンをタッチします。
- 振り幅調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが水平方向に移動します。
- 送り長さ調節つまみを回します。
- ▶ モチーフが垂直方向に移動します。
- ▶ アイコンには1/10 mm単位で移動距離が表示されます。
- 振り幅、送り長さ調節つまみの両方を回します。
- ▶ 両方のつまみを使えば、モチーフを斜め方向に移動できます。
- 黄色枠のアイコンをタッチ、または«中心»アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフが刺しゅう枠の中心に戻ります。

モチーフを回転させる



- «i»アイコンをタッチする。
- «モチーフの回転»アイコンをタッチします。
- 振り幅調節つまみを右に回します。
- ▶ モチーフが右に回転します。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
- ▶ モチーフが左に回転します。
- ▶ 回転の状態はアイコンに角度(°)で表示されます。
- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフが元の位置(0°/360°)に戻ります。
- «+90°»アイコンを1~4回タッチします。
- ▶ モチーフが90°単位で回転します。(0°, 90°, 180°, 270°, 360°)

モチーフの高さ、または幅を個別に変える



- «i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの高さ、または幅を変える»アイコンをタッチする。
- 振り幅調節つまみを時計方向、または反対方向に回します。
- ▶ モチーフが水平方向で拡大、または縮小されます。
- 送り長さ調節つまみを時計方向、または反対方向に回します。
- ▶ モチーフが縦方向に拡大、または縮小されます。
- ▶ 拡大、または縮小率はアイコン内に%で表示されます。
- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフのサイズが元に戻ります。

刺しゅうモチーフをプロポーションを維持して拡大、縮小



- «i»アイコンをタッチします。
- «拡大または縮小»アイコンをタッチします。



- 振り幅調節つまみを右に回します。
- ▶ モチーフが拡大されました。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
- ▶ モチーフが縮小されました。
- サイズはアイコンに (%)で表示されます。
- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフのサイズが元に戻ります。

モチーフの反転



- «i»アイコンをタッチします。



- «左右反転»アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフが左右に反転されます。
- «上下反転»アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフが上下に反転します。

刺しゅう枠の選択



- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。

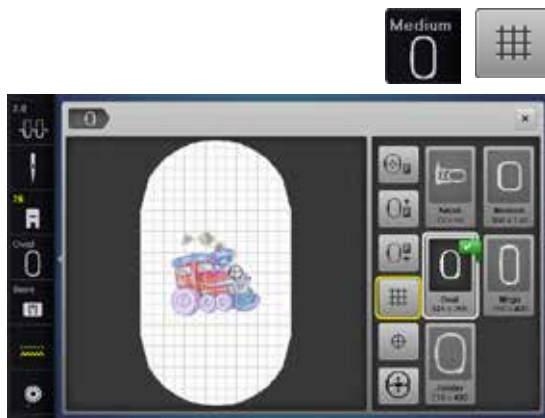
刺しゅうの出来栄えを良くするには、モチーフのサイズに対してできる限り小さな刺しゅう枠を使うことです。

- 刺しゅう枠を選びます。
- ▶ 選んだ刺しゅう枠が白枠で、画面右上に表示されます。
- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
- ▶ 画面が閉じます。
- ▶ 刺しゅうモチーフが選んだ刺しゅう枠に表示されます。



モチーフの中心

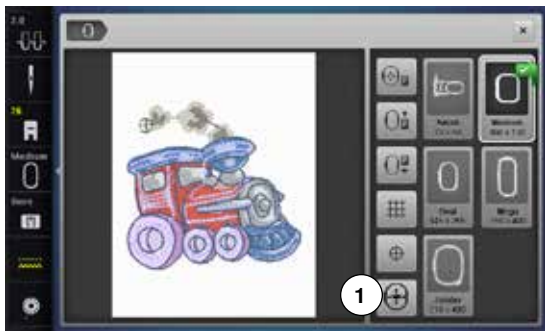
- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
- «モチーフの中心»アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフの中心1 が画面に表示されます。
- ▶ バーチャルポジショニング機能がオンになっている時は、針が正確にモチーフの中心に来るように刺しゅう枠が移動します。
- «モチーフの中心»アイコンを再びタッチします。
- ▶ モチーフの最初の一針が再び画面に表示されます。



目盛り

- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
- «目盛り»アイコンをタッチします。
- ▶ 大きな十字カーソルが刺しゅう枠の中心に表示されます。
- «目盛り»アイコンを再びタッチします。
- ▶ 画面に目盛りが表示され、モチーフの位置決めやレイアウトに便利です。
- «目盛り»アイコンを再度タッチします。
- ▶ 目盛りが消えます。

刺しゅうの位置合わせ



《編集》画面では、刺しゅうモチーフの一部分を選択したい場合、タッチペンなどで直接タッチして選択できます。

- モチーフを選択し、編集する。
- モチーフに合った刺しゅう枠を取り付けます。

絶対位置をチェックするために《モチーフの中心》アイコンはオフにしてください。

- タッチペンを使って、刺しゅう枠の中のモチーフをチェックしてください。
- タッチペンを使って画面上でモチーフのどの場所でもタッチしてみてください。
- ▶ カーソル(針の位置に相当)がタッチした場所へ移動します。
- ▶ 《刺しゅう枠ポジション》1アイコンがアクティブ(黄色枠)ならば、刺しゅう枠は針が指している場所へ移動します。



糸が切れたら、タッチペンでモチーフの糸が切れた辺りをタッチしてください。刺しゅう枠が移動して、タッチした場所が中央に表示されます。



モチーフのサイズをチェックする

《チェックモチーフサイズ》機能が取り付けられた刺しゅう枠のサイズと刺しゅう域を認識します。

- 《i》アイコンをタッチします。
- 《チェック》アイコンをタッチします。
- 矢印アイコンを使って四隅を選びます。
- 《モチーフの中心》アイコンをタッチします。
- ▶ 刺しゅう枠が動いてモチーフの中心が針の位置へ移動します。
- 振り幅調節つまみを左に、または右に回します。
- ▶ 刺しゅうモチーフが左に、右に動きます。
- 送り長さ調節つまみを左に、または右に回します。
- ▶ 刺しゅうモチーフが上下に動きます。



ズーム



- «ズームアップ»アイコンを1～5回タッチします。



- ▶ モチーフがその都度大きく拡大されて表示されます。



- «ズームアウト»アイコンを1～5回タッチします。
- ▶ 拡大表示されたモチーフがその都度縮小されます。



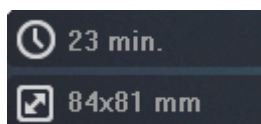
刺しゅうモチーフを移動する

- «移動»アイコンをタッチします。



- 画面上のモチーフに指先、またはタッチペンで触れて自由に移動できます。

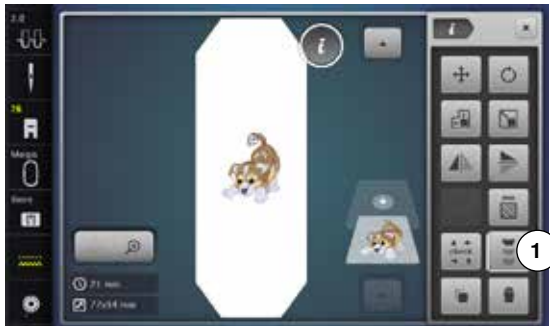
モチーフのサイズと刺しゅう時間



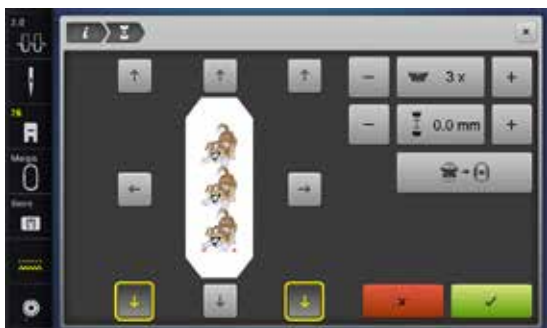
画面左下の«編集»画面には、刺しゅう所要時間、モチーフのサイズ(幅と高さ)をmmで表示します。

エンドレス刺しゅう

ボーダーを刺しゅうするときは、メガまたはジャンボフープを使うと便利です。楕円の大型刺しゅう枠を使うよりも布の張替え頻度が少なく済みます。大きなモチーフを刺しゅうするときは、布地の張替えを楽にするために、布地にガイドラインをテンプレートに平行になるように引いておく大変便利です。



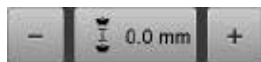
- モチーフを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «エンドレス刺しゅう»アイコンを1をタッチします。



- ▶ 刺しゅうモチーフは何度も複製でき、デザインを合成して作るのに便利です。
- ▶ 位置合わせポイントは、大型刺しゅうモチーフを縫うときに、布を張り替える際の位置合わせに大変重要で、布地の上にモチーフとは別に自動的に縫われます。
- 矢印ボタンを使って位置合わせポイントを、別の方向にも追加することが出来ます。



- 振り幅調節つまみを使って、または«+»/«-»アイコンを使って、モチーフの数を増やしたり、減らしたり出来ます。
- 中央付近をタッチします。
- ▶ 始点に戻ります。



- 送り長さ調節つまみを使って、または«+»/«-»アイコンを使って、モチーフ間の距離を調節できます。
- ▶ 表示はmm単位です。
- 中央付近をタッチします。
- ▶ 始点に戻ります。



- ▶ マニュアルで刺しゅう枠にモチーフを詰め込みすぎると、画面上の刺しゅう枠が赤く表示されます。
- ▶ «刺しゅう枠に合わせる»機能を使うと、自動的に刺しゅう枠に合うようにモチーフを調整してくれます。



- ✓をタッチして確定します。
- ▶ «編集»画面が表示されます。
- «i»アイコンをタッチします。
- ▶ 機能の一覧画面が閉じます。
- 刺しゅうとボーダー刺しゅう画面が変わります。



刺しゅうメニューで刺しゅうスピードを変えることが出来ます。



- 位置合わせポイントが縫われたら、「エンドレス刺しゅう」アイコンをタッチします。



- ▶ アニメーションで布地の合わせ方を説明します。
- 布地を張り直すとき、刺しゅう枠の中で、位置合わせポイントが刺しゅう枠の上部に来るようにするのがコツです。
- 位置合わせポイントが刺しゅう枠の端に近づき過ぎないように、または、刺しゅう範囲に掛からないように(少なくとも刺しゅう枠の上端から3cm位の位置)注意します。
- 刺しゅう枠を取り付けます。
- ✓をタッチします。



- ▶ 刺しゅう枠が縫い終わった部分の最後のステッチ付近に移動します。
- 振り幅と送り長さ調節つまみ、またはどちらか片方を使って、針が最後のステッチに正確に重なる位置に刺しゅう枠を移動します。
- ✓をタッチして、刺しゅう画面に切り替えて、刺しゅうを再開します。
- この操作を繰り返して、ボーダーを最後まで縫い続けます。
- ▶ «Auto»がオンになり、刺しゅう枠が自動的に最後の位置合わせポイントへと移動します。
- 矢印ボタンは次にどの方向にモチーフを刺しゅうするのか、つまりどの方向に位置合わせをするのかを示しています。
- 布地を刺しゅう枠に張り直します。

コンビネーションについて コンビネーションデザインを作るには



- まず最初のモチーフをメニューから選びます。

▶ モチーフ1が「編集」画面に表示されます。



二番目のモチーフを追加する

- «刺繍モチーフを加える»アイコンをタッチするか
- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «モチーフを追加»アイコンをタッチします。
- モチーフのメニューからモチーフを選ぶか、文字列を入力します。
- ▶ 選んだモチーフ2が追加されました。



モチーフを複製 (コピーして貼り付け)する

- «i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの複製»アイコンをタッチします。
- ▶ オンになっているモチーフ3が複製4されました。



コンビネーションを複製する

- コンビネーション5をオンにします。
 - ▶ «i»アイコンをタッチします。
 - «モチーフの複製»アイコンをタッチします。
 - ▶ オンになっているコンビネーション6+7が複製8されました。
- 複製されたコンビネーションの中の単体のモチーフを選ぶことはできません。一方、元のコンビネーションの中の単体のモチーフを選ぶことは可能です。

文字列

文字列(例えば、言葉)はいろいろな文字書体やモチーフと組み合わせで作れます。熟語(例えば、Made to create)も個別に単語を作り、組合わせて、それぞれの位置を個別に決めることも可能です。



組み合わせ

- «文字»アイコンをタッチします。
- ▶ 画面に幾つかの文字書体が表示されます。
- 使いたい«文字書体»アイコンをタッチします。
- ▶ キーボードが表示されます。
- 例えば、Madeと入力します。
- 大文字／小文字アイコンを使って文字を使い分けます。
- キーボードの一番下にあるスペースキーを使ってスペースを入れます。
- ✓をタッチして組合わせた文字列を確定します。
- ▶ 文字列は«編集»画面に表示されます。



位置合わせ

- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
 - 中型刺しゅう枠を選びます。
 - «刺しゅう枠選択»アイコンを再度タッチします。
 - «i»アイコンをタッチします。
 - «モチーフの回転»アイコンをタッチします。
 - «+90»アイコンをタッチします。
 - ▶ 文字列が90°回転します。
 - 機能画面の上の«i»アイコンをタッチします。
 - ▶ 機能の一覧画面が再度表示されます。
 - «モチーフの移動»アイコンをタッチします。
 - タッチペン、または指先を使って画面上で文字列を移動します。
- 刺しゅう枠の周りに枠線が赤く表示されるときは、モチーフが刺しゅう域をはみ出ていることを示します。



文字列を追加する

- «モチーフの選択»ボタンを押します。
 - «モチーフの追加»アイコンをタッチします。
- 追加の文字列を入力して組合わせ、位置を決めます。
- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
 - 刺しゅう枠の目盛り機能をオンにします。150ページを参照してください。
 - ▶ 目盛り線を利用して、文字列のレイアウトを決めます。

文字列と刺しゅうモチーフ

デザインによっては、まず文字列を作ってモチーフを追加するか、モチーフに文字列を追加したりもします。(例えば、飾り文字など)。



組み合わせ

- 刺しゅうモチーフを選びます。
- ▶ モチーフが「編集」画面に表示されます。
- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «モチーフの追加»アイコンをタッチします。
- 画面上に暗く表示された«刺しゅう機»アイコンをタッチします。
- ▶ 選択メニューが表示されます。
- 文字書体を選びます。
- ▶ キーボードが表示されます。
- 文字列を入力します。例えば、Flowers。

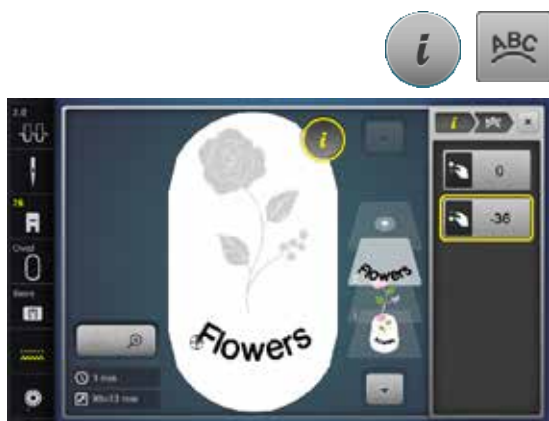
大文字／小文字アイコンを使って文字を入力します。

- ✓をタッチして、組合わせた文字列を確定します。
- ▶ 文字列が「編集」画面の中のモチーフの上に現れます。



モチーフにあわせて文字列を修正する

- «i»アイコンをタッチする。
- «モチーフの変形»アイコンをタッチします。
- 文字列をモチーフに合わせます。
- 機能画面の上の«i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの移動»アイコンをタッチします。
- 文字列を適当な位置に合わせます。



文字列を加工する

- «i»アイコンをタッチする。
- «文字列の加工»アイコンをタッチします。
- 送り調節つまみを左に回します。
- ▶ 文字列が凹状に変化します。



ステッチパターン／文字／文字列を削除する

保存前のコンビネーションの中の一部を削除できます。

- 削除したい部分を選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- «ok»をタッチして確定します。
- 指先で削除したい部分をタッチして選び、押えたままで右に移動(スワイプ)します。
- 指を画面上から離します。
- «ok»をタッチして確定します。
- ▶ 選んだ部分が削除されました。

モチーフを編集する



- «i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの編集»アイコンをタッチします。



ステッチの種類を変える。
ステッチの密度を変える。



- «ステッチタイプの変更»アイコンをタッチします。
- ▶ 元のステップフィルの部分がオンになります。



モチーフを大きく拡大すると、サテン埋め込みステッチの長さが極端に長くなり、ステッチがトンネル状に浮き上がる様な結果を招きます。このような時に、サテン埋め込みステッチをステップ(たたみ)埋め込みステッチに変換することをお勧めします。

各種の埋め込みステッチ

刺しゅうモチーフはサテン埋め込み、またはステップ埋め込みのいずれかのステッチで刺しゅうされています。



サテン埋め込みステッチ

刺しゅう枠が左右、上下に動いて滑らかな刺しゅう面を作り出します。



ステップ (たたみ)埋め込みステッチ

たたみの目のような規則正しい刺しゅう面を作り出します。



- «ステッチタイプの変更»アイコンをタッチします。



ステッチタイプを変更する

サテン埋め込みステッチは最大8mmの長さのステッチです。(標準設定)。

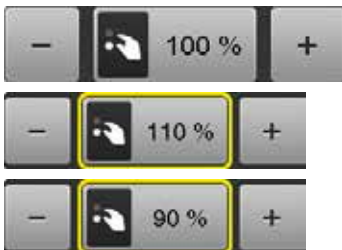
- ▶ «+»/«-»アイコンをタッチして、または振り幅調節つまみを左右に回します。
- ▶ 最大ステッチ長さを増減することが出来ます。
- ▶ ステップ埋め込みステッチの最大長さは12.7mmで、最小は0.5mmです。
- ✓アイコンをタッチします。
- ステッチの設定が完了し«編集»画面が表示されます。

標準設定に戻す

- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ 標準設定 (8 mm)に戻りました。

サテン埋め込みステッチに戻る

- «ステッチタイプの変更»アイコンをタッチします。
- ▶ モチーフが再びサテン埋め込みステッチに変わります。



ステッチの密度を変える

- «+»/«-»アイコンをタッチ、または送り長さ調節つまみを左右に回します。
- ▶ 埋め込みステッチの密度を増減できます。
- ▶ 最大密度は標準の300%で最低は25%。
- ✓アイコンをタッチします。
- ▶ 変更した密度が保存され、«編集»画面が表示されます。

標準設定に戻す

- 黄色枠アイコンをタッチします。
- ▶ 標準設定(100%)のモチーフに戻されました。

モチーフの色

モチーフの配色を変える

- 画面上の「色数」アイコンをタッチします。
- 矢印アイコンでスクロールして、変えたい色が出るまでスクロールします。
- 変えたい色を選びます。(ここでは 1)



- 「糸の色」アイコンをタッチします。
- 糸色の下に表示されている矢印アイコンをタッチして、色をスクロールして選びます。
- 色を確定、または
- «0-9»アイコンをタッチします。
- 色番号をキーボードから入力します。
- ▶ 新しい色に入れ替わりました。
- ▶ 入れ替わった色が表示されます。
- «戻る»アイコン1をタッチします。
- ▶ 選んでいる刺しゅうモチーフに使われている色の一覧が表示されます。



糸のブランドを入れ替える

- 「糸の色」アイコンをタッチします。
- 矢印アイコンで左右にスクロールして、替えたい糸のブランドを表示します。
- «糸のブランド»アイコン2をタッチします。
- ▶ 画面の糸のブランドが変更され、そのブランドの糸の詳細が表示されます。
- «戻る»アイコン1をタッチします。
- ▶ 入れ替わった糸ブランドの詳細が表示されます。



モチーフに標準と異なる糸のブランドを適用できます。

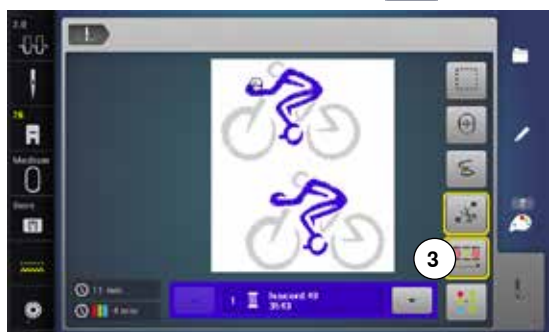
- 替えたい糸のブランドにスクロールします。
- «糸のブランド»アイコンをタッチしないように。
- 変える色にスクロールします。
- アイコンをタッチします。

刺しゅうモチーフ



色替え編集機能

- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- ▶ «色替え編集»アイコンはオフです。(通常はグレー表示)
- ▶ モチーフは元の色の順番に刺しゅうします。色替えの回数2は元のままです。



色替え編集機能

- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- «色替え編集»アイコンをタッチします。
- ▶ 同じ色で«カラーブロック»を構成し、色毎に刺しゅうしますので、糸を交換する回数3が削減できます。
- ▶ 刺しゅうモチーフが重なっている時は、糸を交換する回数を減らすことはできません。



単色で刺しゅうする

- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- «塗りつぶし»アイコンをタッチします。
- ▶ 塗りつぶし機能がアクティブになりました。
- ▶ 刺しゅう機は、途中で止まることなく一色で刺しゅうを仕上げます。



文字列の各文字を異なるカラーで刺しゅうするには:

文字列は通常一色で表示されます。(この時、「塗りつぶし»アイコンは文字列には対応しません)。文字列の中の各文字毎に、または文字列のコンビネーションの中で単語毎に色を変えて刺しゅうしたいときは、最初に一文字ずつ、または各文字列毎に異なる色でプログラムして組み合わせおく必要があります。

- ▶ 各文字、または単語を縫う毎にミシンは止まります。
- 糸の色を交換します。
- ▶ 各色毎に刺しゅう時間が表示されます。

一色で文字列を刺しゅうするには

- この場合、「塗りつぶし»アイコンが使えます。
- ▶ 文字列全体が一色で塗りつぶされて刺しゅうされます。

しつけ縫い



- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- «しつけ縫い»アイコンをタッチします。



刺しゅうモチーフの周りを直線のしつけ縫いが囲みます。
布地と安定紙を縫い合わせて、刺しゅう中の布地を安定させるしつけ縫いの役割を果たします。



- «しつけ縫い»アイコンをもう一度タッチします。
- ▶ しつけ縫いの形状が変わります。



しつけ縫いが刺しゅう枠の内側に沿って縫われます。

しつけ縫いをオフにする

- アイコンをもう一度タッチします。
- ▶ しつけ縫い機能が取り消され、しつけ縫いが消えました。
新しいモチーフの刺しゅうに移ってもこの機能は継続されます。

飾り縫いのパターンを刺繍モチーフとしてインポートするには

飾り縫いのパターンやコンビネーションは、刺しゅうモチーフに編集することができます。そうすれば、終わりのない刺しゅうパターンを作成したり、複製や鏡面イメージも素早く簡単に作成することができます。

そして、その作成したパターンを刺しゅうモチーフとして<<マイデザイン>>フォルダに保存することができます。



ソーイングモードからインポートした飾り縫いのパターンが刺しゅうモードで保存されていない時は、次に選択した飾り縫いのパターンによって上書きされます。



ソーイングモードで飾り縫いのパターンを選択する。

- 201番の飾り縫いパターンを選択します。
- <<ホーム>>ボタンをタッチします。
- <<刺しゅうモード>>アイコンをタッチします。



刺しゅうモードで飾り縫いのパターンを選択する。

- <<マイデザイン>>アイコンをタッチします。



- ▶ <<マイデザイン>>フォルダに飾り縫いのパターンがインポートされています。
- 使いたい飾り縫いのパターンを選択します。



- ▶ 飾り縫いのパターンが<<編集>>画面に出きます。
- ▶ 飾り縫いのパターンは、刺しゅうモチーフのように編集することができます。
- ▶ 編集した飾り縫いのパターンを刺しゅうモードで保存するためには、173ページを参考にしてください。

刺しゅうモチーフを保存するには

マシンに内蔵されたモチーフ、USBメモリーまたは刺しゅうソフトウェアで作られたモチーフなどを編集して保存することができます。
刺しゅうモチーフはマシンのメモリー、またはUSBメモリーのいずれにも保存することができます。



サイズなどが変更されたモチーフが保存されると、それはまったく新しいモチーフとして見做されます。この新しいモチーフが100%の大きさとなり、編集されたモチーフはまったく新しいモチーフとなります。

刺しゅう機のメモリー

- 刺繍モチーフを選びます。
- 好きなように編集します。
- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «保存»アイコン1をタッチします。



保存する刺しゅうモチーフが黄色枠で表示されます。

- ▶ «刺しゅう機»アイコンがオンになりました。
- ▶ «マイデザイン»フォルダーが自動的に開きます。
- ▶ マシンの中のメモリーの空き容量は緑枠に%で表示されています。
- 保存したいモチーフを選びます。
- ▶ 刺しゅうモチーフが、«マイデザイン»フォルダーに数字の順番に保存されます。
- ▶ «編集»画面が再び表示されます。

USBメモリー



保存するモチーフが黄色枠で囲まれて表示されています。

- USBメモリーを差し込みます。
- «USBメモリー»アイコンをタッチします。
- ▶ マシンのメモリーの空き容量が緑枠に%で表示されています。
- 保存したいモチーフを選びます。
- ▶ USBメモリーにモチーフが保存されました。



オプションの空のUSBメモリーはバルニナ取扱店でお買い求めいただけます。
他メーカーのUSBメモリーは、特に大容量のものでは対応しないものがありますので、ご注意ください。

モチーフの上書き

刺しゅう機のメモリーやUSBメモリーに保存されたモチーフを上書きする

- 刺しゅうモチーフを選びます。

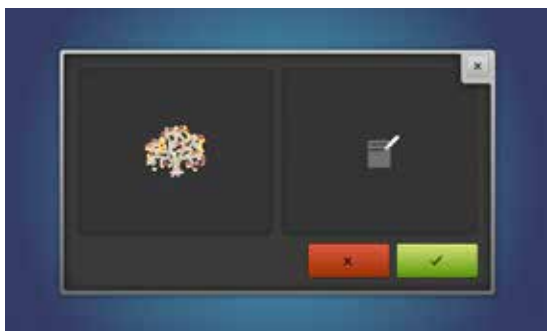


- USBメモリーを差し込みます。
- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «保存»アイコンをタッチします。



保存するモチーフが黄色枠で表示されます。

- «刺しゅう機»アイコン、または«USBメモリー»アイコンをタッチします。
- 上書きするモチーフを選びます。



- ✓をタッチして確定します。
- ▶ モチーフが選んだ場所に上書きされました。

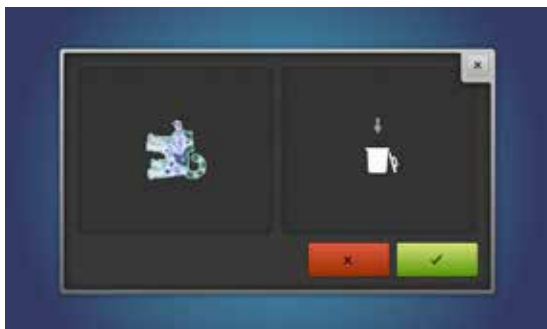
保存した単体のモチーフを削除する



- USBメモリーを差し込みます。
- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «削除»アイコンをタッチします。
- «USBメモリー»アイコンをタッチします。
- «刺しゅう機»アイコンをタッチします。



- 削除したいモチーフを選びます。



- ✓をタッチして確定します。
- ▶ これでモチーフを削除しました。

削除処理を取り消す

- ✕をタッチします。
- ▶ 削除処理は取り消され、元の画面に戻ります。

全てのモチーフを削除する

「マイデザイン」またはUSBメモリーのデータを全て一気に削除できます。

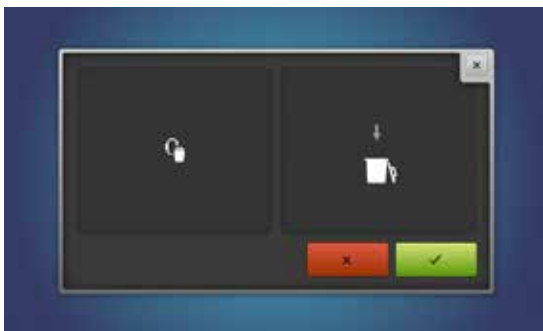


- 「セットアップ」ボタンを押します。
- 「リセット」アイコンをタッチします。
- 「ユーザーデータを削除」アイコンをタッチします。



刺しゅうしているときの二つの方法:

- 1 マイデザイン
 - 2 USBメモリー (USBメモリーが差し込まれていること)
- 削除したいモチーフをタッチします。



- ✓をタッチして確定します。
- ▶ データが削除されました。

削除処理を取り消す

- ✕をタッチします。
- ▶ 削除処理は取り消され、元の画面に戻ります。

刺しゅうを始める

刺しゅう枠の選択



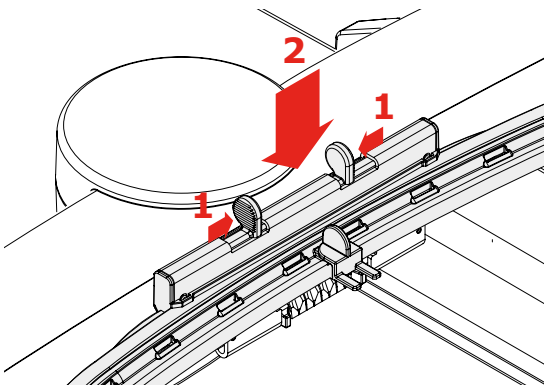
- 刺しゅうモチーフを選びます。
 - ▶ 選んだモチーフがサイズに合った最適な刺しゅう枠が表示されます。
 - ▶ «刺しゅう枠の選択»アイコン1に推奨する刺しゅう枠が表示されます。
- 推奨の刺しゅう枠を取り付けます。

刺しゅう枠を取り付ける

- 針と押え金を上げます。
- 刺しゅう枠を布表を上、取付金具が左側にして持ちます。

刺しゅう機のアームの取付金具に刺しゅう枠を取り付けます

- 刺しゅう枠を押え金の下をくぐらせます。
- 刺しゅう枠の取付金具のつまみを指で強く挟んで持ちます。
- 刺しゅう枠の取付部を、刺しゅうアームの取付け金具にはめます。
- 刺しゅう枠を取付金具に合わせて上から押し付けます。
- つまみを放します。



刺しゅう枠を取り外す

- 刺しゅう枠の取付金具のつまみを指で強く挟む様に持ちます。
- 刺しゅう枠を持ち上げて取り外します。



- 画面上の«刺しゅうメニュー»ボタンをタッチ、またはマシン上の«スタート/ストップ»ボタンを押します。
 - ▶ 刺しゅう枠が動きます。
 - ▶ ミシンが刺しゅう枠を認識します。



刺しゅう枠のズレの調節方法。48ページ参照。



«刺しゅうメニュー»ボタンを押すと、«編集»画面に戻っても編集した内容はもう見られません。「インフォメーション»アイコンが再び青色表示に変わり、機能アイコンの黄色枠が消え、全く新しいモチーフになります。

刺しゅうモチーフ

刺しゅうメニュー



- ▶ 刺しゅうメニューが表示されます。
- ▶ モチーフを刺しゅうする準備が完了しました。

«スタート/ストップ»ボタンで刺しゅうを始める



- ミシンが動き出すまで«スタート/ストップ»ボタンを長押しして下さい。
- ▶ ミシンはおよそ7針縫った後、自動的に停止します。
- ▶ 画面に余分な糸をカットするイラストが表示されます。
- 押え金を上げます。
- モチーフの縫い始めの糸端を切り取ります。
- «スタート/ストップ»ボタンを押して、刺しゅうを再開します。

途中で止めるには

- «スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ▶ 刺しゅう機が止まります。

一つの色を完成させる

- «スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ▶ 刺しゅう機は画面上で色がオンになっている部分を順番に刺しゅうしてゆきます。
- ▶ その色の部分をすべて刺しゅうしてミシンが自動的に止まります。
- ▶ 上下の糸は自動的にカットされます。

色の交換

- ▶ 刺しゅう機は自動的に次の色に移ります。
- 上糸を次の色に交換します。
- 新しい色の刺しゅうを開始します。



«刺しゅう»画面

- ▶ モチーフを縫い始めると、«刺しゅう»画面が表示されます。

刺しゅうスピード

刺しゅうの出来栄を良くするためには、刺しゅうの内容、場所に合わせてスピードを調整することをお勧めします。最低速度から最大速度まで自在に選べます。標準=最適速度を自動選択

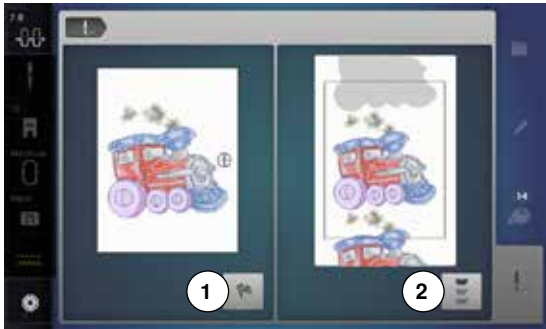


- «刺しゅうスピード»アイコンをタッチします。
- ▶ 高速モードがオンになりました。



刺しゅうの品質を求める場合は、高速モードはベストの選択ではありません。

- «刺しゅうスピード»アイコンをもう一度タッチするか、ミシンモードに切り替えて、再度刺しゅうモードを選ぶ、またはミシンの電源を切ると、刺しゅうスピードは最適モードにセットされます。



刺しゅうを終わる

- 刺しゅうが縫い終わったら、画面上でアイコン1をタッチして刺しゅうを終わらせます。または、エンドレス刺しゅうの場合は、「エンドレス刺しゅう」アイコン2をタッチしてエンドレス刺しゅうを続けます。

フットコントローラーを使って刺しゅうする

フットコントローラーはオン、オフスイッチになり、刺しゅうの間踏み続けます。

- フットコントローラーを踏み込みます。
- ▶ ミシンはおよそ7針縫った後、自動的に停止します。
- ▶ 画面に余分な糸をカットするイラストが表示されます。
- フットコントローラーから足を離します。
- 押え金を上げます。
- モチーフの縫い始めで、糸端を切ります。
- フットコントローラーを踏み込むと、また刺しゅうを再開します。

途中で止めるには

- フットコントローラーから足を離します。
- ▶ 刺しゅう機が止まります。

一つの色を完成させる

- フットコントローラーを踏み込みます。
- ▶ ミシンは画面上でオンになっている色の部分を縫います。
- ▶ その色の部分をすべて刺しゅうしてミシンが自動的に止まります。
- ▶ 上下の糸は自動的にカットされます。

糸の交換

- ▶ 刺しゅう機は画面上で自動的に次の色を表示します。
- 上糸を次の色に交換します。
- 新しい色の刺しゅうを開始します。



「刺しゅう」画面

- ▶ 刺しゅうを縫い始めると、「刺しゅう」画面が表示されます。



フットコントローラーを使った刺しゅうは小さな部分を刺しゅうするとき便利です。

刺しゅう途中に糸が切れる

刺しゅうの途中で上糸、または下糸が切れると、セットアップ画面で上糸と下糸のセンサーをオンにしてあればミシンは自動的に止まります。

上糸、下糸が切れる

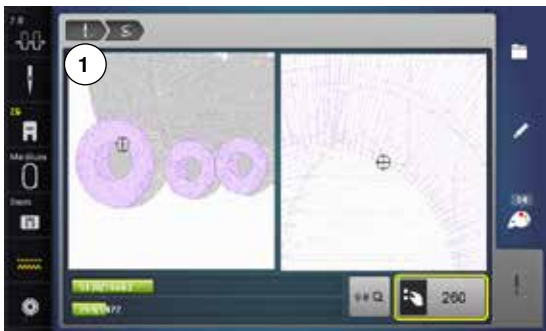


- ▶ ミシンは自動的に停止します。
- ▶ アニメーションが表示されます。
- 上糸を確認してください。
- 針に糸を掛けなおしてください。
- 下糸を確認してください。
- ポビンの糸を巻き直すか、下糸掛けをやり直してください。

糸が切れたときの手順



- «糸切れ»アイコンをタッチします。

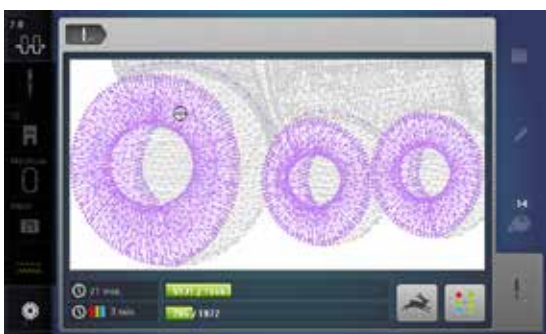


画面左側には通常のサイズで縫っている部分が表示されます。画面右側には、糸が切れた付近を拡大表示し、糸切れ場所を確定する作業を楽にします。

- ▶ 振り幅と送り長さ調節つまみを使う操作内容が画面に表示されます。
- つまみを左右に回して操作します。
- ▶ つまみを回すと刺しゅう枠が刺しゅうの順番に準じて前後左右に動きます。
- 振り幅調節つまみをゆっくり回してください。
- ▶ 刺しゅう枠が1針毎に動きます。
- 送り長さ調節つまみをゆっくり回してください。
- ▶ 刺しゅう枠が大きく動きます。
- ▶ 画面中の黄色枠アイコンがモチーフ中のステッチ位置を表示して位置を教えてください。
- «0-9»アイコンを使って直接ステッチの針目の位置を入力することも可能です。
- 糸切れが発生して空縫いした部分をカバーするために7針以上ステッチを戻します。

刺しゅう画面に戻る

- «戻る»アイコン1をタッチします。
- ▶ 画面が閉じます。



刺しゅうを再開します

- «スタート/ストップ»ボタンを長押しするか、またはフットコントローラーを踏み込みます。

クリーニング

ご注意!

掃除や注油をするときは、安全のためにコードを電源ソケットから抜いてください!
絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わないでください!

画面とミシンの掃除の仕方

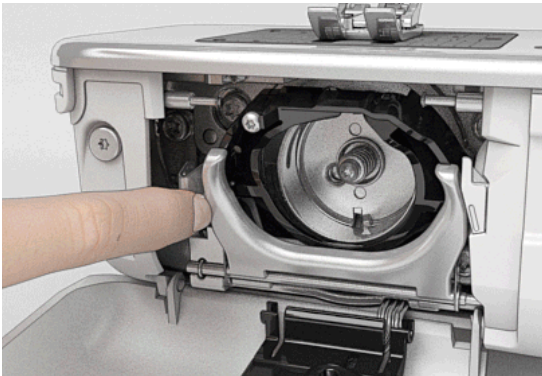
柔らかい、湿り気のある布で拭き取ります。



送り歯周辺

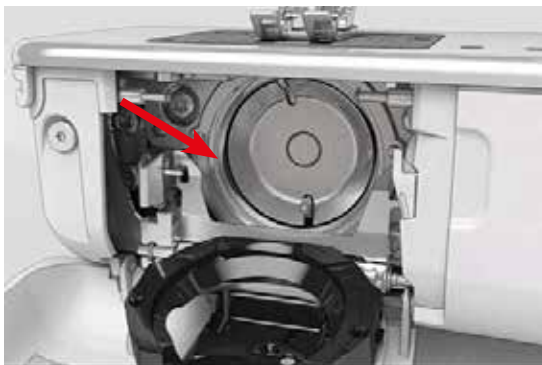
ご使用後は必ず釜周辺と針板の下側をブラシなどで掃除するようにしましょう。

- 電源スイッチをオフ<<0>>にします。
- コンセントからプラグを抜いてください。
- 押え金と針を取り外します。
- 釜カバーを開きます。
- 針板の右側奥の角の丸い印の部分指で強く押して針板を浮かび上がらせます。
- 針板を取り外します。
- ブラシで掃除します。
- 針板を戻します。



大釜の掃除

- 電源スイッチをオフ<<0>>にします。
- コンセントからプラグを抜いてください。
- ボビンケースを取り出します。
- ボビンケースの取り外しレバーを押します。
- 黒色の大釜カバーを開きます。
- 止め金を外します。



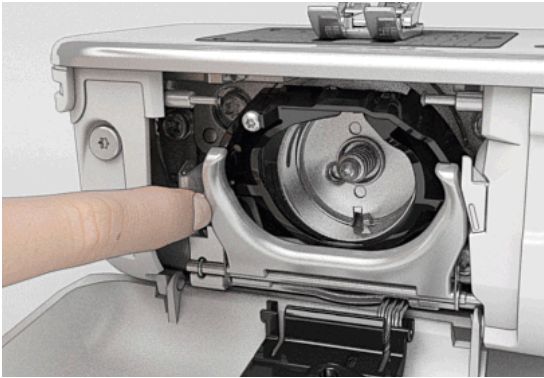
- ブラシで釜内部を掃除します。先の尖った金属などは絶対に使わないでください。
- 中釜の中央のピンを指で持って、
- 中釜を下側を先に入れ、大釜カバーの奥に上から下へ差し込むように持ちます。
- 中釜を釜ドライバーの二本の突起に合わせて、中釜の穴から中釜ドライバーの色付きの印が見えるようにセットします。
- 中がまを挿入します。
- ▶ 中釜は磁石になっていますので、正しい位置に装着してください。
- 大釜カバーを閉じて、大釜止めが確実にカバーをロックしているのを確認します。
- 確認のため弾み車を回して、確実にロックされているのを確かめます。
- ボビンケースを戻します。

クリーニング



注油

- 電源スイッチをオフ<0>にします。
- コンセントからプラグを抜いてください。
- 針板を取り外します。
- 注油孔から油溜が十分に潤うまでベルニナオイルを注します。
- 針板を戻します。



- ボビンケースを取り出します。
- 大釜カバー止めを左に押します。
- 黒色の大釜カバーを開きます。
- 中釜を取り出します。



- フェルトの油溜が十分に潤うまでベルニナオイルを注します。
- 中釜を戻します。
- 大釜カバーを閉じて、大釜カバー止めが正確にロックされたのを確認します。
- 確認の為、弾み車を回して確実にロックされているのを確認します。
- ボビンケースを戻します。
- 釜カバーを閉じます。

ご注意!

良いソーイング結果を得るには、釜軸(赤色で表示)部分がオイルで濡れないようにします。濡れたときは布で綺麗に拭き取ってください。

トラブルシューティング

困った時は以下の各ポイントをご確認ください。殆どの場合、解決できます。

確認してください：

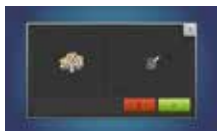
- 上糸、下糸が正しく掛けられていますか。
- 針が正しく装着されていますか。
- 針は、針と糸の一覧表(15ページ)を参照して正しいものをご使用下さい。
- 針先が傷んでいませんか。
- ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。
- 釜周りの掃除も忘れずに。
- ダイアルテンション付近やボビンケースのばねの下の糸くずを取り除いて下さい。

現象	原因	対策
縫い目が一定でない	<ul style="list-style-type: none"> - 上糸が強すぎる／緩すぎる。 - 針先が鈍い、または針が曲がっている。 - 針の品質が悪い。 - 糸の品質が悪い。 - 針と糸の組み合わせが合っていない。 - 糸掛けが間違っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上糸テンションを調節してください。 ● 新しいベルニナ高品質針をお使いください。 ● 新しいベルニナ高品質針をお使いください。 ● 品質の良い糸をお使いください。(メラー、フジックス、オゼキ等) ● 糸の番手に適切な針の番手を選びます。 ● 上糸と下糸を確認してください。
目飛び	<ul style="list-style-type: none"> - 正しい針を使っていない。 - 針先が鈍くなっている、針が曲がっている。 - 針の品質が悪い。 - 針の取り付け方が悪い。 - 針の番手・タイプが合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しい針の番手は130/705Hです。 ● ベルニナ純正針をお使いください。 ● ベルニナ純正針をお使いください。 ● 針を最上部まで差し込みます。 ● 布地に合った針先形状の針を使って下さい。
ステッチの目が揃わない	<ul style="list-style-type: none"> - 上糸テンションディスクに糸くずなどが挟まっている。 - 糸賭けが間違っている。 - ボビンケースのテンションバネの下側に糸くずがたまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上糸ダイアルテンションを掃除するには、薄い布切れを二つ折りにして折り山を上糸テンションディスクの間に滑り込ませて、前後にゆっくり動かして上糸テンションディスクの左右の溝を両側とも掃除します。 ● 下糸と上糸を確認してください。 ● スプリングの下に引っ掛かっている糸くずを注意して取り除きます。
天秤に糸が引っ掛かっている	<ul style="list-style-type: none"> - 上糸が切れる。 	<p>上糸が切れて、ミシンの中に入り込んで天秤等に引っ掛かってしまったときは以下の手順で取り除きます：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチをオフ<<0>>にします。 ● 面板のネジ1を付属品の特殊L型レンチで取り外します。 ● 面板を下の部分で少し手前に引きながら上に持ち上げて取り外します。 ● 糸くずを取り除いてください。 ● カバーを戻してネジを締めてください。
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> - 針と糸の組み合わせが正しくない。 - 上糸テンションが強すぎる。 - 糸掛けが間違っている。 - 糸の品質が悪いか、古い糸を使っている。 - 針板の針穴周りに傷、または中釜の剣先が 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸の番手に適切な針の番手を選びます。 ● 上糸テンションを緩くします。 ● 上糸掛けを確認する ● 品質の良い糸を使いましょう。(メラー、フジックス、オゼキ等) ● ミシンをお近くのベルニナ正規販売店にお持ちください。
下糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> - 下糸のテンションが強すぎる。 - 針板の針穴周りに傷がついている。 - 針先が鈍くなっている、針が曲がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上糸テンションを強くしてください。 ● ミシンをお近くのベルニナ正規販売店にお持ちください。 ● 新しい針を使って下さい。

現象	原因	対策
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> 針が正確に取り付けられていない。 布地を引っ張って縫っている。 布地を押し込んで縫っている。 こぶのある粗悪な糸を使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 針止めネジをしっかりと締め付けます。 ソーイング中は布地を引っ張らないように。 厚地には正しい押え金を使って縫いましょう(例えばジーンズ押え No.8)。特に厚い縫い代の上を縫うときは高さ調節板を使います。 品質の良い糸をお使いください。(メトラー、フジックス、オゼキ等) 針折れが発生したときは必ず中釜を取り外して中釜の裏側の磁石部分に折れた針が付着していないことを確かめてください。
画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> 画面のズレの調節が正確にされていない。 eco機能がオンのままになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> セットアッププログラムで画面のズレの調節を実行してください。 eco機能をオフにしてください。
振りを調節できない	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティプログラムがオンになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定を解除してください。
ミシン/刺しゅう機	<ul style="list-style-type: none"> ミシンと刺しゅう機が動かない、またはスローでしか動かない。 電源スイッチをオフ「0」にします。 	<ul style="list-style-type: none"> セットアッププログラムの設定を確認してください。 スピードコントローラーを調節してみます。 寒冷地方ではミシンと刺しゅう機を常温の部屋に移して、一時間ほど放置してから使ってみてください。 電源スイッチをオン「I」にします。 ミシンと刺しゅう機をお近くのベルニナ正規販売代理店にお持ちください。
「スタート/ストップ」ボタンのLEDライトが点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> LEDが不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンと刺しゅう機をお近くのベルニナ正規販売代理店にお持ちください。
LEDソーイングライトが点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> LEDが不良。 セットアッププログラムでオフにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンと刺しゅう機をお近くのベルニナ販売店にお持ちください。 セットアッププログラムでオンにします。
上糸センサーが機能していない	<ul style="list-style-type: none"> セットアッププログラムでオンにされていません。 	<ul style="list-style-type: none"> セットアッププログラムでオンにします。
下糸センサーが機能していない	<ul style="list-style-type: none"> セットアッププログラムでオンにされていません。 	<ul style="list-style-type: none"> セットアッププログラムでオンにします。
下糸センサーが異常を感知	<ul style="list-style-type: none"> 糸が切れています。 	<ul style="list-style-type: none"> 下糸を交換してみてください。
アップデート・エラー	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリーを認識できません。 アップデート処理が中断されました。(画面に砂時計が表示されたままになります) アップデートデータが認識されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ベルニナUSBメモリーを使ってみてください。 USBメモリーを取り外して、電源をオフにして、またオンにしてみてください。画面上のメッセージに従って実行してみてください。 アップデートデータをフォルダーに保存できません。 アップデートデータを解凍してから実行します。

事象	解説	修理 対応策
----	----	--------

ミシン/刺しゅう機	<ul style="list-style-type: none"> データを削除、または上書きする。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓をタッチして確認、または✗をタッチして取り消します。
-----------	--------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------



事象	解説	修理 対応策
	- 直接入力したステッチ番号を認識できません。	<ul style="list-style-type: none"> 番号を確認して入れ直します。
	- コンビネーションモードではステッチの選択ができません。	<ul style="list-style-type: none"> 他のステッチ番号を入力してみてください。
	- 送り歯を下げます。	<ul style="list-style-type: none"> 《送り歯》ボタンを押して、送り歯を下げます。
	- 針板に対して間違っただ針が選ばれました。	<ul style="list-style-type: none"> 針と針板のセキュリティーの設定をチェックしてください。
	- 針をいちばん高い位置に上げてください。	<ul style="list-style-type: none"> 弾み車を回します。
	- 上糸が無くなりました。	<ul style="list-style-type: none"> 新しい糸こまを取り付けてください。
	- 下糸センサーが警告しています。	<ul style="list-style-type: none"> 下糸を巻き直して、ボビンを入れ替えてみてください。
	- モーターが回りません。	<ul style="list-style-type: none"> 釜付近に糸が絡んでいないか確認。電源を切って絡んだ糸などを取り除きます。 中釜を取り外して、中釜の裏側の磁石部分に折れた針などが付着していないか確認してください。
	- デュアルフィードに対して間違っただ押え金を取り付けられています。	<ul style="list-style-type: none"> デュアルフィード押え《D》を取り付けてください。
	- 下糸を巻いています。	<ul style="list-style-type: none"> アニメーションに示されている方法で下糸を巻いてください。
	- 押え金の下布地が厚すぎます。	<ul style="list-style-type: none"> 押え金の下布地の厚さを減らしてください。

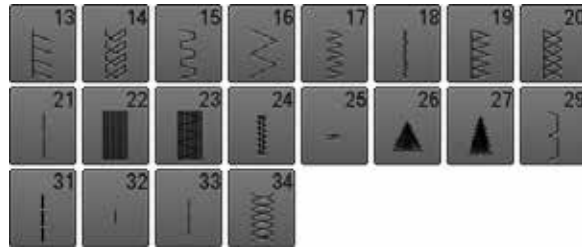
トラブルシューティング

事象	解説	修理 対応策
	<ul style="list-style-type: none"> - 振動などにより、ミシンと刺しゅう機の接続が中断されました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ミシンのスイッチを切り。刺しゅう機の接続コードをミシンに接続して、再度スイッチをオンにしてみてください。
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅう枠の中心が針の位置からずれています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用説明書の48ページの説明に従ってズレを調整してください。
		
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅう枠が未だ付けられていません。 - 刺しゅう枠の取り付け方を確認してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ミシンに刺しゅう機を取り付けて接続してください。 ● 刺しゅう機が正しく接続されているか確認してください。
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅう枠が付いていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 刺しゅう枠を取り付けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅう枠が取り付けられています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 刺しゅう枠を取り外してください。
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅう枠が動きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●  をタッチして確定します。
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅうが出来ません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● メガフープを中央に移動させて刺しゅうを再開してください。
		
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅうモチーフの一部が刺しゅう枠からはみ出ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● モチーフの位置を変えてください。刺しゅう枠の内側のみ刺しゅうされます。
	<ul style="list-style-type: none"> - 刺しゅうモチーフが大きすぎます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● モチーフのサイズを小さくするか、大きな刺しゅう枠を取り付けて下さい。刺しゅう枠に入っている部分だけが刺しゅうされます。

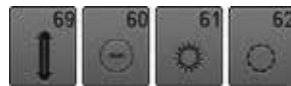
事象	解説	修理 対応策
メモリースティックに空きスペースがありません。	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリーに空き容量が不足していません。 	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリーのデータを消去してスペースを作るか、交換してください。
メモリースティックにはパーソナルデータは存在しません。	<ul style="list-style-type: none"> パーソナルデータがUSBメモリーに見つかりません。 	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリーが正しく接続されているのを確かめて、ミシンを再スタートさせて下さい。
パーソナルデータのリカバリーに失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> アップデートの処理中にパーソナルデータをUSBメモリーに保存できませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアは正常にアップデートされました。パーソナルデータはリカバリーに失敗しました。
ベルニナメモリースティックを挿入してください。ソフトウェアの自動更新作業中は、必ず同じメモリースティックをご使用ください。	<ul style="list-style-type: none"> ベルニナUSBメモリーがセットされていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ベルニナUSBメモリーを差し込んでアップデートを実行します。実行中は取り外さないでください。
ソフトウェアの更新に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいソフトウェアバージョンがUSBメモリーに見つかりません。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいソフトウェアバージョンをベルニナUSBメモリーに保存して、アップデートをやり直して下さい。
ソフトウェアの自動更新に成功しました。新世代のベルニナをお楽しみください。	<ul style="list-style-type: none"> アップデートに成功しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンと刺しゅう機は最新のソフトウェアバージョンです。
	<ul style="list-style-type: none"> ミシンをクリーニングして、注油してください。 	<ul style="list-style-type: none"> オーバーホールが必要な時期になりました。お買い上げのベルニナ正規販売代理店でサービスをお受けください。
		
定期点検の時期になりました。お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。	<ul style="list-style-type: none"> オーバーホールが必要な時期になりました。お買い上げのベルニナ正規販売代理店でサービスをお受けください。この警告メッセージが表示されたら、必ずベルニナ販売店またはベルニナサービスに連絡し 	<p>この警告メッセージが表示されたら、必ずベルニナ販売店またはベルニナサービスに連絡してサービスを受けてください。このメッセージは、異常を示すものではありませんが、ご使用時間や縫ったステッチ数などにより決められたアフターサービス用の条件に到達した時点で表示されるようにプログラムされています。メッセージは「ESC」アイコンをタッチすることで一時的に画面から消去できますが、次回ミシンの電源を入れると再び表示されます。また、上の操作を3回繰り返すとメッセージは次のサービス時期が来るまで表示されません。ミシンを定期的に点検サービスに出していただくことで、大切なミシンを正常に機能させるだけでなく、長く、安全にお使い頂けます。この点検サービスを怠るとミシンの寿命を短くすることになりかねませんし、製品保証にも影響を及ぼしかねません。修理点検サービス料は国ごとに規定されていますので、お近くのベルニナ正規販売店、またはサービスショップにご相談下さい。</p>

ステッチの一覧

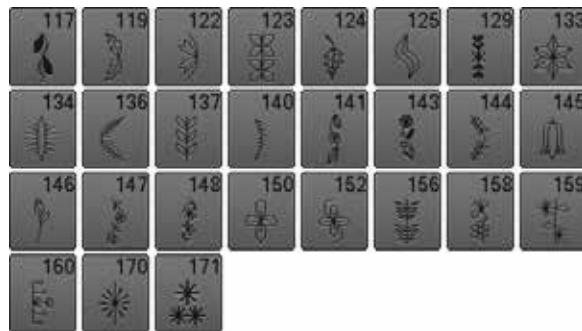
実用縫い



ボタンホール



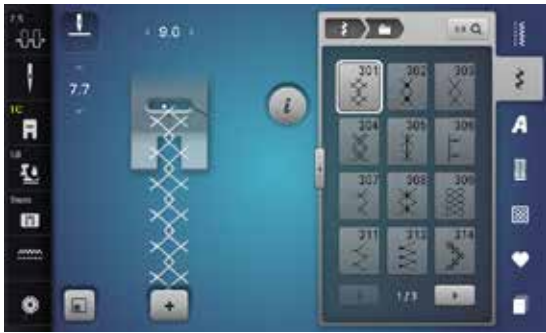
飾り縫い 花柄パターン



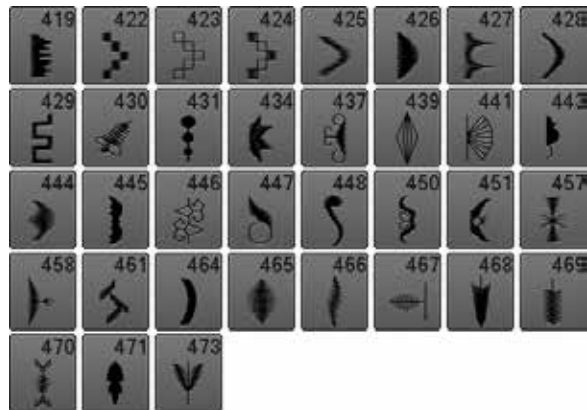
横送り花柄パターン



クロスステッチ



サテンステッチ模様

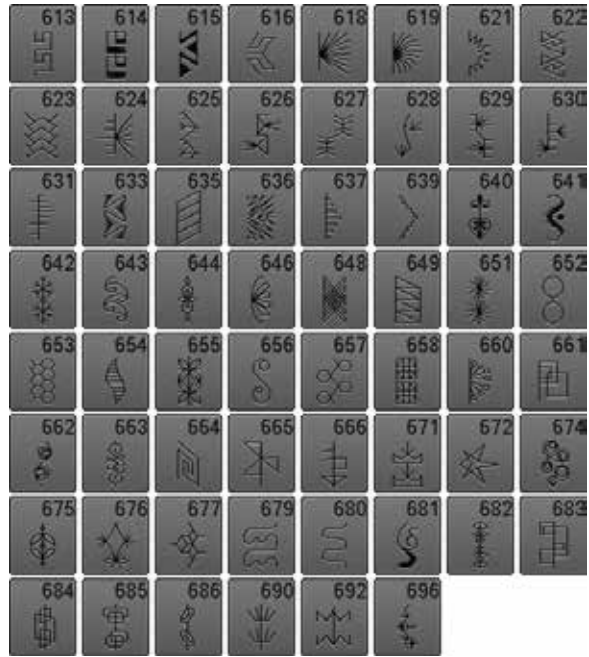


横送りサテンステッチ模様

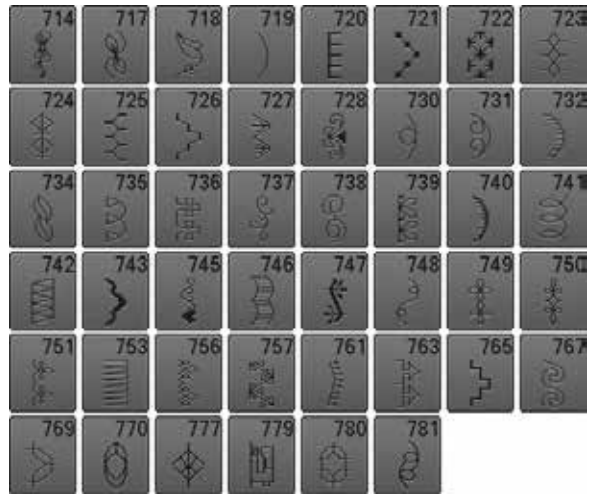


ステッチパターン

オーナメント(飾り縫い)模様



ヘアローム(伝統的な)ステッチ



横送りヘアロームステッチ



ノベルティ(斬新な)ステッチ



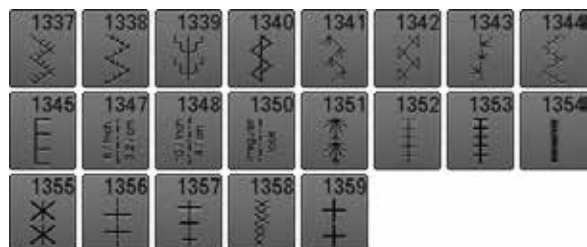
横送りノベルティーステッチ



横送り繊細優美な飾りステッチ

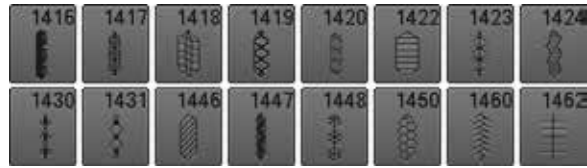


キルトステッチ



ステッチパターン

テーパーステッチ



スカイラインステッチ



インターナショナル



文字
ブロック体



M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	Ä	À
Â	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ñ
Ö	Œ	Ø	Ü	1	2	3	4
5	6	7	8	9	0	-	-
·	´	!	+	=	&	÷	?
%	@	()	[]		



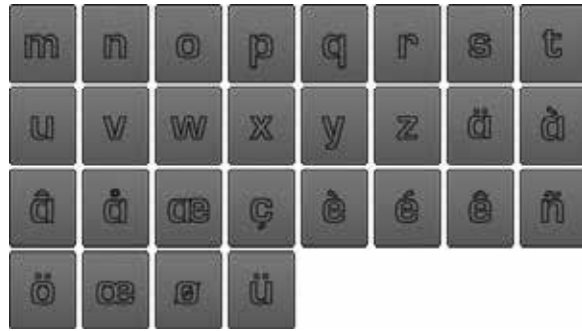
m	n	o	p	q	r	s	t
u	v	w	x	y	z	ä	à
â	å	æ	ç	è	é	ê	ñ
ö	œ	ø	ü				

ダブルブロック体

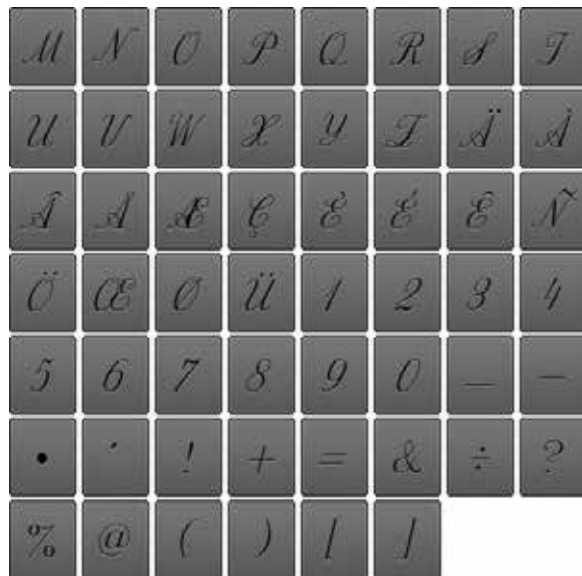


M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	Ä	À
Â	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ñ
Ö	Œ	Ø	Ü	1	2	3	4
5	6	7	8	9	0	-	-
·	´	!	+	=	&	÷	?
%	@	()	[]		

ステッチパターン



スクリプト体(筆記体)



コミックサンズ体



M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	Ä	À
Â	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ñ
Ö	Œ	Ø	Ü	1	2	3	4
5	6	7	8	9	0	-	-
·	'	!	+	=	&	÷	?
%	@	()	[]		



m	n	o	p	q	r	s	t
u	v	w	x	y	z	ä	à
â	å	æ	ç	è	é	ê	ñ
ö	œ	ø	ü				

キリル体



Л	М	Н	О	П	Р	С	Т
У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ
Ы	Ь	Э	Ю	Я	Ә	Ғ	Қ
Ң	Ө	Ұ	Ү	Һ	І	Т̄	Ј
Л̄	Н̄	Ң̄	Ц̄	Ғ̄	Є	Ї	Ў
È	Í	Š	Ќ	Й	1	2	3
4	5	6	7	8	9	0	_
-	•	'	!	+	=	&	÷
?	%	@	()	[]	



л	м	н	о	п	р	с	т
у	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ
ы	ь	э	ю	я	ә	ғ	қ
ң	ө	ұ	ү	һ	і	ҥ	ј
л̄	н̄	Ң̄	ц̄	Ғ̄	є	ї	ў
è	í	š	ќ	й			

ひらがな



す	せ	そ	た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ
へ	ほ	ま	み	む	め	も	や
ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ
を	ん	あ	い	う	え	お	や
ゆ	よ	っ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	だ	ぢ	づ
で	ど	ば	び	ぶ	べ	ぼ	ぱ
ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	1	2	3	4
5	6	7	8	9	0	_	-
.	?	!	。	,	「	」	『
』							

カタカナ



ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ
ヲ	ソ	ア	イ	ウ	エ	オ	ヤ
ユ	ヨ	ツ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ダ	ヂ	ヅ
デ	ド	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	パ
ピ	プ	ペ	ポ	1	2	3	4
5	6	7	8	9	0	_	-
.	?	!	。	,	「	」	『
』							

モノグラム



M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	A	B
C	D	E	F				

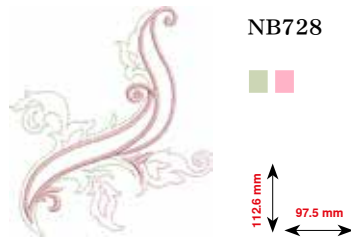
刺しゅうモチーフの一覧
飾りモチーフ



NB018



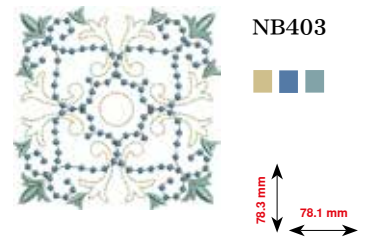
97.1 mm
90.3 mm



NB728



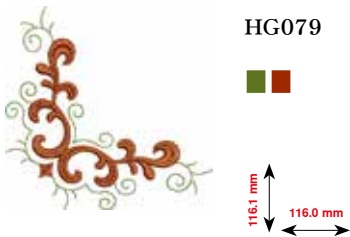
112.6 mm
97.5 mm



NB403



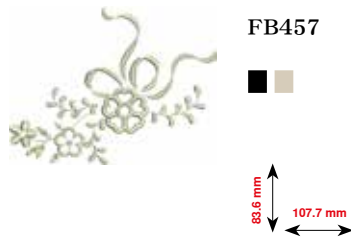
78.3 mm
78.1 mm



HG079



116.1 mm
116.0 mm



FB457



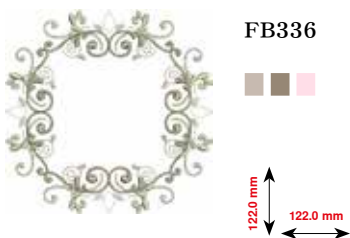
88.6 mm
107.7 mm



FQ881



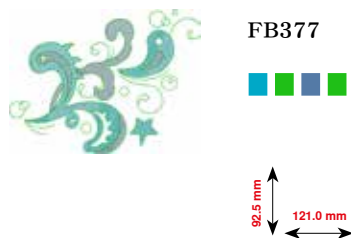
129.3 mm
129.2 mm



FB336



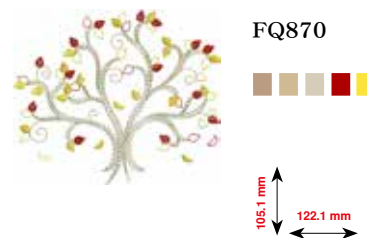
122.0 mm
122.0 mm



FB377



92.5 mm
121.0 mm



FQ870



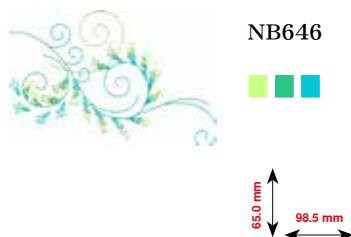
105.1 mm
122.1 mm



FB385



127.8 mm
131.1 mm



NB646



65.0 mm
98.5 mm



FQ072



101.6 mm
79.7 mm



フリンジ

アップリケ

刺しゅうモチーフ



NB101



99.2 mm
99.3 mm



NB373



176.8 mm
121.4 mm



WS649



246.3 mm
125.4 mm



NB708



127.7 mm
137.8 mm

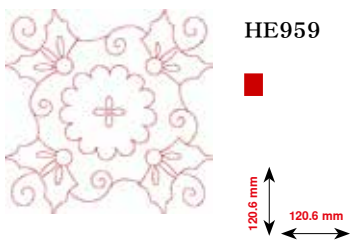
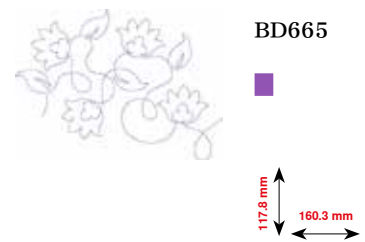
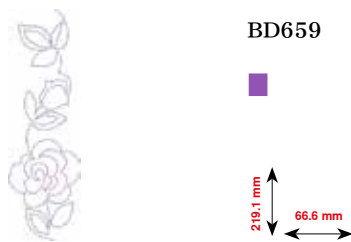
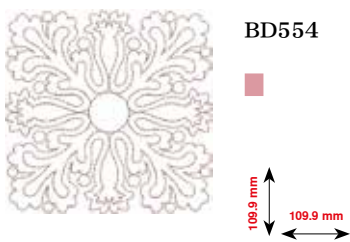
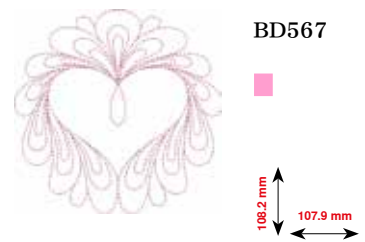
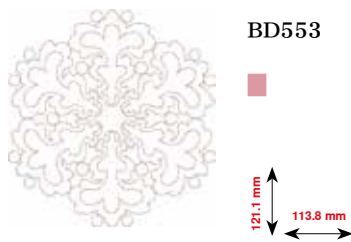
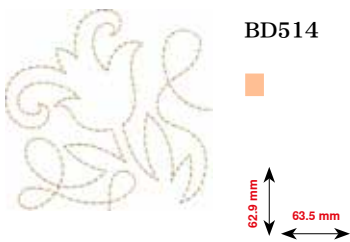
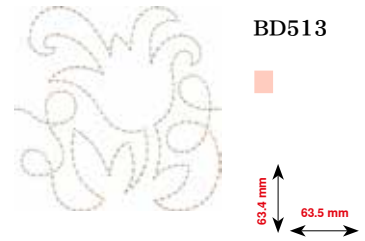
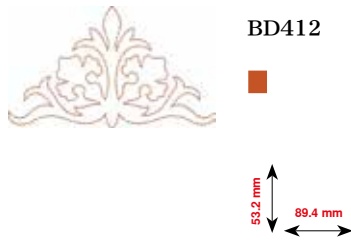
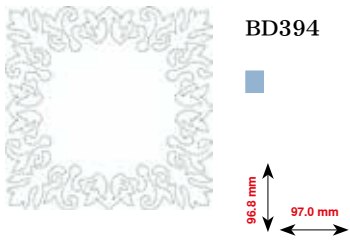


FB433



120.9 mm
120.9 mm

キルティング



ボーダーとレースモチーフ



OC33411



177.1 mm
24.2 mm



CM471



190.8 mm
59.1 mm



FB403



208.5 mm
52.2 mm



FQ785



342.0 mm
92.6 mm



FQ969



161.9 mm
51.6 mm



FQ408



97.4 mm
30.0 mm



FQ736



253.1 mm
7.9 mm



BD582



171.1 mm
48.6 mm



NA912



15.8 mm
115.1 mm



NA914



18.8 mm
120.3 mm



NB478



85.5 mm
121.7 mm



FQ847



190.1 mm
142.2 mm



FQ945



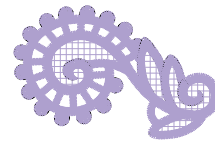
95.1 mm
93.8 mm



FQ041



78.3 mm
54.0 mm



FB422



33.8 mm
52.3 mm



FB423



59.6 mm
132.9 mm

アジアンテイスト



NB124



132.0 mm
172.4 mm



FQ212



61.6 mm
61.6 mm



FB492



293.2 mm
86.8 mm



FQ194



118.5 mm
120.2 mm



FQ217



59.2 mm
84.8 mm



FA427



66.1 mm
111.8 mm



FB276



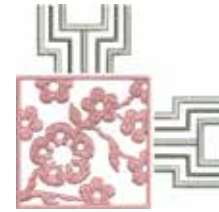
112.1 mm
124.8 mm



FB283



109.4 mm
102.4 mm



FB490



67.7 mm
67.7 mm



FB491



165.6 mm
31.7 mm



NB491



168.4 mm
79.2 mm



FB484

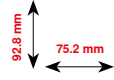


59.2 mm
66.8 mm

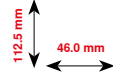
花柄モチーフ



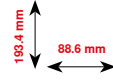
FQ061



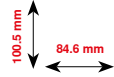
FQ801



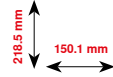
FQ273



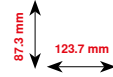
FQ055



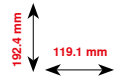
FQ982



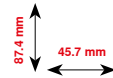
FB268



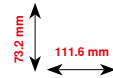
FQ934



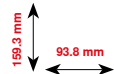
CM418



FQ972



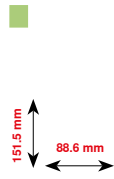
FQ548



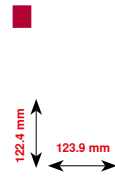
季節のモチーフ



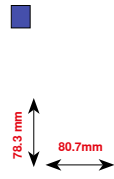
HG319



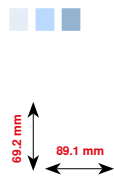
HG301



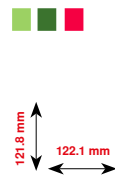
BD603



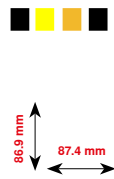
HE919



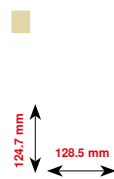
HG053



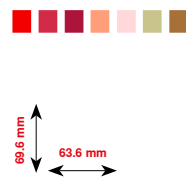
NB317



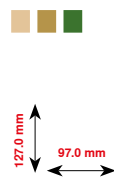
NB769



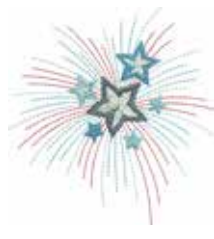
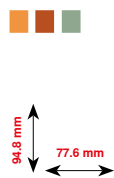
NA146



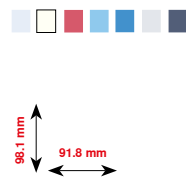
NB039



FQ749



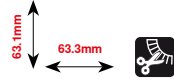
HG460



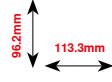
子供用モチーフ



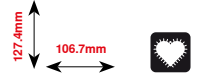
CM226*



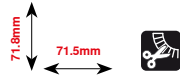
NB193



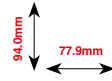
CM193*



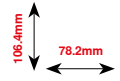
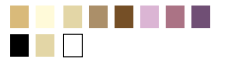
CM220*



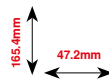
WP325



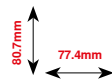
CM428



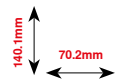
CM404



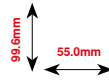
CM384



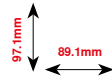
CM368



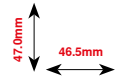
CM147



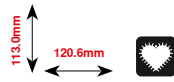
CM022



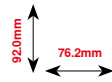
CM442



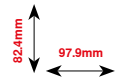
CM362*



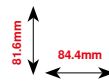
WP201



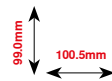
CM286



CK970



RC765

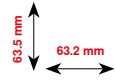


* このデザインには特殊な効果があります。詳しい情報は、www.bernina.com/7series を訪問してください。

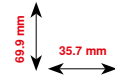
スポーツとホビー



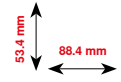
SP980



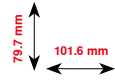
NB036



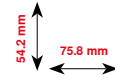
RC244



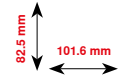
RC675



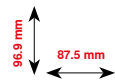
SP266



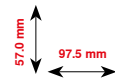
SP989



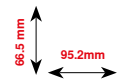
SR067



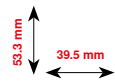
LT870



SR589



FB158



動物モチーフ



CM140



97.7 mm
88.1 mm



CM142



96.7 mm
56.5 mm



FB258



184.0 mm
83.2 mm



FQ106



106.9 mm
109.3 mm



FQ617



196.3 mm
118.0 mm



FQ624



144.2 mm
64.5 mm



MT022



125.4 mm
123.2 mm



MT028



93.4 mm
103.3 mm



WM785



103.4 mm
84.6 mm



WP217



76.1 mm
93.9 mm



WP244



172.4 mm
136.8 mm



WS610



111.1 mm
127.3 mm

花柄アウトライン



NB513



111.7 mm
103.7 mm



FQ274



77.7 mm
63.0 mm



NB668



165.1 mm
114.3 mm



NB002



95.1 mm
59.3 mm



FQ331



63.5 mm
84.6 mm



FQ738



101.4 mm
51.6 mm



FQ157



64.7 mm
63.8 mm



FQ434



162.2 mm
100.0 mm



FB419



96.5 mm
64.3 mm



WS673



170.1 mm
67.7 mm



FQ108



136.1 mm
118.9 mm



FQ161



170.5 mm
128.7 mm



NB442



89.4 mm
55.6 mm



FA971



106.6 mm
115.3 mm



HG390



148.2 mm
79.6 mm

文字

Drifter

ABC

Drifter

A
B
C

Childs Play

ABC

Childs Play

A
B
C

Victoria

ABC

Anniversary

ABC

Swiss Block

ABC

Swiss Block

A
B
C

Quilt Block

ABC

Old English

ABC

Russian Textbook

АБВ

Russian Textbook

A
Б
В

索引

A-Z

BSR	106-110
● 押え底の着脱	107
● 画面	107
● 開始/終了	110
● 機能	108
● 警告音の選択	109
● ジグザグ縫いNo. 2を使って	106
● 準備	107
● 接続	13, 107
● 直線縫いNo. 1を使って	106
● 留め縫い	108
● 針停止	108
● ミシンに押えを取り付ける	107
● モード	106

ecoモード	13, 34, 62
--------	------------

PC刺しゅうソフト	
● 接続	13, 17

USB	
● 接続	13, 17

ア

アイレット	82, 96
-------	--------

アクセサリ	
● 押え金	10
● 刺しゅう	131
● 収納例	11
● ソーイング	9-11
● ボックス	11

アップデート	54
--------	----

安全にご使用いただくために	2-3
---------------	-----

アンダーレイステッチ	135
------------	-----

安定紙	
● アイロン接着芯	140
● 刺しゅう安定紙	139
● 水溶性安定紙	140
● スプレーのり	139

イ

糸	
● 糸切り	45, 49
● 糸切れ	105, 180, 183
● 刺しゅう糸	15, 26, 133
● 刺しゅうに関する重要事項	133-135
● ソーイングに関する重要事項	14-16
● 針と糸の関係	15
● ポリエステル糸	14, 133
● メタリック糸	133
● レーヨン糸	14, 133

糸ガイド

● アイレット	13, 20
● 後方	13, 22
● ボビンケース	21

糸掛けの方法

● 下糸	21, 137
● 上糸	22, 137
● 針	24
● 二本針／三本針	23

糸切り

● 糸巻き用	13, 20
● 下糸	13, 21
● 自動	13, 32, 46, 141
● ミシン前面	13, 24

糸立て棒

● 垂直(折りたたみ式)	13, 19, 23
● 水平	13, 20, 22, 137

糸調子

● 上糸	26, 34, 45
● 刺しゅうモチーフ	146
● 標準設定に戻す	26

糸通し機	13, 24
------	--------

糸と針と布地の関係	14
-----------	----

糸巻きのスピードの調節	20
-------------	----

糸巻き用糸案内	13, 20
---------	--------

糸巻きスピードの設定	20
------------	----

色を選ぶ	50
------	----

色番号	146
-----	-----

色表示	154
-----	-----

ウ

ウエルカムメッセージ	50
------------	----

埋め込みステッチ	168
----------	-----

上糸

● 糸掛けの方法	22, 137
● テンション	26, 34, 45, 48, 146
● 表示	50

上糸テンション	26, 45, 48, 146
---------	-----------------

上送り	111-112
-----	---------

エ

エンドレス刺しゅう	148-149, 162-163
-----------	------------------

オ

オーバーロック

- ステッチ 64-65
- ダブルオーバーロック 76

送り長さの変更 36, 37, 39, 40, 69

送り歯

- 位置 30
- 位置上下 146-147
- 下げる 30, 107, 137
- 縫える状態 30
- 布送り 30

押え上げレバー 9, 13, 18, 101

押え圧 29

押え金

- 上げる／下げる 13, 18, 32
- 一覧 10
- 押え圧 29, 34
- ガイド 77
- 画面 34, 146-147
- 交換する 24
- 工場標準設定 28
- 最適な押え金 28
- 選択 28
- 着脱 24
- 取り付け／取り外し 24
- 取り外す 24
- 標準アクセサリ 10
- 表示/押え金選択 146-147
- 保存 28

カ

返し縫いボタン 32

飾り縫い

- 全般 64-65, 188-192
- 一覧 97
- 画面 97
- クロスステッチ 100
- 下糸 102
- ステッチカテゴリー 97
- 選択 97
- テーパーステッチ 98-99
- ピンタック 101

釜カバー 13

画面

- 明るさ 52
- 色の設定 50
- 機能 36-43, 148-152
- 主画面 34-35, 142-147
- スレの調整 52
- 設定 44-56
- 調整 52
- 表示の設定 52
- 編集 146-148

換気口 13

環境保護について 3

キ

記号の説明 8

機能ボタン

- 押え金位置 13, 32, 141
- 返し縫い 13, 32
- 自動糸切り 13, 32, 141
- 自動留め縫いプログラム 13, 33
- スタート/ストップ 13, 32, 141
- スライド スピードコントロール 13, 32, 141
- 針基線 13, 33
- 針停止 13, 32
- 振り幅、送り長さ調節つまみ 13, 33, 141
- プログラム式一模様縫い/留め縫い 13, 32
- 模様頭出し 13, 32

キャリングハンドル 13

キルティング

- BSR を使う 106-110
- ステップリング 105
- 手縫い風キルトステッチ 104
- フリーモーションキルティング 105

キルトステッチ

- 一覧 103
- 飾りキルトステッチ各種 103
- 画面 103
- キルティング、留め縫い 103
- サテンステッチ 103
- ステップリングステッチ 103
- ダブルブランケットステッチ 103
- ダブルブランケットステッチ(上送り) 103
- 直線縫い 103
- 手縫い風キルトステッチ 103
- 手縫い風ステッチ各種 103
- パッチワークステッチ/直線縫い 103
- フェザーステッチ 103
- ブランケットステッチ 103
- ブランケットステッチ(上送り) 103
- まつり縫い(狭い) 103

ク

クリーニング

- 送り歯周辺 181
- 釜剣先 181
- 画面とミシン 181
- 注油 182

クリエイティブコンサルタント

- 一覧 58
- 画面 58
- 推奨 58
- ソーイングテクニック 58
- 閉じる 58
- 布のタイプ 58

ケ

警告音	51
ケーブル	
● 接続	13, 17
● プラグ差込み	17
● 巻き取り	17
言語の選択	51

コ

工場標準設定	
● 糸調子	26
● 押え圧	29
● 刺しゅう機能の設定	44, 48-49
● 設定	53
● ソーイング機能の設定	44, 45-47
後部上糸案内	13, 20
コーナーを縫う	81
コンビモード	
● 一部を移動	43, 123, 127
● 一部、またはすべてを削除	123
● 一覧	123
● 上書き	128
● カーソル位置でのコンビネーションの編集	40
● 画面	40-43
● 機能の説明	40-43
● 繰り返し	42
● 削除	40, 42, 43, 128
● ジャンプステッチ	43, 123
● 修正する	125
● ステッチの移動	43
● ステッチのコンビネーションを作る	122
● ステッチの追加	125
● ステッチの長さを調節	40
● ステッチの編集	125
● ステッチを削除	123
● ステッチを移動	127
● 全体を多方向縫い	127
● 全体を反転	126
● 全体を編集	123
● 多方向縫い	40, 42, 43, 123, 127
● 留め縫い	41
● 長さの調節	42, 125
● バックステップ縫い	40
● バランス	40, 43, 123
● 振り幅の調節	42, 126
● プログラムと保存	122
● 分割 1	126
● 分割 2	126
● 編集	40, 43
● 保存したコンビネーションを開く	124
● 文字のサイズ	40, 43, 123
● 模様反転左右／上下	40, 42, 43, 123
● 連続返し縫い	40
● ロングステッチ (文字は除く)	40, 43, 123

サ

サービスデータ	56
サテンステッチ	76, 103, 135
三本針に糸を掛ける	23

シ

シームリッパー	9, 85
シグナル音	
● BSR	51
● 機能操作	51
● ステッチ選択	51
● 変更する	51
刺しゅう	
● 糸切れ	180
● 刺繍モチーフ	144
● スタート	177
● «スタート/ストップ»ボタンを使う	178
● フットコントローラーを使う	179
● メニュー	152, 178
● 文字	143
刺しゅう糸	
● 下糸	133
● ポリエステル糸	133
● メタリック糸	133
● レーヨン糸	133
刺しゅう押え／刺しゅう針	137
刺しゅう機	
● 一覧	132
● 詳細概観	132
● 詳細表示	132
● 接続	132
● 待機位置	150
● 待機位置	150
● 取り付け	136
● 取り外し	136
刺しゅう機アイコン	
● 送り歯を下げる	137
● «機能»ボタン	141
● 刺しゅう糸	133
● 刺しゅう針	131, 133, 137
● 刺しゅうモードを選ぶ	142
● 準備	137
● 直線縫い/カットワーク用針板	137
● メモリー	172
刺しゅう機能	148-152
刺しゅう機能の設定	
● 糸切り	49
● 刺しゅう枠のズレの調整	48
● 留め縫いをオン／オフにする	49
● 布地の厚さ	49
● 変更	48-49

- 刺しゅう機/ミシン
 - 一覧 12-13
 - クリーニング 181-182
 - 注油 182
 - トラブルシューティング 183-187
 - ミシンの設定 51-53
- 刺しゅう所要時間 161
- 刺繍スピード 141
- 刺しゅうの準備 136-138
- 刺しゅうの部 129-180
- 刺しゅうメニュー
 - 糸切れ 152
 - 色替えの頻度を減少 152
 - 色順のモチーフ 152
 - 色番号 152
 - カラー情報バー 152
 - 刺しゅうメニュー 152
 - 刺しゅう枠を移動 152
 - しつけ縫い 152
 - 選択 152
 - 単色、またはマルチカラーモチーフ 152
 - つなぎステッチをカットする 152
 - 編集画面 146
 - 編集 152
- 刺しゅうモード画面 142
- 刺しゅうモチーフ
 - USBスティックから 142, 145
 - 移動 148-149, 157
 - 糸のブランド切り替え 154, 169
 - 色 169-170
 - 上書き 174
 - 回転 148, 149, 157
 - 確認 160
 - 削除 148-149, 175-176
 - ズーム 148, 161
 - ステッチパターン 142, 144
 - 選択 142, 144, 152
 - 測定/サイズ変更 134
 - 高さや幅の変更 148-149
 - 追加 148
 - 塗りつぶし 152, 170
 - 開く 153
 - 比率を維持してサイズ変更 149, 158
 - 複製 148-149
 - ベルニナ製 142, 144
 - 保存 153, 172
 - 文字列 143, 165-166, 170
 - モチーフの移動表示 148, 161
 - モチーフのサイズとし刺しゅう時間 161
 - モチーフの高さ、または幅を変える 157
 - モチーフの中心 150, 159
 - 模様反転 149, 158
- 刺しゅう枠
 - 移動 150, 152
 - 仮想位置 150
 - 後方に移動 150
 - しつけ縫い 152, 171
 - ズレの調整 48
 - 選択/表示 146-147, 150
 - 選択/画面 150
 - 待機位置 150
 - 中心を決める 138
 - テンプレート 48, 131, 138
 - 取り付け 177
 - 取り外す 177
 - 布地を張る 138
 - モチーフの移動 148
 - モチーフの中心 150
- 刺しゅう枠とモチーフのサイズ確認
 - 編集 148-149
- 刺しゅうを始める 177
- システムの設定
 - eco 13, 34, 62
 - クリエイティブコンサルタント 34, 58
 - 削除設定 34
 - セットアッププログラム 34, 44-56
 - チュートリアル 34, 57
 - ヘルプ 34, 59
 - ホーム 34
- 下糸
 - 糸掛けの方法 21, 137
 - 糸切り 13, 21
 - 飾り縫いステッチ 102
 - 残量 146, 147
 - ソーイング 102
 - ソーイング中に糸巻き 20
 - ダーニング・刺しゅう糸 133
 - 表示 50
 - フリーモーションソーイング 102
 - ポビンの着脱 21
 - ポビン用下糸 133
 - 巻き 20
- 下糸切り 12-13, 21
- 下糸残量 146-147
- しつけ縫い 65, 79
- 実用縫い 64-81, 188
 - 一針直線縫い 65
 - 選ぶ 66
 - 大型フライステッチ 65
 - 画面 64
 - ギャザーステッチ 64
 - 小型フライステッチ 65
 - 三針直線縫い 65

● ジグザグ縫い	64	ステッチの選択	
● しつけ縫い	65, 79	● キャンセル	66
● ジャージーステッチ	64	● ステッチ番号入力	66
● 伸縮直線縫い	64, 70	● 直接式	66
● シンプルダーニングプログラム	65	ステッチの密度を変える	36-37
● スーパーストレッチ縫い	64	ステッチパターン	
● ストレッチオーバーロック	64	● 画面	35
● ストレッチステッチ	65	● 個々に調節	67
● ダブルオーバーロック	64, 76	● 削除	121
● 直線縫い	64, 70	● 選択	35, 66
● つくろい縫い	65, 73-75	● 操作画面	35
● 留め縫いプログラム	64, 79	● パーソナルメモリー	67-68
● トリプルジグザグ縫い	64, 71	● 表示画面	35
● ニットオーバーロック	65	● ベルニナ	144
● 二点ジグザグ	65	● ステッチ番号	66
● ネットステッチ	64	● 直接	66
● パータックプログラム	65	ステッチの調節	
● バリオーバーロック	64	● 送り長さ	69
● ファスナー付け	72	● 振り幅	69
● 補強オーバーロック	65	ステップ(たたみ)ステッチ	168
● 補強ダーニングプログラム	65, 75	スピード	
● まつり縫い	64, 65, 78	● 制御	13, 17, 32, 45, 48, 141
● ユニバーサルステッチ	65	● フットコントローラー	17
● ライクラスステッチ	65	ズレの調整	
● ランニングステッチ	64	● 画面	52
● ロングステッチのトリプル直線縫い	65	● 刺しゅう枠	48
自動ボタンホール押えNo. 3Aの感度調整	54	● 自動ボタンホール押えNo. 3A	54
ジャンプステッチ	43, 123, 135	セ	
主画面	34-35	セキュリティプログラム	
芯入りボタンホール		● 針	27, 146
● 固定する	85	● 針板	27, 146
● 自動ボタンホール押えNo. 3A	85	● 保存	27
● ボタンホール押えNo. 3C	85	セットアップ画面	44
シングルステッチモード	35	セットアッププログラム	44-56
伸縮直線縫い	64, 70	● BSR警告音	51
ス		● 明るさ	52
ズーム		● 糸切り	49
● アップ	148, 161	● 糸切りの後の留め縫いをプログラムする	45
● ダウン	148, 161	● インフォメーション	56
スタート/ストップボタン	32, 141	● ウェルカムメッセージ	50
スティッピング	103, 105	● 上糸テンションの設定	45, 48
ステッチパターン	35, 40, 43, 66, 121	● 押え金ホバーリング位置	46
ステッチタイプ		● 押え金を上げる	46
● アンダーレイステッチ	135	● 画面の一覧	44
● サテンステッチ	135	● 画面の色の設定	50
● ジャンプステッチ	135	● 画面のズレの調整	52
● ステップ(たたみ)ステッチ	135	● 画面表示の設定	52
ステッチタイプの変更		● クリーニング/アップデート	54-55
● 編集	148-149	● 言語の選択	51
		● 工場標準設定	53

● サービスデータ	56	ソーイング機能	
● シグナル音	51	● 糸切り後の留め縫い	45
● 刺しゅう機のアームを収納位置にセットします。	55	● 上糸テンションを調節	45
● 刺しゅう枠のズレの調整	48	● 押え金ホバーリング位置	46
● 刺しゅう機能の設定	48-49	● 押え金を上げる	46
● 自動糸切り	46	● 自動糸切り	46
● 自動留め縫いプログラム	46	● 自動糸切りと留め縫い	46
● 自動ボタンホール押えNo. 3Aの感度調整	54	● 自動留め縫いプログラム	46
● スピードコントロール	45	● ステッチカウント式	37
● センサー機能	50	● ステッチの密度を変える	37
● ソーイングライト	52	● 恒久パーソナルメモリー	37
● ソーイング機能の設定	45-47	● 多方向縫い	37
● 代理店情報	56	● スピードコントロール	45
● 留め縫いをオン/オフにする	49	● パターンの長さの調節	37
● 布地の厚さ	49	● バックステップ縫い	37
● バージョン情報	56	● バランス	37
● パーソナル設定	50	● 針下停止時の押え金の位置	47
● プログラム式«留め縫い»ボタン	47	● 針上下停止	36
● プログラム式«返し縫い»ボタン	47	● プログラム式«機能»ボタン/«機能»アイコン	46
● プログラム式«機能»ボタン/«機能»アイコン	46	● プログラム式«返し縫い»ボタン	47
● ミシンのアップデート	54	● プログラム式«留め縫い»ボタン	47
● ミシンの設定	51-53	● 模様繰り返し	36
● リセット	53	● 模様反転左右/上下	36
センサー機能		● 連続返し縫い	37
● 下糸センサー	50	● ロングステッチ	36
● 上糸センサー	50	● 標準設定のステッチパターン	37
選択		ソフトウェアバージョン	56
● 画面	34-35	夕	
ソ		ダーニングおよび刺しゅう用糸	133
ソーイング		代理店情報	56
● アイレット	96	高さ補正	9, 81, 83
● アクセサリー	9-11	タッチペン	13
● 返し縫い	13, 32, 47	タッチペンホルダー	12-13, 17
● 角の縫い方	81	試し縫い	134
● 機能ボタン	32-33	チ	
● コンビネーション	122-128	チュートリアル	57
● ソーイングテクニック	58	● BSR	57
● ファスナー付け	72	● 糸と糸掛け	57
● 縁かがり	76	● 押え上げ(FHS)	57
● フラット縫い	80	● 押え金	57
● ボタン付け	95	● 画面	57
● ボタンホール	82-94	● キルティング	57
● まつり縫い	64, 78	● 刺しゅう	57
● 文字	113	● 主画面	34, 57
ソーイング機能	36-37	● ソーイングテクニック	57
ソーイングスピード	17, 32, 45	● トラブルシューティング	57
ソーイングテーブル		● 針	57
● 着脱	18, 136	● ボタンホール	57
● 取り外す	18		
● 布ガイド	9, 18		
ソーイングテクニック	58		
ソーイングライト	52		

注油 182

長期メモリー

● ボタンホール 92

直線縫い 64, 70

直線縫い/カットワーク用針板 137

ツ

つくろい縫い

● 自動 74-75
● マニュアル 73

つくろい縫い枠取り付け穴 13

つまみ

● 送り長さ/振幅 13, 33

テ

テーパリング 98-99

● プログラミング 99
● 角度の変更 98
● 戻る 99

電源コード

● 接続 13, 17

電源スイッチ 13, 17

テンション 26, 45, 48

天秤安全カバー 13, 22

天秤カバー 13, 22

ト

トップステッチ

● エッジ 77
● 飾り縫い 77
● 狭い/広い 77

留め縫い 33, 41, 46

トラブルシューティング 183-187

トリプルジグザグ縫い 64, 71

ニ

二本針の糸通し 23

ヌ

布送り

● 送り歯 30

布ガイド

● 案内 9, 18, 77

布地、針、糸 14-16, 133-135

布地のタイプ 58

ハ

パーソナル画面の設定 50

パーソナルプログラム

● 画面の設定 118
● 準備 118, 119
● ステッチの削除 121
● ステッチの準備 118
● ステッチの選択 119
● ステッチの変更/上書き 120

パーソナルメモリー

● 一時的な 67
● 恒久的な 68
● 標準の設定に戻すには 67

はずみ車 13

バランス

● 画面 60
● 実用縫いと飾り縫い 60
● 修正 60, 61
● 標準に戻す 61
● ボタンホール 86
● 用語解説 8
● 横送り機構 60, 61

針

● 上げる/下げる 17, 32, 36
● 一覧 16
● 糸掛けの方法 24
● 針糸通し機 13, 24
● ガイドライン 15
● 基線 13, 33
● 交換する 22
● 刺しゅう針 131, 133, 137
● 挿入/取り除き 22
● ソーイングに関する重要事項 14-16
● 着脱 22
● 停止下/上 13, 32, 33, 36
● 針と糸と布地 14
● 針と糸のコンビネーション 15
● 取り外す 22
● 二本、三本針 16, 23
● 針と糸の組み合わせ 15
●ホルダー 13

針板			
● 取り外す	25		
● ガイド線	25		
● 着脱	25		
針基線	33		
ヒ			
標準アクセサリ	9-11, 131		
フ			
ファスナーを縫いつける	72		
不均一な表面での高さ調節に 縁かがり縫い	83 76		
縁周りのトップステッチ	77		
フットコントローラー	13, 17		
ヘ			
ヘアロームボタンホール	82, 91		
ベルニナデュアルフィード	111-112		
ヘルププログラム	59		
ホ			
補強材料	81, 83		
保存			
● 押え圧	29		
● 刺しゅうモチーフ	172		
● ステッチコンビネーション	122		
● ステッチパターン	118-119		
ボタンホール			
● 5-ステップ、マニュアル式	94		
● 7-ステップ、マニュアル式	94		
● アイレット	82, 96		
● 穴あけ	85		
● 穴の幅	38, 83		
● 安定紙と芯地	84		
● 一覧	82, 188		
● 送りサポート	83		
● 飾りはと目ボタンホール (水平バータック付)	82		
● 飾りボタンホール (ダブルポイントバータック付)	82		
● 画面	38, 82		
● 恒久メモリー	92-93		
● 自動	87-89		
● 自動ボタンホール押えNo. 3A	85-91		
● 自動ラウンド、はと目ボタンホール	89		
● 重要事項	83		
● 印し付け	83		
● 芯入り	85		
● ステッチカウント式	38, 91		
● ステッチの長さを調節	83		
● 恒久パーソナルメモリー	38		
● ストレッチボタンホール	82		
● 高さ補正	83		
● 試めし縫い	83		
● 直線ボタンホール	82		
● 長さ直接入力	88		
● 長さの調節	38		
● バックステップ縫い	38		
● はと目ボタンホール	82		
● はと目ボタンホール (水平バータック付)	82		
● はと目ボタンホール (ポイントバータック付)	82		
● 幅の狭いボタンホール	82		
● 幅の小さいダブルポイントバータック付	82		
● バランス	38, 86		
● 標準と伸縮ボタンホール	87		
● 標準設定ステッチパターン	38		
● 標準ボタンホール	82		
● 複製	89		
● プログラム式	87-91		
● ヘアロームボタンホール	82, 91		
● ボタン付けプログラム	82, 95		
● マニュアル式	38, 94		
● ラウンドボタンホール (水平バータック付)	82		
● ラウンドボタンホール (標準バータック付)	82		
ボタンホール機能	38		
ボタンホール用芯地	84		
ボタン付けプログラム	82, 95		
ボビン	11, 21		
ボビンケース	21		
メ			
メニュー選択			
● 画面	34		
メニュー選択画面			
● 飾り縫い	34		
● 実用縫い	34		
● ステッチ番号数字入力	34		
● パーソナルプログラム／メモリー	34		
● ボタンホール	34		
● 文字	34		
目盛り	150, 159		
メモリー			
● 刺しゅう機アイコン	172		
● ミシン	122-128		

モ**文字**

- 一覧 113, 143
- 大きさ 39
- 大文字/小文字 40, 115
- 送り長さを変更 39
- 画面 34, 39, 66, 113
- 完璧なステッチを縫うには 113
- 機能 39
- 機能 39, 115
- 組み合わせる 114
- 組み合わせ 114
- 組み合わせたステッチ/文字を訂正するには 114, 115
- 小文字を選ぶ 115
- サイズの変更 115, 123
- 削除する 114
- 刺しゅう画面 143
- 主画面/メニューの選択 34
- 種類 113, 143
- 恒久パーソナルメモリー 39
- 全般 113, 143, 193-198, 209
- 選択する 113, 143
- タイプ 113, 143
- 多方向縫い 39
- 訂正 155
- バックステップ 39
- バランス 39
- 反転左右/上下 39
- 標準設定のステッチパターン 39
- 変更 148-149
- 文字列 113
- サイズを変える 115
- モノグラム 116-117, 198
- 繰り返し 39
- 連続返し縫い 39

モチーフの色

- 糸のブランドの切り替え 169
- 単色で刺しゅう 170
- 配色の変更 169

モチーフの中心

- 編集 150

模様頭出し

13, 32

模様繰り返し

36, 39

模様反転左右・上下

- 編集 148-149

模様反転

- 左/右/下/上 36, 39, 40, 42, 43, 123, 126, 148, 149, 158

ユ**ユーザーデータ**

53

ヨ**用語解説**

8

横送り機能

116, 117, 188-191

リ**リセット**

53

履歴

66, 128

レ**連続返し縫い**

36, 37, 39, 40

ロ**ロングステッチ**

36, 40, 43



メモ

A series of horizontal lines for writing, consisting of 24 lines.

印刷

テキスト

Herbert Stolz/Susanne Ribl

グラフィック

www.sculpt.ch

写真撮影

Patrice Heilmann, CH-Winterthur

タイプセッティング、レイアウト

Susanne Ribl

版權

2012 ベルニナインターナショナル株式会社, シュテックボーン、スイス